The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	鶴林寺文書および史料目録
Author(s)	大阪大学文学部国史研究室
Citation	大阪大学文学部紀要. 1980, 20, p. 184-279
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/4674
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

鶴林寺文書および史料目録

大阪大学文学部国史研究室

一

刀田山鶴林寺は、兵庫県加古川市加古川町北在家にある天台宗の古刹である。

寺伝によれば、当寺は用明天皇二年、聖徳太子が秦河勝に命じて三間四面の精舎を建て、四天王寺聖霊院と称したのにはじまり、養老二年（七一八）には寺域を拡張し堂塔を整えて刀田山四天王寺と号したという。史料上の典拠としては、天平十九年（七四七）二月十一日の法隆寺伽藍縁起幷流記資財帳（大日本古文書二―六一八頁）に「合庄庄倉捌拾肆口　屋壹佰拾壹口」のうち播磨國に「加古郡一處」とあり、さらに天平宝字五年（七六一）十月一日の法隆寺縁起資財帳（大日本古文書四―五一八頁）に、墾田地のうちに「播磨國賀古郡一百町開田十五町四段未開八十四町六段　講法花経料」とあるのが、寺地に関連があるだろうと説く見解もある。さらに仁寿二年（八五二）、円仁によって諸堂の修理が行なわれて、それまでの法相宗を改めて天台宗となり、さらに鳥羽天皇のとき勅願寺となって、現在重要文化財に指定されている「鶴林寺」の扁額を賜わったと、伝える。この草創以来の古代の寺史については、確証を欠くのを遺憾とするが、国宝の太子堂・本堂や重要文化財指定の常行堂をはじめとする多数の文化財からみて、当寺が平安後期にはかなりの壮観を呈していたことは、明らかである。

中世、播磨の諸寺院は、度重なる戦乱のなかで罹災・隆替を免れなかったが、鶴林寺はその数百年間も往時の重要な堂塔を維持して、近世に及んだ。けだしそれは、天台浄土教と聖徳太子信仰によって、当地方一帯の崇仰をあつめ、農村の日常の生活文化に深く結びついていたからであろう。現蔵の諸史料によっても、少くとも中世後期には、近隣の村落住民や地方豪族とそれぞれに深いかかわりをもちながら、若干の寺領とあまたの塔頭を擁して、繁栄していたことがうかがわれる。

鶴林寺には、江戸後期においてもなお塔頭八ヵ院があったが、明治になりその多くが廃絶し、現在は三ヵ院をとどめるだけである。けれども、なお当地方最古の霊刹として、堂塔には往時の盛況の名残りをただよわせているのである。

二

当寺には、国指定の文化財として、国宝建造物二、重要文化財の建築・絵画・彫刻・工芸品など一六、重要美術品二があり、いずれも室町期以前のものである。そしてその他未指定のものを含めて、多数の文化財が伝えられており、調査や修理もすでにいくども行なわれて、美術史家にはとりわけ著名である。けれども、それに比して古文書・古記録の類は、中世前期以前のものはほとんど失われており、中世後

期のものも伽藍の遺構の秀麗と盛大に比べて、きわめて乏しいといわねばならない。しかし、戦国期から江戸初期にいたる数冊の寺領田目録の類には、かつての当寺と近辺村落との関係を分析する手がかりになる記載があり、中世地方寺院を支える社会的基盤を知る上に、注目すべきものがある。われわれが当寺の中世史料および史料目録の公刊におもいいたった主たる理由も、ここにあった。

三

鶴林寺の文献史料については、すでに明治初年に文書・記録類の整理がなされて、大部分について一点ごとの番号も付されており、また太平洋戦争後、東郷松郎氏および井上孝治氏によってその目録と中世文書の読み本もいちおう作成されている。

大阪大学文学部国史研究室では、一九七五年七月にはじめて寺宝・古文書類の拝観を許されて以後、同年十月八日、七八年十一月二十二日、同十二月二十日、七九年三月十三日、同六月十一日、八〇年二月三日、同十日の計八回にわたり、黒田を中心として、井上寛司・薮田貫・笠井純一・今井修平・林文理・大石雅章・村田路人・辻博之・志賀節子・山本真吾・川岡勉・寺脇恵その他が当寺を訪れて、写真撮影・目録作成・読み本作成などの作業をすすめた。ここに紹介するのは、それら諸君の協力によってできた成果のうち、中世の文書（木札の禁制を含む）・棟札・銘文類と、中世・近世の史料目録である。その作成要領については、それぞれ別に凡例に示したが、総じて既存の分類と整理番号を尊重することを、原則とした。また、研究者の参考のため、信仰に関係ある若干の史料と近世の寺域近辺図を付加した。

原稿の作成は、全体としては黒田の責任のもとで行なわれたが、とくに料田目録など冊子と〔参考〕の諸史料および史料目録については、笠井・村田・志賀の尽力によるものであることを、付言しておきたい。

この史料紹介は、はじめ一、二年のうちにすまされるはずであったが、諸々の事情で数年にわたる緩慢な作業になり、鶴林寺当局に対しても数々の御迷惑をかけることになってしまった。ここに末尾ながら、数年にわたり変らぬ教示と配慮をたまわった鶴林寺長吏幹覚盛師に、厚く御礼申し上げる次第である。

（黒田　俊雄）

鶴林寺文書

凡例

一　鶴林寺に所蔵する文書・記録・木札・棟札・銘文などのうち、中世および慶長以前のもの（それに近いものも含む）を収めた。

一　全体を、イ　文書（文書のほか木札の禁制を含む）、ロ　料田目録（寺領田畠の料田目録・検地帳・名寄帳など）、ハ　棟札・銘文、の三部とし他に参考史料を加えた。

一　いずれも年代順に配列し、年不明のものは、一括して便宜月日順にして末尾においた。

一　文書名などの下の（　）のなかに、文書については現在文書に付されている整理番号を、塔頭文書・木札・棟札・銘文については今回作製した史料目録の番号を示した。

一　イ　文書　については原本の行のかわり目ごとに　」　をつけ、ロ　料田目録　については原本に従って改行し丁の表裏ごとに　」　で示し、ハ　棟札・銘文　については原則として原本にしたがって改行したが、長大なものについては上下二つに分けてかかげ、つなぎ目を＊で示した。

一　ロ　料田目録　の諸帳には、後世の多くの貼紙が付されているが、かなり欠落もみられる。幸いにすべてに原初の記載を読みとることができたので、ここでは原初の記載をすべて掲げ、貼紙の現存するものはこれを『　』のなかに記し、その位置を＊で示した。貼紙の上に加えられた貼紙は＜　＞のなかに記した。

一　文字の擦消し・墨消しで原初の記載を判読しうるものには〻の符号を付して記し、判読できないものは字数を推して▨または▨で示した。但し▨は印刷の都合上、▨▨▨で示した。抹消した上に加えられた新たな文字は〔　〕のなかに記した。

一　字体はできるだけ原文に従ったが、わずかな異体は通常のものにあわせた。

一　異筆は「　」で、朱書は≪　≫で示した。

一　花押の所在は（花押）で示して番号を付し、その原形は一括して最後に掲げた。

一　とくに注記を要する場合は、◇で示した。

一　その他については一般の例から適当に類推されたい。

イ　文　書

一　大法師某・左衛門尉平某浮免寄進状　（一）

（端裏書）
「大講堂六禅衆供田御下知状」
（花押）[1]

寄進　鶴林寺

大講堂六禅衆供新米浮免参町事

右當寺本願行基菩薩、為鎮護」國家為群生利益、手自刻彫」薬師尊像、雖奉安置於當堂、」依無佛性燈油、無香華燈明」備、然間且奉為國家泰平」且為済度利生、所令寄進三」町浮免也、以之如形為新米、修法」勤行不可有怠曼之状、如件

文永五年戊辰十月五日　　大法師（花押）[2]
左衛門尉平（花押）[3]

二　長田三郎景資仏像・下地寄進状　（二）

奉寄進佛并下地事

合十一面観音壱躰
下地壱段　在所今福庄公文分内トイツメ

右為源忠禅門後生菩提」鶴林寺江永代奉寄進處也、然者」毎月五日可預御廻向候、如此申定候上」者、於此下地親類況不可有他人妨候、」殊為名田余地間、不可有万雑公事、」仍為後日、永代寄進状如件

文明拾五年癸卯十二月五日　　長田三郎景資（花押）[4]

三　山名政豊禁制（木札）　（三）

禁制　青蓮院領賀古庄

右軍勢甲乙人等濫妨狼籍事」堅令停止之訖、若有違犯之輩者、可」處厳科者也、仍下知如件

文明十六年八月　日　　（山名政豊）（花押）[5]

四　塩田有政大般若経寄進状　（四）

（包紙上書）
「鶴林寺
大般若寄進状　賀古河塩田有政」

奉寄進大般若經之事

合壹部

右大般若者、播州印南郡賀南」條之内宿村塩田為先祖菩提惣而」部類眷属現世安穏後生善處、直銭」貳拾貫文買取、刀田山鶴林寺所奉」寄進実也、毎座御轉讀之時者、奉」馮二世悉地成就御祈念者也、仍」自他所願皆令満足、故所奉寄進」之状如件

文明拾九年丁未卯月十二日　　賀古河塩田有政（花押）[6]

（裏書）

于時執筆云

余施主之御志難有存間、如此令申候、

夫般若之功徳甚深廣大也事、仏モ不説盡給、」謂非凡夫之識智所、乍去一言之大綱ヲ申ニ般」若者三世諸仏之智恵母共十方薩埵之方便」之父共説玉ヘリ、然則四禅八定之冥衆振ハ般若ノ」劔ヲ速害煩悩之怨敵ヲ或四海八海之龍神」龍王モ捧テ智恵ノ鉾ヲ摧クト悪業ノ盤石ヲ云リ故須臾モ」聞此法輩ハ除灾難、刹那モ歸依スル此經ヲ者、誇」快樂、依之一所之文云

般若第一經　此經結縁者　雖有重業障　必當得作佛

説玉ヘリ、可仰〻〻可信〻〻、何ナレハ一紙半銭之微少善根サヘ仏不捨」給、況大般若壱部寄進、誠以功徳莫大也、定而知施主」之懇祈、叶薬師擁護、守護上宮太子モ檀那志給者也、」浦山敷〻〻可貴〻〻

同時筆者記之

五　鶴林寺聖靈會々式（折紙）　（五）

播州鶴林寺

聖靈會々式

先集會乱聲

御迎　慶雲樂奏

摺鉾　三節

蘓利古

登高座　廻坏樂奏

供華　十天樂奏

菩薩　師子

唄師　河水樂奏

散花　承和樂奏

大行道　鳥向樂奏

讃衆　白柱奏

法用舞　万歳樂

梵音出

法用舞　延喜樂

錫杖出　入樂

下高座　長慶子

入調舞

安摩　二舞

左　右

蘓合　右鳥蘓

甘州　林哥

太平樂　狛桙

陵王　納曽利
還城樂
抜頭
採桑老　新靺鞨
陪臚右左
明應二二年乙卯
二月九日

六　津田家職折紙　（六）

於當寺乱妨」狼籍事、堅被」制止之条、自」然号足軽非」分申懸族在之者」、依交名注進可」預罪科之由候也

天文拾
二月三日　石見守
家職（津田カ）（花押）7

刀田山
衆徒御中

七　安宅冬康禁制（木札）　（七）

禁制　刀田寺

一　当手軍勢甲乙人濫妨狼籍事
一　伐採竹木事　付放火事
一　相懸矢銭兵粮米事

右条々堅令停止訖、若違犯輩者」可處厳科者也、仍下知如件

天文廿三年十一月四日　攝津守（安宅冬康）桶（花押）8

八　聖護院准三宮御教書　（宝一）

（包紙上書）
「宝生院御房　法印□信」

今度當山御入寺之處、依」馳走被稱院号之條、宜被」存知其旨由、聖護院准三宮」御気色所候也、仍執達如件

永祿四年潤三月廿四日　法印（花押）9
治部少輔（花押）10

宝生院御房

九　池田勝正禁制　（八）

禁制　幡（マヽ）州刀田山并境内

一　當手軍勢甲乙人濫妨狼藉之事
一　陣取之事付放火之事
一　剪採竹木之事

右條々堅令停止訖、若於違犯之」輩者、速可處厳科者也、仍如件

永祿拾貳正月日　筑後守（池田勝正）（花押）11

一〇　池田勝正禁制写（木札）　（八―一）

禁制　（マヽ）幡州刀田山并境内

一　當手軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一　陣取之事付放火之事

一　剪採竹木之事

右條々堅令停止訖、若於違犯之」輩者、速可處嚴科者也、仍如件

永禄拾貳正月　日　　筑後守判

一一　織田信長禁制朱印状　（九）

禁制　刀田山鶴林寺

一　軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一　陣取放火之事

一　山林伐採竹木之事

右条々於違背之輩者、速可処厳」科者也、仍執達如件

永禄十二年三月　日　　（織田信長）弾正忠（「天下布武」）（朱印）

一二　織田信長禁制写（木札）　（九―一）

禁制　刀田山鶴林寺

一　軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一　陣取放火之事

一　山林伐採竹木之事

右条々於違背之輩者、速可處」厳科者也、仍執達如件

永禄拾二年三月　日　　信長朱印

一三　某禁制写（木札）　（九―二）

禁制　刀田山鶴林寺

一　軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一　陣取放火之事

一　山林伐採竹木之事

右条々於違背之輩者、速可処厳科者也」仍執達如件

天正六年三月　日　　御朱印　在之

◇最後の日付以下の一行は異筆とみられる。本文文面からみて、永禄十二年三月の織田信長禁制の写であろう。

一四　織田信長禁制写（木札）　（一〇）

御　掟　幡州賀古庄

一　守護不入之事

一　庄内寺庵侍名主百姓等、他之号家礼族」堅停止之事

一　庄内闕所検断跡職成敗等、可為本所次第事

一　矢銭兵粮陣取寄宿國役等、堅停止之事

一　對本所違乱輩於有之者、不及理為本所」可被成敗事

右条〻被成　御下知被定置上者、堅可被」申付者也、仍執達如件

永禄十二年十月十四日　織田弾正忠　信長　朱印

祐乗坊

一五　羽柴秀吉禁制　（一二）

禁制　戸田

一　軍勢甲乙人乱妨狼籍事

一　伐採竹木事　付放火事

一　田畠苅取事

右条〻堅令停止訖、若於」令違背輩者、速可處」罪科者也、仍如件

天正六年三月廿五日　（羽柴秀吉）筑前守（花押）[12]

一六　羽柴秀吉禁制写（木札）　（一二一一）

禁制　刀田山

一　軍勢甲乙人乱妨狼籍事

一　伐採竹木事　付放火事

一　田畠苅取事

右条〻堅令停止訖、若於令」違背輩者、速可處罪科者也、」、仍如件

天正六年三月廿五日　筑前守御判在

一七　豊臣秀吉禁制写（木札）　（一二一二）

禁制　刀田山

一　軍勢甲乙人乱妨狼籍事

一　伐採竹木事　附　放火事

一　陣取之事

右条〻堅令停止訖、若於令」違背輩者、速可處罪科者也、」仍如件

大閤様　御朱印在

◇年月日を欠く。第三条の文言が異なるが、天正六年三月二十五日の羽柴秀吉禁制をもとに作製したものともみられる。

一八　信直禁制　（一一）

禁制　刀田山鶴林寺

一　當手軍勢甲乙人濫妨狼」藉之事

一　陣取放火之支

一　山林伐採竹木之事

右条〻於違背之輩者、速」可処厳科者也、仍如件

天正六五月十七日　信直（花押）[13]

一九　某禁制　（一三）

禁制　刀田山鶴林寺

一　軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一　陣取放火之事

一　山林伐採竹木之事

右条々若於違背之輩者、」速可處嚴科者也、仍下知」如件

天正六年六月　日　（織田信忠カ）（花押）[14]

二〇　羽柴秀吉判物　（一四）

以當郡内貳百」石付置之候、被」得其意、為惣山」全可有寺納」者也、

仍如件

天正八九月朔日　羽柴藤吉郎秀吉（花押）[15]

刀田山

二一　実善書状（折紙）　（一五）

上之宮之河成事、」寄進之處、返作候て」誰々（カ）ニも可被遣候、於」後

日不可有違乱妨」者也、恐々頓首

天正十正月廿日　浄教坊（カ）実善（花押）[16]

刀田山
行事御坊
御同宿中

二二　鶴林寺衆議掟状　（三一）

掟状之事

一　元日之出仕不可欠事、并」八日之出仕同前之事

一　二月十五日不参之事

一　同廿二日之事

右定條々於相背者」不可同座候、仍衆儀如件

慶長三戊年
十月十日吉々

慶順（花押）[17]
慶意（花押）[18]
尊秀（花押）[19]
舜秀（花押）[20]
舜慶（花押）[21]

二三　松平玄隆折紙　（三二）

（包紙上書）「松平武蔵守殿折紙一通」

為寺領刀田村」内百石坊屋敷分」拾七石三斗四升、令」寄附早、全」

可有寺納者也、仍」如件

慶長十八
十二月廿五日　　松平武蔵守
鶴林寺　　玄隆（池田利隆）（花押）[22]

二四　小寺祐隆書状（折紙）　（二〇）

去三月貴山」聖徳太子武運」委願頼及之處、御加護」以今度豊前中津領」被宛行之段、過分」至極候、仍而直銭」千貫文捧之条」武運長久之御祈願」永頼及候也

正月廿二日　　小寺官兵衛
戸田学侶　　祐隆（花押）[23]

二五　元長折紙　（二一五）

播州賀古庄鶴林寺」段銭臨時課役諸公」事、自先規勅免」之地云々、所詮任」先例之旨、諸役等」被免除訖、然者」勤行無懈怠、可」被抽懇祈者也、」仍執達如件

二月十二日　　元長（花押）[24]

二六　小田盛次書状（折紙）　（二一八）

猶〻申候、長井分者」壱石六斗にて候、」其分御心得可有、」此外不申候

御折紙拝見申候、」仍明日御参宮之由」承候、目出度存候、」次ニ此方之升にて渡申」候へハ壱石ニ壱斗四升宛」之延にて候、其分成とも」可渡上候、馮其儀相」違候ハ者、則今日中に」其方之升御持候て可給候、」委細者此使者可申候、」恐々謹言

三月二日　　小田盛次（花押）[25]

刀田
常楽坊まいる　御宿所

二七　増田長盛書状（折紙）　（二一九）

当寺領之事、」去年分之儀者」貳百石之通被」仰付候、然者」其段御代官衆」へも重疊申」理候、高領貳」百石之分ニ」御給人衆なミの」物成御請取」有へく候、恐々」謹言

三月三日　　増仁右長盛（花押）[26]

刀田行事坊
御坊中

二八　泰興書状（折紙）　（一二六）

於刀田寺合戦刻」為　太子御神馬」料、毎年五石宛」賀古庄以年貢」米内、被仰付候処（カ）、」遅（カ）々遍被歎申候、不」可然候、速可被渡付」由被仰出候、恐々謹言

六月廿三日　泰興（花押）[27]

津田石見入道殿

二九　梶原景□書状　（一八）

（端裏書）

「越生神兵衛尉殿
同三郎左衛門尉入道殿御宿所
庄内年寄中」

梶原平右
景」

刀田山寺領内溝之儀、越生方」両人庄内百姓中之懸止」御板、長田村不謂儀仕候付而」、御存分雖在之、我等罷出様躰」申候處、御同心祝着申候、然者」彼在所曲事由申聞候處ニ、」於向後彼溝之儀、其煩有間」敷通（マヽ）申候、為御心得一筆申入候、」恐々謹言

六月廿六日　景（花押）[28]

越生神兵衛尉殿

同三郎左衛門尉入道殿　御宿所

庄内年寄中

三〇　某書状　（二七）

就當寺之儀」新元罷上被」申候之間、得其」意得（マヽ）候事候、」恐々謹言

七月廿二日　□（花押）[29]

刀田寺
衆徒御中

三一　梶井宮令旨　（二四）

（包紙上書）

「刀田山鶴林寺学侶御中　法印任□」

本疏全部本院八部尾江」寄進事、當時希有之」懇志台宗本意之紹隆」併学道之洪基不可過之、猶」慈光院可為衆洩（マヽ）者」梶井宮御気色所也（候脱カ）、仍執達」如件

七月廿七日　法印（花押）[30]

刀田山
鶴林寺学侶御中

三二　杉原家次書状（折紙）　（二一）

尚〻各〻」可為御満足候」、於我等大慶候

急度申入候」、仍而其方御」寺領之儀秀吉江」申上候て、前〻ゟ」たい子へ何程又」寺僧衆へ二反」なミの通申上候へハ」けつくそれゟ」

過分ニ御きしん」可被成旨候間」被得其意候て」尤候、然共御判」迄取候て可遣候間」御礼之御用意」尤候、未おんミツ」にて候へハ先〻御たる」の御用意させ可」申と存候て申」入事候、万〻可為」御満足候、恐々謹言

杉原七郎左衛門
八月廿九日　家次（花押）[31]
戸田寺御中

小山三郎兵衛尉殿
菅野宗左衛門尉殿
粟津備中守殿
戸田三郎左衛門尉殿

三三　政宗書状案（折紙）　（二二）

案文

刀田寺事、号徳」政近邊郷人等可取」懸之遍其聞候、彼」寺之儀自先〻徳政」法被差除云々、殊更」就此方存来、別而」太子致敬信事之条」無己六儀之様可被申」付之旨、三木明石へも」申理候、於其上自」然之儀候者、各罷出」被相支様躰可有」注進候、恐々謹言

十月十日　政宗在判
梶原駿河守殿
越生甚兵衛尉殿
舟橋四郎次郎殿
越生三郎左衛門尉殿
菅野菅右衛門尉殿

三四　豊臣秀吉朱印状　（二三）

祈祷之巻數」并杉原二十」帖到来、悦」思食候、猶帥」法印可申候也

十月十五日（豊臣秀吉朱印）
播州
刀田寺

三五　黒田職隆書状（折紙）　（一九）

五ケ条之儀」被仰越様躰」両人則職へ被」申知候、先〻筋目」不可有別之内存候、」相障事無之候、」第一南大門」事先規之躰」聊無別心之間」可御心安候、免許」出入之儀者、代官」衆何とそ可申」談之由候間、彼」以扱之上、御談合」可然存候、恐惶謹言

黒田兵庫助
十一月二日　職隆（花押）[32]
刀田山
行事坊　参る　御同宿中

三六　赤松政村書状　（一六）

（包紙上書）「刀田山衆徒　政村」

昨日合戦得大利之段、大慶候、」併依祈念如此候、仍神馬一」疋令進覧候、弥可被抽懇」祈事、頼入候、猶不動院」可被申候、恐々謹言

十一月十三日　（赤松）政村（花押）[33]

刀田山
衆徒中

正住坊
持従公
御両所

十二月十二日

三七　角田佐家・浦上国秀連署折紙　（一七）

當寺信貴講」頼子事、従」先々徳政御免」除之上者、今以」不可有其煩候、」若違乱之族」候者、可被處罪」科之由候、恐々」謹言

十二月十二日

角田備中守
佐家（花押）[34]

浦上近江守
國秀（花押）[35]

刀田山
御衆徒中

中甚兵衛尉
春安（花押）[36]

下村喜左衛門尉
久次（花押）[37]

三八　中春安・下村久次連署書状（折紙）　（三〇）

今度色々被仰分ニ」付、御樽代相済」申候、則三四松引（方）（方）」折帋相調可」申候条、可被成其」意候、恐々謹言

口　料田目録

一　鶴林寺寺料田惣目録　（冊一）

（表紙）
鶴林寺々新田惣目□（録）

鶴林寺々領田目録　永正十二年乙亥八月日

合

理趣三昧　肆町伍段
法華三昧　参町玖段
月講田　壹町貳段
已上玖町六段

一勧請神田　参町　塔田　参町
聖霊院修理田　貳町六段　四王供田　壹町貳段

八講田　壹町六段
大寺　八段
長講田　四段
大師供田　四段
六月會田　四段
舎利講田　貳段廿
安居供田　卅
御佛供田　陸段
燈油田　壹町二段
薬師佛餉田　壹段
常行堂佛餉田　壹段
佛生會田　参段
宮仁王供田　貳段
山王田　参段

已上貳拾壹町貳段卅五

一指坪名々　別紙有之

已上拾町卅代十八歩内定五斗代分米五十石三斗二升五合
損米拾七石一斗一升一合三夕

大般若田　壹町四段
年頭　六段
彼岸田　四段
常楽會田　壹段
承仕給田　貳段
上分田　卅五
法花経田　貳段
佛名田　参段
宮大般若田　五段
聖霊院仏餉田　壹段
元節供田　参段
恩損田　貳段
宮仁王供田円慶寄進　貳段
宮仁王供田　貳段

御仏供田　七反廿五　彼岸田　一反
同御仏供田　七反　大乗経田　一反廿
安居供田　一反廿

残定米
卅三石二斗壱升四合五夕

右於田地所當米者毎年除水旱風之損亡之地撰定熟田名々之内認指出状渡本所代官方仁令収取早然間名々（別紙毎年記之）往古之例雖為五斗代依有損亡之煩名主沙汰人百姓中評儀而近年以来三斗三升宛定置之上者盡未来際不可有相違者也於此田地者土米公事銭本所而被免除之旁以異于他下地也仍掟状之旨如斯

年号月日

両堂三昧供新田
六町四段内　九反　五丁五反　上二人（未）未十人

惣別田数
拾六町四段卅代十八歩

一承仕散田
合
一所二反十五内（七斗五升代　在所留田　「一反源五郎」）（一石一斗五升）　北彦四郎　一所卅代（同上　在所ハヤ　四斗）　宝生坊

同一所一反十（在所石町　六斗）　北五郎衛門
同一所一反卅内（在所ミマタ　卅四斗　卅四斗）　慶門坊　如実相坊
同一所一反（在所石町　五斗）　北〔助〕■衛門
同一所卅代（ハツヘ　四斗）　北三郎衛門
同一所卅代（橋崎　四斗）　長田九郎兵衛
同一所三反内卅代（北山崎　卅代　四斗　卅代　四斗）　口里大郎衛門　同二郎大夫　長田衛門三郎　一反廿七斗
同一所五代（大サ　五升）　奥坊
同一所一反（宮北　五斗）　〔少納言〕安田村
同一所一反十五（小川原　六斗五升）　持禅坊
同一所一反廿五代（橋崎　七斗五升）〈三郎衛門（長田）「実蔵坊々領」〉
同一所一反（ハケンキヤウ　此内五代不細田　四斗■升）　中方
同一所十五（濱口　一斗五升）　長田九郎衛門

同一所二反（在所留田　一石）　北（カ）助衛門
◇（助衛門の上に貼紙をして、五□・助衛門と記したあとがある。）
同一所卅代（留田　四斗）　北正慶
一所二反十（留田　粟津定阿弥分　一石一斗）　長砂〔兵衛〕三郎■■
同一所廿五（荒木前　二斗五升）　長田九郎衛門
同一所一反廿五内（濱口　一反　五斗　廿五　二斗五升　長田二郎兵衛　同四郎大夫）
同一所廿代（橋崎　二斗）　多門坊
同一所一反（宮北　五斗）　多門坊
同一所廿代（濱口　二斗）　口里京万大夫
同一所十代（坊領闕　一斗）　龍象坊
同一所十代（坊領闕　一斗）　禅林坊
同一所卅代（中安田堂前　三斗）　■田〔侍従公〕■■■
同一所一反（ハヤ　五斗）　北三郎衛門

同一所一反　橋崎　五斗　長田　大郎左衛門

同一所二反五内「西城坊々領」一反卅八斗　番匠田　柱カ坪　廿五　二斗五升　長田　同　馬大夫　五郎四郎

七斗代一所二反　在所中村　一石　坂本　助衛門

同一所一反廿五内　木守　廿五　一反　五斗　二斗五升　奥坊　弁才坊

同一所一反十　石町　六斗　坂本　浄金　五郎大夫

六斗五升代一所一反　宮北　五斗　多門坊

同一所一反　石町　五斗　〔如意坊〕　北〔実相坊〕〔　　〕門

同一所一反卅内　ヒラ田　一反　五斗　渡元有　細田　卅代三斗　同　衛門大郎　大夫次郎

同一所一反廿五代内　坊垣内　廿五代　一反　二斗五升　北　東禅坊　五斗　四郎兵衛

同一所三反内　石町　二反　一石　北　三郎衛門　一反　五斗　〔同孫衛門坂元〕〔　　〕

同一所一反卅内　一反　五斗　〔北侍従公〕〔　　〕郎　卅代三斗　安田〔侍従公〕〔　　〕郎

同一所五代　五升　坊領闕　常楽坊

同一所一反廿　番匠田　七斗　弁財坊

同一所二反卅五内　大田寺前　一反五　五斗五升　一反卅　八斗　円満坊　〔円満坊〕

同一所二反　サラ池ノ尻　一石　長砂　三郎兵衛

同一所一反十五　宮東　六斗五升　新野邊　助左衛門

同一所廿代　安田前　二斗　浄音

同一所廿五代　ハツヘ　二斗五升　北　彦四郎

同一所二反内　石町　一反　五斗　坂元　一反　五斗　北　助衛門　五郎衛門

一所卅代　石町　五　四斗五升　〔侍従公〕〔　　〕

同一所二反　ミマタ　一石　奥坊

同一所一反　石町　五斗　持禅坊

同一所十八歩　二升五合　千蔵坊

同一所一反　中村北　五斗　坂本　九郎衛門

同一所三反廿内　カナカ坪　二反十　一石一斗　龍象坊　一反十　六斗　口里　二郎衛門

同一所廿五代　安田前　安田　二斗五升　二郎大夫

同一所一反卅「内」　ヒラ田　八斗　北　新衛門　卅代八　同又二郎

同一所卅代内　大塚本　十代否　二斗　細田渡本有　中方

〃一所二反　一石　〃必定坊々領

同一所廿代　中村北　二斗　坂元　助衛門

同一所二反五代　安田前　一反　一石五升　一反五　安田三郎五郎　〔谷之坊〕〔　　〕坊

同一所十五代　坊領闕　壱斗五升　西明坊

同一所一反　西圓坊前　五斗　買下地　東禅坊

同一所一反　留田　五斗　北　新衛門

一所二反　一石　常楽坊々領

一所二反　一石　弥勒坊々領

一除

一所三反内二反　一反　唄師　承仕給

一所六反　御仏供田

一所一反　行事田

一所卅五代　濱成

一所一反　山王敷

一所一反卅　承仕給

一所卅代　門敷

一所一反廿五代　房敷

一所廿五代　古不

一所十代　堀林

一所二反　南大門屋敷替地　在所サイミ塚　小山方
四町貳反　坊領
一同所廿五　円満坊
一同所廿五　奥坊
一所廿五内　承仕給分　十五代　十代
巳上拾四町壱段卌五代十八歩内
除　陸町四段卅五代
残定田　柒町七反十代十八歩
定米　参拾〔六〕石四斗七升五合　貳
一寄進散田
合一所一段［illegible］龍象坊
一所一反十五代　七斗五升代　在所小川原　地頭一分方〔北東禅坊〕
一所一反　地頭方寄進　北〔侍従公〕［illegible］衛門　但定四斗三升七合五夕
一所三反内　長田庄公文寄進　二反一石　円満坊　一反　北〔五郎左衛門〕五斗［illegible］
一所三反　浦上美作守寄進　篠原村徳丸名　六斗代　一石四斗四升寺升定　内
一所一反　菅野方新寄進　弁財坊　五斗

一所一反　常行堂　酒田
一所廿五　坊敷畠替地　安楽坊
一同所廿五　東禅坊
一同所廿五　以上坊敷之内　安田次郎大夫
一同所廿五
一同所一反　細田南　地頭分〔西明坊〕左衛門方　五斗
一所一反　公文寄進〔千蔵坊〕［illegible］坊　五斗
一所三反内　菅野方寄進　一反五斗　一反五斗　一反五斗　余田彦四郎　同助二郎　〔北又二郎大夫〕［illegible］
一所三反内　長田方寄進　二反一石　浄光院　一反五斗　禅光坊
一所一反　長田村五郎大夫寄進「口里」助二郎　五斗

一所貳段　在所安田前　越生弾正方寄進　浄光院　一石
一所卅五代　新野邊衛門大夫寄進〔寺升〕［illegible］　三斗五升　〔井桶〕三郎兵衛　番匠［illegible］衛門
一所一反　新野邊五郎左衛門寄進〔西安田〕三郎兵衛　五斗
一所一反　越生弾正方寄進　奥坊　五斗
一所貳反廿代内　大升五斗代　一反十　番匠　二郎左衛門　一反十　安田　小四郎　一反者大寺指坪長田村九郎衛門寄進「重正」　此内廿代諸公事無之　一反恩損
一所卅代　口里村弥二郎衛門寄進〔大升〕［illegible］　三斗　口里〔五郎大夫〕［illegible］
一所一反　越生三郎左衛門方　新寄進　五斗　長［illegible］〔禅林坊〕［illegible］
一所一反内　イナヤ刑部大夫寄進　五代不在所江田坪　西圓坊　斗代五斗二升五合七合升定　地利分寺貳斗
一所三段　長田庄内公文一反下司二反　法蔵寺分　西圓坊　「八斗一升二合五夕」　「六斗五升大升」
一所四十五代　長田庄内ウス井ノ向カケノ木東　年貢ノ上分　三斗八升七合五夕　〔北在家〕五郎衛門［illegible］

一所一反　長田庄薮田　本役三斗五升出　加地子二斗　北　五郎衛門
一所十五代　長田村九郎兵衛寄進　竹カハナ　花田　一斗五升　千蔵坊
一所一反　同寄進　四斗　弁才坊
一所三反十内　大升五斗代　恩損出　三百六十二文　新野邊五郎左衛門寄進　二反十「如」実相坊　一反　大升　四斗〔三□分〕実相坊［illegible］
一所一反　大升五斗代　在所安田前　有久恩損百〔十三〕出　塚町　祐寄進　多門坊
一所一反　大升五斗　大升五斗代　在所安田前　［illegible］　坂本光阿弥寄進　「〈一所〈一反加徳〈一斗二升　西明坊」
一所一反　大升五斗　〔代〕［illegible］　舟橋［illegible］寄進　〔神左衛門尉〕　北新次郎　「西明坊」
壱段　一斗五升大升アラウチ　六斗二升五合　智慶分　宝生坊
一所壱段　地頭一方分一斗八升七合五夕　正慶比丘尼分　西圓坊
一段　高五斗代　〔越生方二方分〕［illegible］　禅林坊
一〈船橋　五斗大升　〈神左衛門　〈方寄進　〈西明坊

已上参町三反廿五代
四五
定米廿一石九斗二合四夕　定米貳拾一石二升八合五夕
定米〆拾六石▨斗▨升二合五夕　八　八　定米　廿石九斗三升五合
十九石七斗貳合五夕　二升　貳十石二斗二升七合五夕
六斗二升五合代
一所五段　包守講田　此内一反講代引　西明坊　定米貳石五斗
五問一答衆配分
一斗二升五合　但寺升　長吏坊　五斗六升二合五夕　学頭
五斗六升二合五夕　講師　三斗七升五合　一問
三斗一升二合五夕　二問　二斗五升　三問
一斗八升七合五夕　四問　一斗二升五合　五問
一定燈油田六段内　油升合五入六斗二升四合定
一反　五斗　奥坊　一反　五斗　〔禅林坊〕▨
一反　五斗　奥坊　一反　五斗　千蔵坊
一反　五斗　安田〔西蔵坊〕▨　一反　五斗　千蔵坊
已上三石
一會新田条方坪付
合
五条四方　十二坪　三反卅　同十四坪　新溝代　六反卅
同十五坪　三反廿五　同廿三坪　九反卅五
同廿四坪　二反卅五　六条四方　三反卅五
已上参町
一同寄進田条坊
合
五条四方　十三坪　三反卅　同廿四坪　一反卅五
六条四方　十八坪　一反卅五　同九坪　一反卅五
同廿四坪　卅五
已上玖反卅
一同散田
合
三斗七升代　四斗七合　イカルカ
一反五　シノヘ　弥四郎
三斗代
一所三反廿五内一反五　三斗三升　イカルカ　孫大夫
一反十五　三斗九升　〔少納言〕▨衛門
三斗代
一所卅五代　二斗一升▨　〔侍従公〕▨
三斗七升代　シノヘ　〔十郎兵衛〕▨
一所一反　三斗七升。「實相坊」
三斗三升代
一所卅五十八歩　イカルカ一方　八郎兵衛　二斗四升七合五夕
三斗七升代
一所一反十五代　シノヘ　二郎兵衛　四斗八升一合
三斗代
一所二反十内　六斗六升　卅五代　〔シノヘ　二郎五郎〕▨
一反十五　〔ヤ〕〔寶主坊〕▨
三斗七升代
一所一反　シノヘ　大夫左衛門
四斗代
一所卅五代　三斗六升　シノヘ　紺屋大夫
三斗七升代
一所廿五　イカルカ　弥四郎　一斗八升五合
四斗五升代
一所廿代　一斗八升　塚　九郎衛門

四斗代 一所卅五十八歩 長砂一方 三斗八升 三郎兵衛
四斗代 一所一反卅十八歩内 四斗 一反 紺屋大夫 卅代十八歩 二斗六升 実相坊
五斗代 一所一反十代 六斗 シノヘ 大郎大夫
五斗代 一所一反 五斗 シノヘ 五郎左衛門
五斗代 一所二反 一石 シノヘ 五郎左衛門
三斗代 一所一反十 三斗六升 シノヘ 大郎大夫
五斗代 一所二反代内 卅代 廿五代 〔シノヘ 助大夫〕 卅代 〔助兵衛〕 〔助兵衛〕 『掃部衛門』
三斗代 一所七反内 十代不 一反 宰相 三斗 〔同 三斗 玄譽〕 一反 卅 五斗四升 〔實蔵坊〕 一反 三斗 シノヘ 五郎左衛門 一反 三斗 〔実相坊 侍従公〕 一反 三斗 大夫左衛門 一反 三斗 西明分 〔宰相公〕
三斗代 一所二反五内 一反 三斗 シノヘ 〔少納言〕 一反五 三斗三升 同 左衛門九郎
三斗代 一所一反廿五内 四斗五升 塚 九郎衛門
四斗代 一所卅代 三斗二升 シノヘ 〔新兵衛〕
三斗代 一所一反卅五十八歩内 卅五十八歩 二斗二升五合 シノヘ 大郎大夫 一反 三斗 同 二郎兵衛
五斗代 一所一反 五斗 シノヘ 〔南〕 〔助兵衛〕 〔新衛門〕
五斗代 一所一反卅内 一反五斗 シノヘ 大郎大夫 卅代四斗 同 二郎兵衛
五斗代 一所卅代 三斗 シノヘ 大郎衛門
三斗代 一所一反内 卅代 二斗四升 十代 六升 〔紺屋兵衛〕 〔シノヘ 同 少納言〕

已上参町玖段卅五十八歩
所當米
已上拾四石七斗三升四合五夕
如法経田作人
合
二反 多門坊 二反 禅光坊
一反 奥之坊 一反 〔中安田 五郎衛門〕
一反 「西安田村」 〔歳頭田〕 小山 一反 多門坊
一反 左京公 一段 西安田 三郎兵衛
已上壹町
所當米 三石五斗
一南大門屋敷散田
合
一所十五 二斗定 浄光院 一所十五 中蔵坊分 助五郎 新二郎
一所十五 中蔵坊 一所十五 中蔵坊分 左衛門大郎 衛門大郎
一所十五 東禅坊 一所十五 弁才坊分五升 作人 刑部衛門 二郎大夫分五升 一斗 中蔵坊分
一所十五 多門坊 一所十五 宝生坊分 番匠 衛門五郎
一所十五 奥之坊分 七郎衛門 一所十五 東禅坊
一所十五 龍象坊 一所十五 弁才坊

一所十五　彦衛門　一所十五　除　承仕給
一所十五半分畠替引　西明坊　一所十五　性善
一所十五　「与四郎」多門坊　一所十五　除　大歳免
一所十五　松坊　一所十五　除　道成
一所十五　慶門坊　一所十五　龍象坊
一所十五　奥坊　一所十五　龍象坊〔松之坊〕▨▨▨▨
已上七反十
除　冊五
残定田　六反十五
所當米　四石貳斗
一三越畠地子代
百文　北三郎衛門　百文内　五十文　北二郎衛門　コセ
五十文　三郎衛門
一山王畠地子代
〈百文　今福庄又三郎
一寺百姓畠事
合
一分　奥坊　一分　左近衛門
二分　浄光院　一分　西明坊
一分　北四郎兵衛孫四郎　圓満坊　一分　中蔵坊
一分　浄光院　一分　弥勒坊
一分内　又次郎大夫藤内二郎
一分　大郎三郎
一分　東禅坊
以上十七分
一私領畠分
合
一所冊代　宝蔵坊屋敷　惣寺
一〻冊代　浄光院
一〻十五代　神子ノコチ松坊
一〻廿代　東禅坊又次郎大夫
一〻冊五代　千蔵坊
一所　西城坊屋敷在之
惣庄反銭寺領配分田数
拾参町貳反四十五代　但此内三反廿地頭方寄進乞（乾）
二反十　龍象坊
一反十　有久
天満宮猿楽雑事帳寺庵
圓長寺　二反冊
一分　五郎衛門長徳庵
一分　又次郎大夫
一分　〔東蔵坊〕▨▨▨
一分　〔圓満坊〕▨▨▨▨
一〻廿代　松坊
一〻十代　神子ノコチ彦次郎
一〻廿代　小山　惣兵衛
一〻廿代　長砂〻〻〔寶生坊〕▨▨▨
一所　浄光院前在之　倉屋敷
長福寺　五反

田福寺　四反　観音寺　三反
長禅寺　五反　大田寺　二反
長徳寺　六反廿　安養寺　二反
長楽寺　一反　勝楽寺　一反
延光寺　二反　福林寺　一反
妙楽寺　七反　願念　五反
亀千代　五反　藤平次　五反
包守　五反　安主（寅）　五反
丹三郎　五反　刁　二反
重吉　二反　長吏代　二反
二和尚　二反　行事　二反
沙汰人　二反　大寺　五反
四王供　一町二反　燈油田　一丁二反
上六人　二反宛　中六人　一反卅宛
以下人数　一反十五宛　三昧供新田　七丁二反
右一反別能米四合白米二合宛　都合能米八斗白米四斗
一石二斗五番々帳可執渡者也
岩永正十二年歳次乙亥八月日　年行事尊慶之重而改之書写已十

二　塩田浄観寄進下地帳

（冊二）

（表紙）

永正十二年乙亥八月日
塩田浄観寄進下地帳
鶴林寺

一塩田浄観入道寄進田数事
合壹町八段廿代
一所三反五代　則恒名内本田在所七坪　此内五代者堀
一所壱反拾代　則恒名内本田在所カニカ瀬　此内廿代私領
一所壱反廿五代内　卅代者貞正名新田在所カニカ瀬　廿五代同名同前在所都塩内　廿代者私領畠同所
一所参段内　壱反四十代則家本田在所ウス井ノ向　壱反拾代私領畠同所
一所壱反卅五代　則家名内本田在所馬洗橋北爪　壱段卅代　真綱名但在所北又二郎作上田四郎衛門作
一所参拾代　在所馬洗橋下河田
一所壱段拾代　有貞名内在所ウス井ノ向小橋爪
一所参拾代　貞正名本田在所賀茂西

一所壱反　則家名内本田但二町在之
在所賀茂社前ウスワキ

一所壱反拾代　有貞名内本田
在所影木西溝ノハタ

一所壱段廿五代　貞正名本田
在所賀茂西

一所壱反拾代　貞正名本田
在所賀茂前

一所参拾代　河田在所中在家前

以上壱町八反十五代　今者壱町八反五代

一反別七斗代糠定
分米拾貳石八斗壱升

本役者壱町六反分

糠定四石壱升三〔七〕▒合可有納所候　河田加

残八石七斗九升八合　地利分糠定

此内ニテ土米公事銭節季ニ可有納所候

慶与寄進下地
一所貳段参拾代　在所都塩内町数三在之
長田庄安弘名内私領田

分米壱石八斗貳升　糠定

一口里村松林庵寄進下地長田庄余田村在之

一所壱反拾代内　徳行名内在所賀茂東堀町公事物六〆六合（貫）
十代者余作本役二斗五升者本所一斗四升地頭

一所壱反拾代内　十代者余作在所賀茂東公事銭六〆六合（貫）
本役二斗五升本所一斗四升者地頭

糠定
分米壱石六斗八升内　七斗八升本役糠定

残九斗地利分　糠定
此内ニテ節季公事銭土米可被引候

舎利講出銭分

一　正月　廿七日　▒奥坊▒坊

一　二月　十八日　懺法講　大寺　東圓坊

一　三月　八日　寺出　多門坊

一　四月　十五日　右物　持禅坊

一　五月　八日　安楽坊

一　七月　一日　浄光院

一　八月　廿六日　懺法講　大寺

一　十月　廿四日　懺法講　円満坊

一　十月　八日　禅光坊

（正カ）▒月廿▒日　大寺　一分　二月彼岸　大寺　二分　三月十五日　右物　大寺　八月彼岸　大寺
八月十八日　大寺　九月右物　大寺

一　二月　八日　西圓坊

一　二月彼岸　寺出　慶門坊

一　四月　八日　寺出　大寺　禅林坊

一　五月　四日　懺法講　東禅坊　実相坊　東蔵坊　千蔵坊

一　六月　八日

一　七月　八日　〔東〕▒蔵坊　宝生坊

一　九月　八日　半分大寺　寺出　半分▒▒　龍象坊

一　十一月　八日　大寺　西明坊

一　十二月　八日　大寺

一曼荼羅供預り人数帳

岸方寄進分

二月分

谷之坊　実相坊　上野公

〔西圓坊〕▒▒▒　多門ゝ　卿公

同八月分「四百文宛預り」

〔中蔵坊〕　安楽坊　中将公

実相ヽ
侍従公　〔寶生坊〕

八月十七日　妙恩禅尼分

一分　圓満坊　一分

口里村大郎衛門寄進分十一月三日

大寺
中蔵坊　一分　東禅ヽ卿公一分

八月廿一日　大寺　一分　下地在之候

〔五月〕廿日　大寺　二分　智慶　四月十八日　妙珠禅定尼　浄貞上　大寺一分

八月彼岸　一分大寺　一分西明坊　正慶　八月彼岸　安楽坊一分　一分西明坊　玄秀分

十月十六日　七郎左衛門（アライ）　十一月十六日　同人

三　鶴林寺寺料田惣目録

（表紙）

鶴林寺々料田惣目録

年行事

（冊三）

鶴林寺々領田目録　天文三年甲午八月　日

合

理趣三昧　肆町伍段
法華三昧　参町玖段
月講田　壹町貳段

已上玖町六段

一勧請神田　参町　塔田　参町
聖霊院修理田　貳町六段　四王供田　壹町貳段
八講田　壹町六段　大般若田　壹町四段
大寺　八段　年頭　六段
長講田　四段　彼岸田　四段
大師供田　四段　常楽會田　壹段
六月會田　四段　承仕給田　貳段
舎利講田　貳段廿　上分田　卅五
安居供田　卅　法花経田　貳段
御佛供田　六段　佛名田　参段
燈油田　壹町貳段　宮大般若田　五段
薬師佛餉田　壹段　聖霊院佛餉田　壹段
堂行堂佛餉田　壹段　元節供田　参段
佛生會田　参段　恩損田　貳段

宮仁王供田　貳段　　宮仁王供田円慶寄進　貳段
山王田　三段　　宮仁王供田　貳段

已上貳拾壹町貳段卅五

一指坪名々　別紙有之

已上拾町卅代十八歩内　定五斗代　分米五十石三斗二升五合　損米拾七石一斗一升一合三夕

御佛供田　七段廿五　彼岸田　壹段
同御仏供田　七段　大乗経田　壹段廿
安居供田　壹段廿

残定米

卅三石二斗壹升四合五夕

右於田地所當米者毎年除水干風之
損亡之地撰定熟田名々ノ内認指出状渡
本所代官方仁令収取早然間名々　毎年別紙ニ記之
往古之例雖為五斗代依有損亡之煩
名主沙汰人百姓中評儀而近年以来
三斗三升宛定置之上者盡未来際
不可有相違者也於此田地者土米公
事銭本所而被免除之旁以異于他下
地也仍掟状之旨如斯

年号月日

両堂三昧供料田

六町四段内　九段　上二人　五町五段　末十人

惣別田数

拾六町四段卅代十八歩

一　承仕散田

合

一所壹段拾五代　在所留田六斗五升　北○五郎大夫今ハ新五郎　今ハ実相坊
一〃壹段　在所留田五斗　北「今ハ然圓坊」今ハ五郎左衛門　西圓坊
一〃四拾代　在所ハヤ四斗　宝生坊
一所壹段拾　在所石町六斗　*〔西明坊〕『北宰相公』
一〃貳段　在所留田壹石　*〔少納言公〕『實相坊』
一〃四拾代　在所ミマタ溝ノ東四斗　慶門坊「谷之坊」
一〃四拾代　在所ミマタ溝ノ西四斗　如意坊
一〃四拾代　在所留田四斗　■■■■　*与大郎『細田五郎衛門拘』
一所壹段　在所石町五斗　*助衛門『坊領付吉祥房』
一〃貳段拾　在所留田壹石一斗　宝生坊
一〃四拾代　在所ハツヘ四斗　「今ハ実相坊ニ有」北　三郎衛門
一〃廿五代　在所アラキノ前二斗五升　長田村　九郎衛門

一〻四十代　在所橋崎四斗　*長田村　九郎兵衛『長田村玄祐』　└

一所壹段　在所濱口五斗　〔持禅坊〕　└

一〻廿五代　同所二斗五升　長田村〔戒蔵寺〕　└

一〻壹段卅代「内」　在所北山崎「廿代」八斗「内四十代四斗ハ」　口里村「北之坊」大郎兵衛〔遍照院〕　└

一〻壹段廿代「内」　同所七斗「卅五代安楽坊分」　*長田村衛門三郎『口里村九郎兵衛』　└

一〻廿代　在所橋崎二斗　多門坊　└

一所五代　在所大サ五升　奥之坊　└

一〻壹段　在所宮北五斗　多門坊　└

一〻壹段　同所五斗　*少納言『弁才坊内少弐公』　└

一〻廿代　在所濱口二斗　〔圓満坊〕　└

○一〻壹段拾五代　在所〻小賀原〻六斗五升　殿領〔〻一反〻西蔵坊〔十五代実蔵坊〕〕　持禅坊　└

一所拾代　一斗　坊領ノ闕　龍象坊　└

一〻拾代　壹斗　同　禅林坊　└

一〻壹段　此内五代不　ハケンキャウ四斗五升　細田「作人五郎兵衛」　中方　└

一〻卅代　在所中安田堂北三斗　実相坊　└

一〻拾五代　在所ハマロ一斗五升　長田村　九郎衛門　└

一所壹段内　十代十五代　在所ハヤ五斗内　北「六郎衛門」三郎衛門□九郎　└

一〻壹段　在所橋崎五斗　*□□村　次郎兵衛『正住坊西蔵坊』　└

一〻五代　五升　坊領闕　常楽坊　└

一〻五代　五升　同　西城坊　└

一〻壹段廿代　在所番匠田七斗　弁財坊　└

一所二段　在所中村一石　坂本　四郎左衛門　└

一〻二段卅五代　在所大田寺前壹石三斗五升　圓満坊　└

一〻壹段　在所木守五斗　〔東蔵坊〕　└

一〻廿五代　在所木守二斗五升　奥之坊　└

○一〻二段　在所サラ池尻〻壹石「坊領引」　宝生坊　└

一所壹段拾　在所石町六斗　坂本　五郎衛門　└

一〻壹段拾五　在所宮東六斗五升　*シノヘ　五郎左衛門『安楽坊』　└

一〻壹段　在所宮北五斗五升　多門坊　└

一〻廿代　在所安田前二斗　*浄善『圓満坊』　└

一〻壹段　在所石町五斗　如意坊　└

一所廿五代　在所ハツヘ二斗五升　北　五郎大夫　└

一〻卅代　在所ヒラ田三斗　*細田　大夫二郎大夫『円満坊』　└

一〻壹段　在所ヒラ田五斗　*坂本　大郎兵衛『細田村新左衛門』　└

一〻壹段　在所石町五斗「イシミトウ」　坂本「今八八丸也」○助衛門　└

一〻壹段　在所石町五斗　北〔中蔵坊〕〻〻〻郎衛門　└

一所壹段　在所坊垣内五斗　*〔九郎左衛門〕■■■■■■■『普賢院』

一所廿五代　在所坊垣内二斗五升　東禅坊

一〻四拾五代　在所石町四斗五升　〔實相坊〕■■■

一〻壹段　在所石町五斗　坂本　大郎兵衛

一〻二段　在所ミマタ一石　奥之房

一所壹段卅代　在所木守八斗　*〔中蔵〕■■房『普賢院』

一〻壹段　在所石町五斗「坊領」*持禅坊『西蔵坊』

一〻十八歩　在所中安田北二升五合　千蔵坊

一〻廿代　在所中村北二斗　坂本○助衛門「今ハ八丸也」

一〻壹段　在所中村北五斗　坂本九郎衛門「今ハ道忠持」

一所壹段　在所安田前五斗　谷之房

一〻壹段五　在所安田前五斗五升　〔遍照院〕■■

一〻二段拾　在所カナカ坪一石一斗　龍象坊

一〻壹段拾　在所カナカ坪六斗　口里　〔源二郎大夫〕■■■■■

一〻拾五代　一斗五升　坊領闕　西明坊

一所廿五代　在所タカタ二斗五升　東蔵坊

一〻壹段　在所実蔵坊南五斗　買下地　東禅坊

一〻壹段　在所ヒラタ五斗　〔禅光坊〕■■■

一〻卅代　在所ヒラタ三斗　*助衛門『禅光坊』

一〻壹段　在所留田五斗　北　新衛門

一所卅代内　十代不　在所大塚本二斗　坂本　大郎兵衛

一〻二段　〻一石　常楽坊々領

一〻二段　〻一石　弥勒坊々領

一〻壹段　在所石町五斗「西圓坊」〻〻〻〻　北「今ハ西圓坊」「西圓坊」五郎左衛門〻〻〻〻〻〻

一〻壹段　〻同所五斗　*北（カ）源四郎『吉祥坊々領』

巳上洙町壹段卅五代十八歩

定米参拾五石七斗貳升五合

『

坊領引テ定米○〻卅貳石〻貳斗二升五合内（花押）[38]「（花押）」[39]

定米卅石五斗七升五合。〻六斗五升坊領引「（花押）」[40]

』

一除

一所三段内　一反　唄師　二反　承仕給　一所壹段卅　承仕給

一所六段　御佛供田　一所卅代　門敷

一所壹段　行事田　一所壹段廿五代　房敷

一所卅五代　濱　成　　一所廿五代　古　不　」
一所壹段　山王敷　　一所拾代　堀　林
一所貳段　南大門屋敷替地　在所サイミ塚　小山方　　一所壹段　常行堂　酒　田
四町貳段　坊　領　　一所廿五代　坊敷畠替地　安楽坊
同　一所廿五　圓満坊　　同　一所廿五　東禅坊
同　一所廿五　奥之坊　　同　一所廿五　以上坊敷之内　安田次郎大夫　」
一所廿五内　承仕給分　十五代　十代

已上拾四町壹段卅五代十八歩内
除　六町四段卅五代
残定田　柒町七段十代十八歩
定米　三拾六石四斗貳升五合　」

一寄進散田　「地頭方寄進分雑色銭之事　一段別拾貫宛毎年納所」
合
一所壹段拾五代　在所北賀原地頭一分方　六斗五升　東禅坊
一〻壹段　在所細田南地頭分　五斗　二方寄進　西明坊
一〻壹段　地頭方寄進分一方　四斗三升七合五夕　實相坊
一所一段　公文寄進分　五斗　千蔵坊
一〻二段　長田庄公文寄進　一石　圓満坊

一〻壹段　長田庄公文寄進　五斗　北〻〔圓満坊〕「圓満坊」
一〻壹段　菅野方寄進　五斗　*又次郎大夫『安養院』
一〻壹段　同寄進　五斗　*余田村　彦四郎『禅光坊』
一所壹段　菅野方寄進　五斗　*余田村　助二郎『安養院』　」
一所三段　六斗代　浦上美作守寄進　一石四斗四升寺升定　篠原　徳丸名内
一〻壹段十代　長田方寄進　六斗　*西明坊『浄光院宰相公』
一〻壹段卅代　長田方寄進　九斗　禅光坊
一〻壹段　菅野方寄進　五斗　弁才坊　」
一所壹段　〔九郎衛門〕　口里　長田村五郎大夫寄進　「京方に〻〻〻〻恩損」　*〔寶生坊〕『常楽坊』　五斗
一〻二段　越生二方寄進　壹石　在所安田前　浄光院
一〻二段拾　在所小山前護摩田「武行名恩損」　新野邊五郎　左衛門寄進　一石三斗七升五合「本役一反別百十三貫宛」　如意坊
一〻壹段　在所石町「末近名恩損」　新野邊五郎　左衛門寄進　五斗「本役百十三貫」　〔如意坊〕
一〻卅五代　在所十五所前「重成名恩損」　東安田　新野邊衛門　大夫寄進　三斗五升　大升定「本役七十九貫」　*三郎兵衛『庭草給』　」
一所壹段　在所藪田　本役三斗五升出　加地子二斗　北　五郎衛門　□□
一〻壹段　重成名在所タカタノ邊　新野邊五郎　左衛門寄進　五斗「本役百十三貫」　〔寶生坊〕
一〻拾五代　在所竹カハナ　長田村九郎　兵衛寄進　壹斗五升　千蔵坊
一〻壹段　越生方二方寄進　五斗　奥之坊
一〻壹段　同寄進　一方分　四斗　〔龍〕左京公〕　」

一所壹段十「一反ハ恩損」在所十五所西 七斗五升「本役」 *番匠 次郎左衛門『谷之坊』
「道久名」（カ）

一〻壹段十 十代ハ諸公事無之候 一反ハ大寺指坪 長田村九郎衛門寄進「重正」 七斗五升 *〔新衛門〕▒▒▒▒『浄光院』

一〻卅代 口里村弥二郎大夫寄進 三斗 「安田弥九郎」 *口里 五郎大夫『西城坊』

一〻壹段 舟橋神左衛門方寄進 在所小山東 六斗二升五合 *□□分 西明坊『北新衛門』

一〻壹段 地頭一方寄進 神楽田 五斗 禅林坊

一所壹段 貞祐寄進有 在所安田前 久名内恩損 六斗二升五合 百十三貫 多門坊

五斗二升五合代七合升定 在所江田坪
一〻壹段内 五代不 イナヤ刑部大夫寄進 加徳分二斗七合五夕 寺升 西円坊

一〻壹段 智慶分 在所アラウチ 六斗二升五合 宝生坊

一〻二段内 十代不 下司分長田庄下村 法蔵寺寄進 加徳分七斗一升七合五夕 寺升 西圓坊

一〻壹段 在所賀茂下 法蔵寺寄進長田庄公文□（分） 加徳分一斗六升五合六夕 寺升 新衛門

一所壹段 越生方一方分内 正慶寄進分 一斗八升七合五夕 寺升 加徳分 北〔新兵衛〕▒▒▒▒

一〻壹段 地頭二方寄進分 在所竹下 五斗「内半分小山備前守納所堀道分」 禅林坊

一〻壹段拾 法蔵寺寄進分 在所池ノハタ「恩損」 七斗五升「本役百廿五貫」 在所「次郎丸名内」 禅林坊

一〻四拾五代 小山妙珠分 在所カケノ木東 五斗三升二合五夕 〔六〕 *九郎左衛門『普賢院』

一〻四拾代 年貢諸公事無之候 梅木之下 五斗六升五合五夕 〔持禅坊〕▒▒▒▒

一所壹段 在所アラウチ 六斗二升五合 〔細田喜三郎〕▒▒▒▒

一所貳段 在所ヨナタ田 壹石貳斗 寺升定 西明坊

○一所壹段 抹香料太子堂 加徳 貳斗七升五合 「年貢米三昧僧直年行事ヘ不入」 〔新衛門〕▒▒▒▒

一所壹段請下地 正元名 在所東安田南 寺升定 松林房分 六斗「二升五合」 賣替分下地也 *西明坊『多門坊』

一所壹段 恩損銭百四貫出 重正 五斗五升 西城坊

〻一〻所〻貳〻段 梶原駿河守殿分 〻松之坊

一所三段 船橋大和守方 加徳大升六斗六升 〻松之坊

大升定 廿五代 シャウシ作 分米参斗五升七合五夕 〔泉福寺〕▒▒▒▒
一所 シャウシフケ 分米参斗五升七合五夕 八幡村 新左衛門 小次郎 〻〻〻

大升定 四十代 フケシ 分米六斗八升 同 村 太郎兵衛 次郎左衛門
一所 十代 分米壹斗七升 大崎村 五郎衛門 〻〻〻〻

寺升定以上一石九斗五升六合二夕

壹所一段 請下地 定久名内 在所大塚ノ西ニ有 五斗 *弁財坊『弁才坊内 少弐公』

一所壹段内 廿五代 内十五代堀ニ不ニ引残分十代一□ハ 一方分 〔東蔵坊〕▒▒▒▒
廿五代 在坪小山石橋ノ本 但地頭名内 少助大夫
貳斗▒〔五〕升 在坪神楽田

一所壹段 五斗 末国公田也 寄進泉公也 谷之坊

一所壹段十代 恩 七斗五升 万供田 神田分 寄進 〔船橋 宗左衛門〕▒▒▒▒

*一所四十代 恩 六斗 同 同 「禅光坊」北 九郎衛門 〻〻〻〻

一所壹段 加徳分 三斗一升二合五夕 道性寄進 作 口里 二郎大夫

（*じるしの上の貼紙）

『定米 抹香田 庭草給引テ也

丙子 卅石貳斗七升四合三夕 慶算（花押）』41

一所五段 六斗二升五合代 包守講田 此内一段講代引　西明坊　定米貳石五斗

五間一答衆配分

壹斗二升五合　長吏坊　五斗六升二合五夕　学頭

五斗六升二合五夕　講師　三斗七升五合　一間

三斗一升二合五夕　二間　二斗五升　三間

一斗八升七合五夕　四間　一斗二升五合　五間

一定燈油田六段内 油升合五入六斗二升四合定

貳段　奥之坊　壹段　禅林坊

〔壹〕貳段　千蔵坊　壹段　〔正住坊〕[illegible]

壹段 北ハシ　*[illegible]『禅林坊』

已上三石

一會料田条方坪付

合

五条四方 十二坪　三段卅　同十四坪 新溝代　六段卅

同十五坪　三反廿五　同廿三坪　九段卅五

同廿四坪　二反卅五　六条四方　三反卅五

已上三町

一同寄進田条坊

合

五条四方 十三坪　三段卅　同廿四坪　壹段卅五

六条四方 十八坪　一反卅五　同九坪　壹反卅五

同廿四坪　卅五

已上玖段卅

一同散田

合

一所壹段拾五　三斗代　三斗九升　〔遍照院〕[illegible]

一〃壹段五　三斗代　三斗三升　シノヘ〃〃　〔弁才坊〕[illegible]

一〃壹段五　三斗七升代　四斗七合　イカルカ　四郎兵衛

一〃四拾五代　三斗代　二斗七升　シノヘ　「但慶運庵分」二郎五郎

一〃壹段拾五　三斗代　三斗九升　*宝生坊『浄光院』

一〃卅五代　三斗代　二斗一升　*實相坊『シノヘ慶運庵』

一所壹段　三斗七升代　*〔シノヘ助三郎〕[illegible]『シノヘ正香庵』

一〃壹段　三斗七升代　實相坊

一〃四拾五代　四斗代　三斗六升　シノヘ　十郎兵衛

一〃卅五代十八歩　三斗三升代　二斗四升七合五夕 *イカルカ　八郎兵衛『シノヘ慶運庵』

一〃廿五代　三斗七升代　一斗八升五合 *イカルカ　四郎兵衛『シノヘ正香庵』

一所壹段拾五代　三斗七升代　四斗八升一合 シノヘ中　左近衛門

一〃廿代　四斗五升代　一斗八升　塚　九郎衛門

一〃四拾五代十八歩　四斗代　三斗八升　實生坊〃〃　〔祐永〕[illegible]衛門〃〃

一〻四拾代　四斗代　三斗二升　*實蔵坊『安楽坊』
一〻壹段卅代十八歩内一反四斗代卅代十八歩二斗六升　*実相坊如意坊『實相坊』
一所卅五十八歩　三斗代　二斗二升五合　*シノヘ〔大郎衛門〕『侍従公』
一〻壹段　三斗代　三斗　*シノヘ　次郎兵衛『侍従公』
一〻壹段十代　五斗代　六斗　*シノヘ　九郎兵ヘ大郎大夫『シノヘ石兵衛』
一〻壹段内廿五代廿五代　五斗代　*シノヘ〔助衛門〕〔西明房〕『普賢院』
一〻壹段　五斗代　シノヘ　新左衛門
一所一段　五斗代　シノヘ　大郎大夫「衛門」
一〻四拾代　五斗代　四斗　同　次郎兵衛
一〻二段　五斗代　一石　同　*大進公『慶運庵』
一〻卅代　五斗代　三斗　*同　玉蔵庵『同慶運庵』
一〻壹段十　三斗代　三斗六升　同〔祐泉庵〕
一所卅代　三斗代　二斗四升　*シノヘ　紺屋五郎左衛門『安楽坊』
一〻廿五代　五斗代　二斗五升　*シノヘ　助大夫『シノヘ慶運庵』
一〻四拾代　五斗代　四斗　同〔實相坊〕
一〻四拾代　五斗代　四斗　*〔同中兵衛〕『侍従公』
一〻廿代　三斗代　一斗二升　同〔浄光院〕
一所壹段　三斗代　三斗　シノヘ　六郎左衛門

一〻壹段　三斗代　三斗　*西明坊『浄光院』
一〻壹段　同　三斗　〔浄光院〕
一〻壹段内　三斗代　三斗　實相坊
一〻二段内十代不　五斗四升　*實蔵坊『安楽坊』
一所壹段　三斗代　三斗　シノヘ　*〔歳女〕安楽坊『普賢院』
一〻卅五代十八歩三斗代　二斗二升五合　塚　九郎衛門
一〻卅五代十八歩三斗代　二斗二升五合　*シノヘ　助衛門『舟橋左大夫』
一〻壹段拾代　三斗代　三斗六升　*〔東蔵坊〕『宮内卿公』
一〻壹段五　同　三斗三升　〔侍従公〕

已上四町十八歩
定米　以上拾四石九斗「八」二升五合五夕

一如法経田作人
合
貳段　多門坊　貳段　〔東蔵坊〕
一段　奥之坊　一段　*弥勒坊『龍象坊』
一段　*西安田村歳頭田『宝生坊』　一段　〔西城坊〕
壹段　*実蔵坊『安楽坊』　壹段　*西安田　三郎兵衛『禅光坊』

已上壹町

所當米　三石五斗

一南大門屋敷散田

合

一所十五 二斗定　浄光院　一所十五 中蔵坊分　助五郎　新二郎

一所十五　中蔵坊　一所十五　中蔵坊

一所十五　東禅坊　一所十五 一斗 中蔵坊分 一斗「内」弁才坊分 「五升 三郎大夫」

一所十五　多門坊　一所十五 宝生坊分　番匠　衛門五郎

一所十五 奥之坊拘 半分 奥坊分〈七郎衛門〉 秀慶 半分直請 与三衛門　一所十五 *今八上野公 〈東禅坊〉『角ノ 半分八 安田村 三郎衛門 安田村 六郎兵衛』

一所十五 龍象坊分　慶音　一所十五　弁財坊

一所十五「内」「半分」〈浄光院〉「半分」〈東禅坊〉　一所十五 除　承仕給

一所十五 半分畠替引　西明坊　一所十五〈一斗三升三合七夕 徳行〉〈六升六合三夕 東圓坊〉

一所十五 多門坊「寶生坊」　一所十五 除　大歳免

一所十五 松之坊〈浄光院〉　一所十五 除　道成

一所十五　慶門坊　一所十五　龍象坊

一所十五　奥之坊　一所十五 寺出 龍象坊〈松之坊 番匠〈□越〉物ニ遣也〉

已上七反拾

除冊五

残定田　六段拾五

所當米　四石貳斗

一三越畠地子代

百貫〈北 正善屋敷分 三郎衛門〉

一山王畠地子代

〇百貫 今福庄　又三郎

一寺百姓畠事

合

一分　奥之坊　一分　北 左近衛門

二分　浄光院　一分　西明坊

一分　中蔵坊　二分　圓満坊

一分 北〈神左衛門〉 *五郎大夫『吉祥坊弟子 大貳公』　一分「九郎衛門」　浄光院

一分「大寺」弥勒坊「吉祥坊ヘ屋敷分出」　一分　五郎衛門 長徳庵

一分内　又二郎大夫 五郎左衛門　一分　又二郎大夫

一分　*又二郎大夫『禅林坊』　一分　〈東蔵坊〉

一分　東禅坊

以上十七分

〈百貫内 〈五十貫 北 〈□□衛門〉 〈二郎衛門〉 〈五十貫 コセ 〈□□衛門〉 〈三郎衛門〉

一私領畠分

合

二所分一所卅代 宝生坊屋敷 惣寺　一〻廿代 松之坊

二所分一〻卅代 浄光院　一〻十代神子ノコチ 彦二郎」

一所十五代神子ノコチ 松之坊　一〻廿代 小山惣兵衛

一〻廿代 東禅坊 又二郎大夫　一〻廿代 長砂〳〵浄光院 〳〵三郎兵衛 〳〵宝生坊

一〻卅五代 千蔵坊　一〻 〳〵西城坊屋敷在之候

（浄光院東在之百貫地子）[redacted]

一〻 倉屋敷」

惣庄反銭寺領配分田数

拾三町貳段四十五代 但此内地頭方寄進在之候 二反十 龍象坊 一反十 有久

天満宮猿楽雑事帳寺庵

圓長寺	二反卅	長福寺	五段
田福寺	四反	観音寺	三反」
長禅寺	五段	大田寺	二反
長徳寺	六段廿	安養寺	二反
長楽寺	一反	勝楽寺	一反
延光寺	二反	福林寺	一反
妙楽寺	七反	願念	五段」
亀千代	五段	藤平次	五段

包守	五反	安主	五段
丹三郎	五反	刁（寅）	二反
重吉	二反	長吏代	二反
二和尚	二反	行事	二反」
沙汰人	二反	大寺	五段
四王供	一丁貳反	燈油田	一丁二反
上六人	二反宛	中六人	一反卅宛
以下人数	一反十五宛	三昧供料田	七丁二反

右一段別能米四合白米二合宛都合 能米八斗 白米四斗」

一石二斗五番〻帳可執渡者也

𩿆林寺所務張（マヽ）

旹天文三年甲午八月　日　年行事慶什之 重而改之書写乎」

寄進恩損本役事

武行名	二段十代	貳百四十八貫	納所
末近名	壹段	百十三貫	同
重成名	一段卅五代	百九十貫	同
有久名	一段	百十三貫	同
次郎丸名	一段十代	百廿五貫	納所」

「一段　京万百廿貫」
道久名　一段　百　同
○〃右同名　貳段　〃貳百廿六貫　本役四百貫取候　同
正元名　壹反　貳斗三升五合　土米加テ　請
重正名　壹反　百四貫　公事　秋十五貫春五貫　納所　大慈庵分
定久名　壹反　貳斗三升五合　土米加テ　公事銭　春秋廿貫　請
浄観分寄進作人〻数張（マヽ）

合

壹段　「今八中納言殿」　実相坊　壹段五代　*上田村　四郎衛門　『〈圓満坊〉太輔公』
卅代　*□□太輔公　『北　三郎衛門』　卅代　北　五郎大夫
貳段「内卅代」　「同三郎衛門」　北助衛門　三段　〔正住坊〕
壹段五代　〔持禅坊〕　卅代　奥之坊
卅代　*「新二郎」　『北　弥九郎　孫衛門』　壹段拾　禅林坊
壹段拾　*　『〈北五郎衛門〉十五代　*北六郎兵衛　内十五代　〔禅□坊〕　卅代　北村　又四郎』　〔壹段〕　*〔□□六郎兵衛〕　『粟津　三郎衛門』

以上八石七寺升斗五升

買地分

壹段　大升定　六斗　南備後村　太郎兵衛
四十代　大升定　四斗五升　同　村　又次郎

◇（以下後補）

一段　請　大升　包貞　五斗　新野辺　弥衛門
一反卅代内　三十代私領　大升　年貢　八斗内　本役　一斗七升五合可出　残定大升六斗二升五合　〔東圓坊拘〕　光明院拘
四十代　私領　公事共　大升　五斗納　〔光明院〕
一反　大升　五十納　長田庄○谷之坊上　「作人北粟津源衛門」　承仕給　作　〔新兵衛〕　八升
一所　大升　四斗内　油用灯可出　北在家田福寺　一斗八升　〃実相坊　七升　〃与三衛門　一斗四升内　新兵衛壱斗四升
一反　知職　本役　大升　十六貫　五斗　〔瓦□孫〕　粟津村　左衛門
一反　玄祐寄進　大升　則□　五斗　安楽坊
一反　林松寄進　大升　五斗　今松之坊　実相坊
一反　大升　五斗　常楽坊弟子　大夫公
以上五石　大升定　〔五斗□〕

買地分

○一段　大升定　六斗　南備後村　大郎兵衛
○四拾〔代〕　大升定　四斗五升　同　村　又次郎
○壹段　請　包貞　シノヘ　弥衛門　作人　本役
○一段卅代内　三十私領　年貢　八斗内　一斗七升五合可出　備後　掃部紺屋
○四十代　私領公事共　五斗納　北　助衛門　助兵衛　長田庄　谷之坊　上銭
○一段　大升　五斗三升納

。一所	大升 四斗内 油用灯可出	北 在家村有之		
。一段	大升 五斗 栗津西 □津北新左衛門 知職下地也	イヲケシ北栗津 作人 新左衛門		

四　刀田鶴林寺検地帳　（冊四）

◇（此の文書丁の継目ごとに黒印を押す）

（表紙）

（割印）　（割印）　（割印）

慶長六年

□□□賀古郡内刀田鶴林寺御検地帳

九月廿日

上	七畝九歩	壹石四斗六升	東圓坊	
上	貳畝八歩	四斗五升四合	浄光院	
□	□畝拾貳歩	壹石貳斗八升	同　人	
□	□□（畝）五歩	壹石六斗三升三合四夕	同　人	
□	六畝四歩	壹石貳斗貳升六合六夕	西明院	
上	六畝廿六歩	壹石三斗七升三合三夕	實蔵坊	
上	六畝十貳歩	壹石貳斗八升	正住坊	」
上	七畝七歩	壹石四斗四升七合	玉泉坊	
上	七畝十歩	壹石四斗六升六合七夕	宝生坊	
□（上）	八畝廿四歩	壹石七斗六升	円満坊	
□	□□（反）貳畝五歩	貳石四斗三升三合三夕	持禅坊	
□	□□（畝）廿二歩	壹石五斗四升六合七夕	東蔵坊	
上	三畝十五歩	七斗	中照坊	
上	五畝二歩	壹石壹升三合三夕	禅林坊	」
上	壹反貳畝廿七歩	貳石五斗八升	*歓喜坊『中蔵坊』	
上	壹反三畝三歩	貳石六斗貳升	実相坊	
□	□□□（廿）五歩	壹石四斗壹升	奥之坊	
□	□□四歩	壹石五斗八升四合『「長田ノ六郎右衛門ニ入」禅林坊』	*安楽坊	
□	七畝廿四歩	壹石四斗四合『□□』	*奥之坊	
中	八畝	壹石四斗四升	松之坊	
中	壹反九畝六歩	参石四斗五升六合	東禅坊	
中	三畝十歩	六斗	寶生坊	」
上	壹反四畝九歩	貳石八斗六升	圓満坊	
□	五畝廿歩	壹石壹斗三升三合三夕	奥之坊	
□	□□	壹石六斗	持禅坊	
□	□□（畝）廿四歩	壹石四斗四合	奥之坊	
上	六畝廿九歩	壹石三斗九升三合四夕	実相坊	
上	七畝十五歩	壹石五斗	東蔵坊	」
上	八畝十壹歩	壹石六斗七升三合三夕	正　善	
中	五畝廿六歩	壹石五升六合	*西明院『中蔵坊』	

□　□歩　四升七合九夕　禅林房
□　□□四畝廿六歩　貳石九斗七升三合三夕　正住坊
□　□畝十歩　壹石四斗六升七合　安田ノ太郎右衛門
上　七畝十六歩　壹石五斗六合六夕　円満房
上　壹段四畝貳十歩　貳石九斗三升三合三夕　常楽坊
上　壹段六畝　参石貳斗　禅林□(坊)
上　壹反四畝貳拾歩　貳石九斗三升□(三)合三夕　浄光院
□　□(壹)反壹畝十四歩　貳石貳斗九升三合五夕　実蔵坊
□　□□壹畝十六歩　貳石参斗□(六)合六夕　禅光坊
□　□□(畝)八歩　壹石四斗八升八合　奥之坊
上　七畝廿貳歩　壹石五斗四升六合七夕　多門房
中　四畝十四歩　八斗四合　長田ノ善左衛門
中　三畝廿五歩　六斗九升　〈禅光坊「龍象坊」〉
中　壹反五畝貳十歩　貳石八斗二升　実相坊
□　□□九歩　壹石六斗七升四合　龍象坊
□　□□歩　壹石五斗六升　十地坊「実相坊」
□　□(八)□畝七歩　壹石四斗八升二合　泰之坊
中　七畝十二歩　壹石三斗三升二合　実蔵坊
中　六畝五歩　壹石壹斗一升　禅光坊
中　壹段貳畝十三歩　貳石貳斗三升八合　龍蔵坊

上　壹反六畝廿九歩　参石三斗九升三合三夕　千蔵坊
□　□(壹)段廿九歩　貳石壹斗九升三合三夕　正住坊
□　□□□三歩　壹石八斗八升六合六夕　常楽坊
□　□□貳畝十三歩　貳石四斗八升七合　安田ノ甚兵へ
上　四畝十一歩　八斗七升三合三夕　金剛院
中　三畝廿二歩　六斗七升二合　十地坊
上　四畝三歩　八斗二升　長田ノ与右衛門
上　四畝八歩　八斗五升三合三夕　同村与十郎
□　□□□八歩　七斗八升六合六夕　安田ノ新右衛門
□　□□□(八)歩　九斗二升　長田ノ善右衛門
□　□□(畝)廿五歩　六斗九升　十地坊
上　八畝十一歩　壹石六斗七升三合三夕　安楽坊
上　三畝十二歩　六斗八升　宝生坊
上　八畝七歩　壹石六斗四升六合六夕　吉祥坊
上中　壹段貳畝　貳石壹斗六升　持禅坊
□　□□(畝)十歩　壹石四斗六升六合七夕　十地坊
□　□□□歩　壹石貳升　長田ノ与右衛門「惣兵へ」
□　□□(畝)十歩　八斗六升六合七夕　宝生坊
上　九畝貳十五歩　壹石九斗六升六合七夕　持禅坊
上　七畝十一歩　壹石四斗七升三合三夕　千蔵坊

上　九畝貳十四歩　壹石九斗六升　*宝生院　『宝生坊分西屋』

上　七畝七歩　壹石四斗四升六合□(六)夕　同人

□　□□□(貳)十三歩　壹石五斗五升三合三夕　禅林坊

□　□□□歩　壹石七斗壹升九合九夕　歓喜坊

□　□□(反)壹畝十七歩　貳石三斗一升三合三夕　東禅坊

上　壹段五畝十六歩　参石壹斗六合六夕　中照坊

上　五畝廿六歩　壹石壹斗七升三合六夕　安田ノ彦太夫

上　七畝　壹石四斗　持禅坊

上　五畝十六歩　壹石壹斗六合六夕　千蔵坊

□　□□(畝)十四歩　壹石貳斗九升三合三夕　安田ノ光太夫

□　□□□(廿)九歩　五斗三升四合　常楽坊

□　□□(畝)五歩　八斗三升三合三夕　宝生坊

上　壹段八畝十一歩　参石六斗七升三合三夕　安楽坊

上　八畝十九歩　壹石七斗貳升六合七夕　*勧喜坊　『中蔵坊』

上　八畝十歩　壹石六斗六升六合六夕　東圓坊

上　八畝十六歩　壹石七斗七合　東禅坊

□　□□(段)貳畝十八歩　貳石五斗二升　浄光院

□　□□□畝　貳石八斗　*長田ノ惣右衛門　『中蔵坊』

□　□□(段)五畝五歩　参石三升三合三夕　歓喜坊

上　壹段貳畝　貳石四斗　浄光院

上　壹段五畝五歩　参石三升三合三夕　金剛院

上　七畝廿八歩　壹石五斗八升六合七夕　玉泉坊

□(上)　七畝十八歩　壹石五斗貳升　吉祥坊

□　□□六歩　壹石四斗四升　安田ノ七郎兵へ

□　□□□畝八歩　四石六斗五升三合三夕　北在家村ノ新兵へ

□　□□(畝)拾四歩　壹石四斗九升三合三夕　奥ノ坊

上　貳畝廿四歩　五斗六升　九七郎東圓坊

上　七畝廿四歩　壹石五斗六升　正住坊

上　貳畝十三歩　四斗八升六合六夕　奥ノ坊

上　六畝廿三歩　壹石三斗五升三合三夕　正住坊

□　□□(畝)十八歩　壹石壹斗一升九合九夕　北在家新兵衛

□　□□□歩　六斗　同人

□　□畝九歩　四斗六升　東圓坊

□　壹段三畝　貳石六斗　安田ノ宗十郎

上　五畝廿歩　壹石壹斗三升三合四夕　長田村惣右衛門

上　四畝五歩　八斗三升三合三夕　安田村(カ)与三衛門

□　□(七)畝廿三歩　壹石五斗五升三合三夕　同村善三郎

以上

□□□合六町七段六畝十五歩

□(上)合参段六畝七歩
中合壹町八段九歩
下合九歩
田数合八町九段三畝十歩

屋敷方

貳畝貳十歩　十地坊
□□(畝)十五歩　玉泉坊
□□□四歩　実蔵坊
□□□(畝)(十)六歩　西圓坊
貳畝貳十五歩　正住坊
六畝十二歩　弁才(カ)坊
壹畝廿四歩　歓喜坊
五畝廿六歩　中照坊
□畝　浄光院
□□貳十二歩　松之坊
□畝貳十歩　宝生坊
三畝十四歩　遍明院
三セ六歩　千蔵坊
三畝　谷ノ坊
四畝　奥ノ坊

□畝十歩　禅林坊
□□十四歩　弥勒坊
□畝八歩　吉祥坊
三畝十歩　常楽坊
貳畝廿八歩　金剛院
参畝八歩　西城坊
四畝　圓満坊
三畝十八歩　持禅坊
□□　東圓坊
□畝六歩　多門坊
三畝十歩　禅光坊
三畝貳十二歩　安楽坊
四畝八歩　東禅坊
五畝一歩　実相坊
□(貳)畝十二歩　龍象坊
□畝廿四歩　東蔵坊
貳畝廿歩　三斗七升四合　正住坊

合壹町貳段七畝三歩
分米拾七石七斗九升四合

畠方

松之内
壹畝五歩　　壹斗六升三合五夕　　東圓坊
（壹）□畝十八歩　寶堂坊屋敷二郎右衛門殿理ニ而寺ノ内へ入　浄光院
□□□貳歩　　三斗三升五合九夕　　歓喜坊
合五畝五歩
分米　七斗貳升三合三夕
三口
惣合百九拾参石六斗五升四合
紙数上紙共ニ拾三枚

五　刀田寺領分名寄帳

（表紙）

慶長七壬寅
刀田寺領分名寄帳
九月吉日
紙数八枚

（冊五）

「上」　七畝九歩　　壹石四斗六升　　東圓坊
「畠」壹畝五歩　　壹斗六升三合五夕　　同　人
「上」　二畝廿四歩　　五斗六升　　同　人
「上」　二畝九歩　　四斗六升　　同　人
合　貳石六斗四升三合五夕

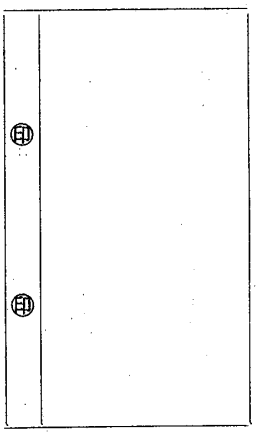
「上」　六畝拾二歩　　壹石二斗八升　　浄光院
「上」　壹反二畝　　貳石四斗八升　　同　人
「畠」壹畝拾八歩　　貳斗二升四合　　同　人
合　　参石九斗四合「内屋敷分引ノ但貳斗二升四合也」
「上」　壹段四畝廿歩　　貳石九斗三升三合三夕　　圓満坊
合
「上」　六畝四歩　　壹石二斗二升六合四夕　　遍明院
「中」　五畝廿六歩　　壹石五升六合　　同　人
合　　貳石貳斗八升二合四夕
「上」　六畝貳拾六歩　　壹石三斗七升三合三夕　　実蔵坊
「上」　壹反壹畝拾四歩　　貳石貳斗九升三合六夕　　同　人
「中」　七畝拾二歩　　壹石三斗三升二合　　同　人
合　　四石九斗九升八合九夕
「上」　六畝拾二歩　　壹石貳斗八升一夕　　正住坊
「上」　壹反四畝廿六歩　　貳石九斗七升三合四夕　　同　人
合　　四石貳斗五升三合五夕
「上」　七畝七歩　　壹石四斗四升七合　　玉泉坊
「上」　壹反三畝　　貳石六斗　　*同人「安楽坊」
合　　四石四升七合
「上」　四畝拾歩　　八斗六升六合七夕　　宝生坊

「中」 三畝拾歩　六斗　同　人
「上」 七畝七歩　壹石四斗四升六合七夕　同　人
「上」 四畝五歩　八斗三升三合三夕　同　人
「上」 三畝拾二歩　六斗八升　同　人
合　四石四斗二升六合七夕
「上」 壹反二畝五歩　貳石四斗三升三合三夕　西園坊
以上
「上」 七畝廿二歩　壹石五斗四升六合七夕　東蔵坊
「上」 七畝拾五歩　壹石五斗　同　人
合　参石四升六合七夕
「上」 三畝拾五歩　七斗　*中照『(白紙)』　中照坊
「上」 壹段五畝拾六歩　三石壹斗六合七夕　同　人
合　参石八斗六合七夕
「中」 壹段九畝六歩　三石四斗五升六合　東禅坊
以上
「上」 五畝二歩　壹石一升三合三夕　禅林坊
「上」 壹段六畝　三石二斗　同　人
合　四石二斗一升六合六夕
「畠」二畝拾二歩　三斗三升五合九夕　歓喜坊
「上」 壹段五畝五歩　三石三升三合三夕　同　人

「上」 五畝　壹石　同　人
合　四石三斗六升九合二夕
「上」 六畝廿九歩　壹石三斗九升三合四夕　実相坊
九畝九歩　壹石六斗七升四合　同　人
合　参石六升七合四夕
「中」 七畝廿五歩　壹石四斗一升　奥之坊
「中」 七畝廿四歩　壹石四斗四合　*同人『松之坊入』
「上」 七畝拾四歩　壹石四斗九升三合三夕　「奥坊」同　人
合　四石三斗七合三夕
「中」 八畝七歩　壹石四斗八升二合　多門坊
以上
「中」 八畝貳拾四歩　壹石五斗八升四合　安楽坊
「上」 八畝拾一分　壹石六斗七升三合三夕　同　人
「上」 五畝拾壹歩　壹石七升三合三夕　同　人
合　四石三斗三升六夕
「上」 八畝　壹石六斗　持禅坊
「上」 七畝　壹石四斗　同　人
「上」 九畝廿五歩　壹石九斗六升六合七夕　同　人
合　四石九斗六升六合七夕

「上」一反四畝貳拾歩　貳石九斗三升三合三夕　常楽坊
「上」九畝拾三歩　壹石八斗八升六合七夕　同　人
合　四石八斗二升
「中」壹段二畝拾三歩　貳石二斗三升八合　龍象坊
「中」三畝廿五歩　六斗九升　同　人
合　貳石九斗二升八合
「上」壹段五畝五歩　参石三升三合三夕　金剛院
以上
「上」壹段壹畝拾六歩　貳石三斗六合七夕　禅光坊
「中」六畝五歩　壹石一斗一升　同　人
「中」八畝　壹石四斗四升　同　人
合　四石八斗五升六合七夕
「中」三畝廿五歩　六斗九升　十地坊
「中」三畝廿二分　六斗七升二合　同　人
合　壹石三斗六升二合
「上」壹段六畝廿九分　三石三斗九升三合三夕　千蔵坊
「上」五畝拾六分　壹石壹斗六合六夕　同　人
合　四石四斗九升九合九夕
「上」五畝廿歩　壹石一斗三升三合三夕　善　坊
「上」壹段二畝拾八分　貳石五斗二升　浄光院分　同　人
合　参石六斗五升三合三夕
「上」八畝七歩　壹石六斗四升六合六夕　吉祥坊
「上」七畝拾八分　壹石五斗二升　同　人
合　参石壹斗六升六合六夕
*壹段三畝三分　弐石六斗二升　正　善
以上
惣都合九拾九石九斗壹升壹合六石ゝ
（*じるし上の貼紙）
「中」壹反五畝廿分　弐石八斗二升　正　善
惣都合百石壹斗五升一合六夕ゝ
慶長七年十月六日書之
鶴林寺

（裏表紙）



六　刀田山寺領分名寄帳

（表紙）

壬寅文貳年
刀田山寺領分名寄帳
寅霜月吉日

（冊八）

光明院

長なわて西圓坊田　上　壹反貳畝五歩　分米貳石四斗三升三合三夕
横みとり　上　壹反壹畝拾七歩　分米貳石三斗壹升三合三夕
同所「五十四」　*上　壹反五畝拾六歩　分米三石壹斗六合六夕
同所「三十六」　*上　五畝貳拾六歩　分米壹石壹斗七升三合六夕
長なわて中性坊田　上　三畝拾五歩　分米七斗
ふくてん新左衛門田　中　五畝廿七歩六厘　分米壹石六升五合貳夕
長なわて北町圓満坊田　上　七畝拾歩　分米壹石四斗六升六合七夕
（割印）ふくてん金蔵院田　中　七畝拾貳歩　分米壹石三斗三升貳合
（割印）寺ノ西南ノ町中蔵坊田　上　七畝　分米壹石四斗
（割印）あらき圓満坊田　上　三畝拾壹歩　分米六斗七升三合三夕
（割印）同所北町十地坊田　中　三畝貳拾五歩　分米六斗九升

田合八段三畝拾四歩六厘　分米拾六石三斗五升四合

正住坊

大門　上　六畝拾貳歩　分米壹石貳斗八升
坊領ノ橋　上　壹反四畝廿六歩　分米貳石九斗七升三合三夕
寺ノ西　上　七畝貳拾四歩　分米壹石五斗六升
よこみとり禅林坊田　上　七畝貳拾三歩　分米壹石五斗五升三合三夕
安楽坊田歩町東ノ町　上　壹反貳拾五歩　分米貳石壹斗六升六合六夕
ふくてん中蔵坊田　中　五畝貳拾六歩　分米壹石五升六合
長なわて北町金蔵院田　上　四畝拾四歩　分米八斗九升三合三夕

「普賢院」

田数合五反八畝歩　此分米拾壹石四斗八升貳合五夕

持禅坊

東大門　上　七畝五歩　分米壹石四斗六升
出雲田　中　八畝　分米壹石四斗四升
ふくてん長町　上　八畝　分米壹石六斗　公方領
同所東ふくてん　中　六畝五歩　分米壹石壹斗壹升
よこミとり　上　九畝廿五歩　分米壹石九斗六升六合七夕
（割印）かきまち　上　六畝拾五歩　分米壹石三斗（割印）

「持善院」

（割印）長なわて北町禅林坊田　此内三畝　廿歩七リン　廿七歩　公方分
上　八畝　分米壹石六斗
同所圓満坊田
上　七畝拾歩　分米壹石四斗六升六合六夕
*東大門北町浄光院田
上　六畝拾貳歩　分米壹石貳斗八升

『（右の行の上に貼紙）
㊞　元文五年申ノ十一月

上田六畝拾貳歩　南大門前川なりニ付高之内ニ而引申候
内拾七歩貳厘七毛貳　分米壹斗壹升五合貳夕

（割印）まちの内畠なをし中蔵坊分
上　貳畝拾貳歩　分米四斗八升
あらき南町十地坊田
中　三畝貳拾貳歩　分米六斗七升貳合
まつの内中蔵坊苗代
上　貳畝　分米四斗

田数合七反五畝貳拾歩
此分米拾四石七斗七升五合三夕
内貳石三斗三升八合　公方分引
残高拾貳石四斗三升七合三夕

谷之坊　「慈恩院」

長なわてまちなをし
上　七畝拾六歩　分米壹石五斗六合七夕
よこみとり久大夫田
中　八畝八歩　分米壹石四斗八升八合
（割印）寺ノ西
上　七畝拾五歩　分米壹石五斗（割印）

（割印）かき町南中蔵坊田
上　七畝拾八歩　分米壹石五斗貳升
寺ノ西南町（マヽ）女意坊田
上　八畝三歩　分米壹石六斗貳升
多（カ）意田北町
上　六畝六歩　分米壹石貳斗四升

（割印）長なわて北町（マヽ）女意坊田
上　五畝廿三歩　分米壹石壹斗五升三合三夕
東大門浄光院田
上　貳畝八歩　分米四斗五升三合三夕

田数合五反三畝七歩
此高拾石四斗八升壹合三夕
内四斗七升六合七夕　御公方分ニ引
残高拾石四合六夕

実相坊　「浄心院」

ふくてん角田
上　六畝貳拾九歩　分米壹石三斗九升三合四夕
はいてん
上　七畝拾五歩　分米壹石五斗
道なん田
中　壹反五畝廿歩　分米貳石八斗貳升
ふくてん
中　九畝九歩　分米壹石六斗七升四合（割印）
長なわて南ノ町圓満坊田
上　七畝拾歩　分米壹石四斗六升六合七夕
大門金蔵院田
上　六畝廿貳歩　分米壹石三斗四升六合六夕
寺ノ西北町次左衛門田
上　七畝拾五歩　分米壹石五斗
よこみとり安養院田
上　九畝拾三歩　分米壹石八斗八升六合七夕

（割印）（割印）（割印）（割印）

田数合七反拾三歩
此高拾三石五斗八升七合四夕
内五斗五升六合　御公方分ニ引
残高拾三石三斗壹合四夕

奥之坊　「真光院」

いけしろ
中　七畝貳拾五歩　分米壹石四斗壹升
ぶくてん
中　八畝七歩　分米壹石四斗八升貳合
寺ノ西
上　七畝拾四歩　分米壹石四斗九升三合三夕
同所
上　貳畝拾三歩　分米四斗八升六合六夕
かき町北町中蔵坊田
上　七畝拾七歩　分米壹石五斗壹升三合三夕
寺ノ西北町女意坊田（ママ）
上　七畝貳歩　分米壹石四斗壹升三合三夕
多□田南町
上　六畝七歩　分米壹石貳斗四升六合七夕
長なわて南町女意坊田（ママ）
上　五畝廿三歩　分米壹石壹斗五升三合三夕
よこみとり安養院田
中　貳畝廿九歩　分米五斗三升四合
田数合五反五畝拾七歩
此高拾石七斗三升貳合五夕

東圓坊　「龍禅院」

長なわて東
上　三畝五歩　分米六斗三升三合三夕

よこみとり
中　壹反貳畝拾六歩　分米貳石貳斗五升六合
長なわて西
中　三畝貳拾五歩　分米六斗九升
同所圓満坊歩町
上　七畝拾歩　分米壹石四斗六升六合七夕
長なわて南町禅林坊田
*上　八畝　分米壹石六斗
にかいの下中蔵坊田
上　六畝四歩　分米壹石貳斗貳升六合七夕
東大門南町浄光院田
上　八畝五歩　分米壹石六斗三升三合三夕
長なわて南町金蔵院田
上　七畝　分米壹石四斗

（*じるし上の貼紙）
「
㊟　元文五年申ノ十一月
上田六畝四歩　内壹畝六歩四厘五毛　分米貳斗四升三合
上田八畝五歩　内拾六歩七厘四毛　分米壹斗壹升壹合六夕
右者南大門前川なりニ付高之内ニ而引申候
」

田数合五反六畝五歩
此高拾石九斗六合

玉泉坊　「宝生院」

大門
上　七畝七歩　分米壹石四斗四升七合
長なわて作意田（カ）（カ）
上　七畝拾歩　分米壹石四斗六升七合
よこみとり
上　七畝七歩　分米壹石四斗四升六合六夕
同所
上　四畝五歩　分米八斗三升三合三夕

同所長田村惣意田ノ内有
上　三畝拾八歩　分米七斗貳升

恵門たはし禅林坊田
上　八畝廿四歩　分米壹石七斗六升

安楽坊田西ノ町
上　七畝拾六歩　分米壹石五斗六合六夕

寺ノ西北町中蔵坊田
上　七畝　分米壹石四斗

まつの内中蔵坊田
上　六畝拾歩　分米壹石貳斗六升六合七夕

上畑壹畝五歩　分米壹斗六升三合五夕

田数合五反九畝七歩

此高拾壹石八斗四升七合貳夕

田畑合六反拾貳歩

分米二口合拾貳石壹斗七夕

教圓

承仕田
一上壹反六畝四歩　分米三石貳斗貳升七合＊「八ツ分」

寺内田畠之分

「光明院」
中性坊
長吏坊

一女意坊屋しき東町　一田八畝七歩　分米壹石四斗　壹石七斗代

此内壹畝正住坊へ入ル　〆七畝七歩分米壹石貳斗三升

禅林坊屋しき
一畠七畝廿七歩　分米七斗九升　石代

玉泉坊屋敷
さんのふの元
一田四畝廿三歩　「此之屋敷一山惣中相談上ニ而本高山林ニ仕者也　宝永二乙酉年正月廿二日」　「普賢院」　正住坊　分米八斗壹升三夕　壹石七斗代

安養院屋しき
一畠八畝　分米八斗　石代

くわんき坊屋しき
一畠壹畝拾歩　分米壹斗三升三合三夕　石代

女意坊田東ノ町ノ内東
一田壹畝　分米壹斗七升　壹石七斗代

東蔵坊屋しき
一田六畝十九歩　「持善院」持禅坊　分米壹石六斗壹合三夕　壹石六斗代

「東善坊屋敷事」
十地坊屋しき
一畠七畝廿壹歩　分米七斗七升　石代

実相坊屋しきノ内取
一同貳拾歩　分米六升六合六夕　石代

谷之坊古屋しき
一畠六畝貳歩　分米六斗六合六夕　石代　「慈恩院」谷之坊

禅林坊屋しきノ内
一畠三畝六歩　分米三斗貳升　石代

みろく坊屋しき
一田六畝　分米九斗六升　壹石六斗代

杢之坊屋しき
一畠七畝廿三歩　分米七斗七升六合六夕　石代　「浄心院」実相坊

同人屋しき
一田四畝五歩　分米七斗八升貳合六夕　壹石七斗代

圓満坊屋しき
一畠九畝廿二歩　分米九斗七升三合三夕　石代

「真光院」
奥之坊

西乗坊屋しき
一田五畝七歩　分米九斗四升貳合　壹石八斗代

安楽坊屋しき
一畠七畝三歩　分米七斗壹升　石代

「龍禅院」
東圓坊

実相坊屋しき
一田五畝廿四歩　分米八斗七升　壹石五斗代

「宝生院」
玉泉坊

同人屋しき
一畠四畝廿歩　分米四斗六升六合六夕　石代

吉乗坊屋しき
一畠五畝三歩　分米五斗壹升　石代　同人

田高〆六石八斗貳升六合貳夕

畠高〆六石九斗貳升三合

畠〆六反九セ七歩

自保延三年以来至于当年百九十七年

十三代相伝也

寺僧

法華堂

一和尚　覚明房阿闍梨忠真（伊勢和寺）　生年　六十八

二和尚　伊岡慶円　粟津

三和尚　円定房　権別当

四和尚　式部也　年行事　稲屋

五和尚　石見（大津・長田）

六和尚　大夫也米田

講堂

一和尚　上総公　安田

二和尚　加賀公　長田

三和尚　豊前　長田

四和尚　越後也

五和尚　尾張也　木村

六和尚　因幡公　安田

右筆明達　生年　五十歳

◇鶴林寺本堂修理委員会編『国宝鶴林寺本堂修理（屋根葺替）工事報告書』（昭和四四年七月刊）によった。

八　棟札・銘文

一　木片銘　（銘一）

弘長三年癸亥二月廿七日　棟上

檀那　沙弥誓願（宗末）　良満大徳　弁豪大徳

二　太子堂屋根板墨書銘　（銘二）

鶴林寺法華堂修理自太子御草蒼以来至于天永三年第三度注之于次宝治三年修理之其後相当千七十九年正中三年丙刁修理之已上第五度

大工左近入道沙弥覚性

舎弟四郎　橘末永（末カ）

大工子息右馬充橘光真（允カ）

同舎弟左近次郎延俊

同左近三郎　同五郎

此人々者長田村住也

別当　頼玄　生年卅七

三　宝篋印塔銘文　（銘三）

暦応二年己卯三月八日

勧進僧□慶

◇永江幾久二『加古川市内石造遺品の調査報告書』（加古川市教育委員会、昭和三七年三月刊）によった。

四　太子堂懸仏銘　（銘四）

康暦元

八月五日

五　大講堂宮殿棟札　（銘五）

播州鶴林寺大講堂宮殿上棟應永二二年丁丑卯月十五日＊

大願主肥前阿闍梨覺藝　道光禅門　沙弥妙覺　右衛門尉影安

＊于時長吏法印忠深大徳

大工　右衛門大夫宗重　右衛門尉平久延

右衛門□□橘末行　沙弥蔵阿

六　法華経板木銘　（銘六）

応永十年卯月

七　山王社棟札銘　（銘七）

長吏律師覺舜　阿闍梨覺藝　阿闍梨清舜　覺禅　慶尊　聖秀　祐慶

上棟　山王社　應永十三年丙戌卯月廿日申剋左方大工左衛門尉狛氏安＊

阿闍梨覺慶　阿闍梨聡印　尊秀　慶金　尊祐　清秀　祐真　覺誓

覺金　祐尊　聡秀　尊覺　慶恵

＊右方大工左衛門尉橘末光

祐圓　覺秀　覺賢　聡祐

八　木札片銘　（銘八）

幡（マヽ）州賀古天王寺

于時正長元年戊申八月十九日□

大願主　阿闍梨覺誓

小山三郎左衛門尉貞純

長吏阿闍梨覺（カ）盛

九　聖徳太子絵伝箱書　（銘九）

（蓋裏）

上宮聖徳皇太子殿八補繪宝徳貳年二月日修複之　鶴林寺常住也

（箱内底）

八補繪箱宝徳貳年二月日　脩複之

一〇　太鼓胴板銘　（銘一〇）

（一）

。寛正貳暦二月十九日
。聖灵(霊)會例場始之
。一方　仕續(方)
。是往古之□□
。大　鼓　□□
。播州　賀古郡

(二)

。大鼓筒　□□
。寛正貳暦辛巳
。二月十九日行之
。一方　仕□(続)之

二　文書櫃底書　（銘一一）

年行事
天文廿二年　弥勒坊

三　護摩堂棟札銘　（銘一二）

上棟播州賀古郡刀田山鶴林寺護摩堂本願大阿闍梨安養院法印春祐*

癸　永禄六年
亥　卯月中旬

*大工藤原源左衛門小工□□三郎左衛門　敬白

一三　常行堂東北隅鬼瓦箆書銘　（銘一三）

再興本願當寺僧安養院春祐
永禄九年二月吉日

一四　丸瓦箆書銘　（銘一四）

□□□(大工播)
多家左□時(方)経
當寺住僧安養院
□祐(春)

□□寺常行堂瓦成時本願○
□時永禄九年二月中旬ヨリ始候早

一五　丸瓦箆書銘　（銘一五）

□□□
□宗吉　春祐
安養院

□□□瓦菁□本願○
□□九年二月吉日作始也

一六　丸瓦箆書銘　（銘一六）

永禄九年三月　日
かわら

一七　太子堂漆塗机朱書銘　（銘一七）

播州加古郡刀田山御太子御宝前机寄進　梶原平三兵衛尉景秀敬白天正二年*
*丙子二月吉日

一八　懸仏銘　（銘三九）

敬白
奉懸薬師如来御寶前
御正躰一面
右意趣者　為現當二世之
悉地令成熟円満故也　敬白

〔参　考〕

一　鶴林寺過去帳序並縁起

過去張叙　　天台沙門　實海述　　（宝冊一）

夫九枝燈滅纔招二殘月之光一四山花萎　緬臨二孤峯之雲一矣萬物有限百事無レ常東岱前後之煙邇　昇　遐　昇　北邙新舊之露親消疎消矣貴賤徒添二骸骨一於古墳之數一緇素空駐二姓名一於舊里之苔一魂魄去而不レ還茫々　三界之二何處一命根絶而不レ継闇々　四趣受二何苦一非二自連神足那律天眼一孰能知二見之一耶任レ因感レ果哀哉不レ如下傾二法水一洗二塵垢一挑二恵燈一照中迷暗上繇レ茲弟子旦暮所レ修誦経諷咒之微善寤寐所レ勵佛寶法宝之功徳併報二師長父母之厚徳一悉謝二同行知識之芳恩一及二花下半日友月前一夜客一悲誓内薫加持外資雖二八獄之罪人一盍二救療一哉彼道如之千日勤修解二紅蓮之氷一林通　之一偈誦力滅二焦熱之焔一刹今唱二姓名一於佛前一皈二功徳於果地一出離生死不レ足レ致レ疑仰願釋迦弥陀両足之尊観音弥勒四攝之大士照二見弟子之丹心一傾二引攝之蓮臺一遂二到岸之素意一云レ爾

于岩永正甲戌佛涅槃日

天台沙門實海叙

過去帳縁起

梵漢和三洲之過去帳縁起於二月氏一者中天竺摩訶陀國解脱生死寺作二大過去帳一廻二向所修功徳一名帳衆三萬七千餘人也亦同國那蘭陀寺大小二巻有二過去帳一戒賢論師以二阿氏多尊者一為二宗主一興二有教小乗法一佛法結縁之亡靈貴賤同記二置之一小過去帳謂レ之又同寺師子覺智光以二妙吉祥尊一為二宗主一興二大乗圓頓教一謂二大過去帳一其外月氏境為レ首諸蘭悉有二此方法一次於二震旦一者白馬寺本名云二招提寺一國請寺等認レ之毎日廻向無二退轉一加レ之寒山拾徳對二六十餘人大衆一録二過去帳一弔二有縁無縁之亡靈一計二知功徳之中功徳利益之中利益一者歟於二日域一者日枝山延暦寺貞観年中前唐院大師始記二置過去帳一擬二速成妙果之直因一從レ夫以来南都北京諸寺此取修之方法専盛也竊案二三国之興起一宿二一樹之陰一汲二同井水一是併多生廣劫之厚縁也何況一紙列名之契約顕二一佛浄土之勝縁一迷悟同時之回向叶二凡聖一如實義一誠是自他薫善之智風何不レ拂二衆迷之闇一耶

（付）鶴林寺歴代長吏記（鶴林寺長史幹覚盛師編）

中興一世寺務検校法印義應

建仁三癸亥二月三日遷化、天台中興改宗一世、玉泉坊室、歴代之實名改書記置位牌損事法花塔納者也（宝生院旧過去帳ニ依ル）

二世法印権大僧都義正　建保二甲戌十月五日

三世僧正義仙　寛喜三壬辰五月八日

四世大僧正義了　建長四壬子十月十日

五世大僧都義隨　文永十癸酉八月十五日

六世僧正弘順　弘安五壬辰正月廿八日
七世大僧都得順　徳治三庚戌二月三日
八世権大僧都得了　文保二丁巳六月五日
九世大僧正得弘　延元二丙子十一月六日
十世大阿闍梨永盛　貞和二丙戌二月十九日
十一世堅者法印恵順　貞治五丙午七月廿六日
十二世法印順應　永徳元辛酉十二月廿日
十三世法印慶順　應永二乙亥正月十二日
十四世僧正守盛　應永十八庚寅五月六日
十五世法印覚盛　正長六甲寅二月十三日
十六世大僧都得盛　享徳二癸酉八月五日
十七世権大僧都尊盛　寛正六乙巳五月十八日
十八世大阿闍梨法印智盛　文明五癸巳十二月五日真言秘宗改宗高野山五室谷ヨリ転住
十九世法印秀盛　延徳三己酉九月十七日
二十世僧正尊海　永正四丁卯二月十八日
廿一世法印秀圓　天文三甲午十一月十五日
廿二世法印大僧都壽盛　弘治元乙卯四月三日
廿三世法印慶盛　天正六戊寅十月二日
廿四世堅者恵盛　天正十壬午八月十日
廿五世権大僧都観盛　慶長十八丑二月六日
廿六世法印祐順　元和七辛酉九月十三日
廿七世法印得盛　寛永五戊辰三月五日
廿八世権大僧都法印尊勝　高野山五室谷福智院ヨリ転住
廿九世権大僧都長吏法印慶算　万治元年十二月廿四日安楽坊
卅世権大僧都長吏法印慶祐　寛文四乙巳年七月
卅一世堅者法印長吏祐盛　天和二戊年八月九日普賢院、八十二才
卅二世三部都法大阿闍梨堅者長吏良盛法印大和尚　元禄八乙亥年正月十二日六十九才玉泉坊室　万治三年天台宗改宗輪王寺末寺、長吏職天和二年八月ヨリ享保二年十一月九日マデ
卅三世大阿闍梨堅者長吏法印良辨大和尚
元禄十三庚辰四月十日龍禅院叉六十九才　（真光院）
卅四世三部都法大阿闍梨堅者長吏教盛法印大和尚
享保二丁酉十一月九日良盛弟子六十才　宝生院、大西市郎右ヱ門出　墓　宝生院
卅五世三部都法大阿闍梨堅者長吏法印良栄大和尚
享保十三年戊申三月廿九日六十二才慈恩院叉　墓　（真光院）
卅六世大阿闍梨権大僧都長吏法印快辨大和尚
宝暦二申歳十月廿七日龍禅院六十七才（比叡山正覚院豪靖師匠執行探題）　墓　（真光院）
卅七世堅者法印長吏舜正大和尚
宝暦十辰年十一月十六日五十九才龍禅院　真光院

卅八世権大僧都大阿闍梨竪者長吏法印弘慶大和尚
明和五戊子歳正月十一日（宝生院過去帳ニモ所載）
卅九世権大僧都長吏法印慈盛大和尚
明和九壬辰歳二月廿九日六十二才 宝生院四世 北在家大西氏出
四十世権大僧都長吏法印實範霊位　安永二癸巳九月十日四十二才
四十一世権大僧都竪者長吏法印快旭大和尚
安永七戌年十一月廿一日四十才龍禅院叓
四十二世慈光院大阿梨闍竪者長吏法印圓盛真登　文化十五寅年十二月
七日七十四才慈盛弟子　細田村正木伝兵衛出 宝生院ヲ弟子誠盛ニ譲リ 真光院ニ転住ス
四十三世圓融院大阿闍梨竪者長吏法印周盛大和尚　天保八酉年五月朔
日圓盛ノ弟子 北在家飴屋吉 右ヱ門ノ出　宝生院中興普請勧発六十六才浄泉坊
四十四世権大僧都長吏法印舜正大和尚（二重抹消）
四十四世大阿闍梨長吏法印恵圭大和尚
安政三丙辰年十一月廿四日六十三才
四十五世願應院大阿闍梨竪者長吏法印盛隆大和尚
文久元酉年三月九日六十三才、圓盛ノ弟子 丹波市原ノ出生　真光院ヨリ宝
生院ニ転住、宝生院ヲ普請ス
四十六世善應院大阿闍梨竪者長吏法印光盛大和尚
元治元子年九月十九日五十二才真光院薬医門建盛隆法印弟子、真光
院ヨリ宝生院ヘ転住、米田村出生

四十七世大阿闍梨長吏法印圭芳大和尚　明治二己巳年二月廿四日　五十九
才
四十八世慈恩院大阿闍梨長吏法印壽圭大和尚
大正九年十一月廿九日七十八才　（浄心院）
四十九世持善院権僧正長吏法印圭忍大和尚
大正十四年九月廿二日八十六才 江州仰木岡本氏出生　墓（真光院）
五十世龍禅院権僧正長吏法印豪盛大和尚
昭和八年九月十日六十六才 神崎郡香呂村犬飼田中氏出生、圭忍弟子　墓（宝生院）
五十一世久遠壽院大阿闍梨長吏法印大僧正恵寛大和尚
昭和五十年一月十二日九十一才 岡山県津山市大篠茂渡氏出生　三千院門跡探題大僧
正堀恵慶弟子 堀氏ハ寿圭徒弟 浄心院住職　天台座主大僧正山田恵諦ノ兄弟子、毘
沙門堂門跡已講大僧正梅山圓了ノ兄弟子　（浄心院）
五十二世實然大僧正　与楽寺市原即盛徒弟宝積院内海実行徒弟ヨリ転
師宍粟郡安富町安志吉田氏出生　（真光院）
五十三世覚盛大僧正　豪盛徒弟、宝生院ニテ出生、現董、幹氏（宝生院）
◇資料　永正甲戌仏涅槃日天台沙門實海叙 ｝旧過去帳
資料　寛政二戌年宝生院誠盛記載 ｝旧過去帳
その他宝生院蔵過去帳五冊等により
昭和五十四年二月現在宝生院所蔵旧過去帳並ニ内仏位牌及ビ墓
塔頭宝生院真光院浄心院住職伝承ヲ包括ノ上覚盛調査閲了記ス

二　修正会悔過作法　（宝冊一六）

（異筆）
「刀田山鶴林寺本尊薬師如来日光月光毘沙門韋駄天
正徳四甲午年二月十五丁亥日開帳四月八己卯日迄
閇帳仕候長吏寶生院教盛五十七歳時」

（紙継目）

刀田山鶴林寺　修正會法事之作法　寶生院教盛法印

登礼盤先啓　二打　取香呂蹲踞

一切恭敬　敬礼常住三寶　打

是諸衆等（常座）　人各踞跪　厳持香花

如法供養　願此香花雲　遍満十方界

供養一切佛　化佛并真法　菩薩聲聞衆

以為光明臺　廣於无邊界　無邊无量

作佛事　供養一切恭敬（導師ノミ）　打

如来妙色身（平座）　世間无興等　无比不思議

是故今敬礼　如来色无盡　智恵亦復然

一切法常住　是故我歸依　打　《下座》

瑠璃金山大覺尊（導師立座セヨ　散華　同　衆座トモ立ツ）　福徳智恵皆圓満

獨以出見三千界　極難値遇優曇花

香花供養佛　*立テ居ヘシ　登盤礼『是レ迄行堂衆立テ居ベシ』

敬礼常住三寶　歎佛咒願（下リテ一礼　向一鷹　則登ル　咒願略）　打

三寶境界（微音（導師ノミ））　不可思議　恒沙劫中　讃歎稱揚

南無毘盧遮那（一礼ツヽ　導師奉請衆立取次第）　南無遍周法界盧遮那佛

南無一代教主尺迦尊　南無大悲影向證知證誠

南無令法久住利有情　南無十方三世佛

南無寶髻佛　南無光明寶幢佛

南無金幢光佛　南無金光蔵佛

南無金蓋寶積佛　南無花光幢佛

南無大幢光佛　南無大寶幢佛

南无不動佛　南無寶動佛

南無无量寿佛　南無天鼓音佛

南无功徳如来　南無當来導師弥勒慈尊

南無舎利形像善面宝塔　南無成就厳勝王佛

南無妙幢菩薩　南無金光菩薩

南無金蔵菩薩　南無常帝菩薩

南無法上菩薩　南無善安菩薩

南無娑婆世界世无畏者利益有情

我等奉請吉祥天（（ソンコ）平座導師ノミ之ヲ唱フ）　至心希請率土中

消除解脱一切難　令得圓満諸善願

仰願本尊瑠璃光　　真言秘蜜一切誦 打

唵(イル)呼嚧々々戦駄利麽橙祇莎婆呵 廿一反打

佛名 取如意 微音

南無神咒威力消除業障(ト云)神咒(如上)威力消除災難 打

上 南無大地菩薩(ソンコ礼)権現(衆平座取次第)　中 南無常住妙花普光菫衆

下 南無七寶所成勝宮殿　上 南無衆法瓔珞庄厳躰

中 南無還念本願慈悲護　下 南無聖朝安穏増寶寿

上 南無天下法界利有情　中 南無国土安穏興正法

下 南無国吏安穏成善願　上 南無庄内安穏諸人快楽

中 南無伽藍安穏興隆佛法　下 南無年頭々番成大願

上 南無大施主等安穏寿福　中 南無満堂大衆成所願

上 南無頂上佛面除疫療　上 南無最上佛面願満足

上 南無地味増長成五穀　上 南無蚕(サン)養如意万斤利益

上 南無一切所願皆令満足 打

大悲護念成大願(ソンコ)(コノ二句導師一人唱之)　三界六道利有情

南無諸大菩薩(イル導師一人平座)麽訶薩聲聞縁覚一切賢

聖普為四恩三有法界衆生永断除三障

已皈命礼 打 至心懺悔(大懺悔)如是等一切(助音)世界

諸佛世尊常住在世是諸世尊當慈念

我憶念我證知我若我此生若我前生從

無始生死以来所作衆罪不自覚知若

自作若教他作見作随喜若塔若僧若

十方僧物若自取若教人取見作随喜(イ取)

或作五逆四重無間重罪若自作若教他

作見作随喜十不善道自作教他見作

随喜所作罪障或有覆蔵或無覆蔵應

堕地獄餓鬼畜生及諸悪趣邊地下賤及

未来(イ良)際(イ車)如是等所作罪障今於十方三世

諸佛懺悔(懺悔)発露皆悉↑↑至心発願我(イ願)

等従今日乃至無上菩提於一切所常得値遇

十方諸佛普賢文殊観音勢至地蔵菩薩

令我恒得親近供養(イ敬)恭敬(イ養)発菩提心永

不退轉常生々所浄佛国土断除三障永離

衆難成無上道 打(イ棄佛子打)已上乙音

白衆等聴説等云 打

次行道 三反 取楊杖開　誦般若心経 下聲

次乍立発願　摩訶 行深菩提 心無 是大 能除 掲諦

至心発願(平座高音取次第)正月修善　八箇月夜　吉祥悔過

楊杖香水　加持威力　得大霊験　護持大衆

諸檀施主　消除不祥　息災延命　増長福寿

地味増長　如意吉祥　五穀成就　蚕養如意
無邊善願　決定圓満　皆令満足　及以法界
平等利益
平座取次第
衆生無邊誓願度　福智無邊誓願集
法門無盡誓願知　無上菩提誓願證
加持香水成大願

次守護句　可有

次持咒行道　三反　下聲　揚杖直

南謨薄伽伐帝鞞殺窶社嚕薩埵瑠璃
鉢利婆羅闍耶怛他揭多耳阿羅歇帝
三藐三勃陀耶怛姪他唵鞞殺逝鞞殺
逝鞞殺社三没揭帝莎呵

次登礼盤　蹲踞云

導師一人
指聲（微音）

南無尺迦牟尼佛　打　南無弥勒佛　打
南無薬師佛　打　南無无量寿佛　打
南無大聖明王　打　南無観世音菩薩　打
南無大吉祥天　打　南無梵尺二天　打
南無四大天王　打　南無堅牢地神　打
所修功徳　廻向三寶　廻向十方佛　廻向本尊
廻向三界　廻向神祇　廻向伽藍　廻向聖朝
〻〻國内　〻〻國吏　〻〻庄内　〻〻寺内
〻〻年頭　〻〻施主　〻〻法界　〻〻平等

次佛子申云一棄佛子某　満座大衆　打

大導師作法

先登礼盤　有音楽　勅衣正如常金　二打　取香呂

導師一人
當願衆生　得無碍眼　見一切佛
唯願如来　哀愍我　常令得見大悲身
三業無惓奉仕尊　速出生死歸真際　三礼

次三十二相

烏瑟膩沙無見相　於百　髪毛右轉紺青相
面輪端止満月相　眉間毫相右旋相　百
眼睫紺青不乱相　百　眼精紺色分明相　百
四十歯齊逾雪相　於　四牙鮮白鉾利相
舌相廣長覆面相　百　常得上味適悦相
梵音和雅等聞相　常光面各一尋相
躰相縦廣量等相　於　身相修廣端厳相
容儀洪満端直相　七處充満愛楽相
肩頸圓満殊妙相　膊腋悉皆充實相

胸臆身半師子相　身色光耀金躰相
身皮細滑離塵相　毛孔一生右旋相
陰相蔵蜜象王相　両臂修直膝相
雙腨漸次纎円相於　足跟廣長稱趺相
足趺修高稱跟相　指間鞔網金色相
諸指圓満纎長相　手足柔軟勝餘相
千福輪文圓満相於　足下平満等觸相
我今畧讃佛功徳　於徳海中唯一滴
廻此福聚施群生　皆願速證菩提果
「如一塵端如塵断　地中佛讃不思議
佛及菩提在果中　止見佛性證妙果」
佛名南無歸命頂礼如来妙相　勾ノ中他本ニナシ
生〻世〻値遇讃嘆
「略他本ニナシ次伽陀
如来妙色身　世間無与等
無比不思議　是故今敬礼
面善円浄如満月　威光猶如千日月
聲如天鼓俱翅羅　故我頂礼弥陀尊
深達罪福相　遍照於十方
微妙浄法界　具相三十二

次導師佛名「導師一人ニテ云」
南無歸命頂礼如来妙相
生〻世〻如是讃嘆」
次教化　導師句頭
面輪端正之躰ヲハ秋ノ月ニモ喩ヘキカナ
妄想之雲永晴テ法性之空ニ大声同音マトカナレハコソ有ケレ
眼精紺色之粒ヲハ夏ノ蓮ニモヨソフヘキカナ
生死井ノ濁ニケカサレスシテ清涼ノ池ニアサヤカナレハコソ有ケレ「謹奉讃嘆」
「次金二打　唄　散花　梵音佛名
次導師佛名
哀愍摂受　護持一衆　大悲護念」
次神分　祈願　表白
敬白周遍法界摩訶毗盧遮那因円果満
盧遮那海會一代教主釈迦善逝浄瑠
璃世界醫王博伽安楽清浄土无量寿佛
當来導師弥勒慈尊八万十二権實聖
教普賢文殊等之諸大菩薩身子目連
等之諸賢聖衆惣佛眼所照微塵剥
土之三寶別常住海會諸尊聖衆之宝

前殊ニハ當年行疫流行神等而言今信心
大施主等致一心之精誠備香花燈明於佛前
運テ無二之信心勤正月修善於毎年ニ御事所
以者何夫青陽之初春祈テモ可祈者息災延
命之計孟春之美景願可願者福寿増
長之善也因テ之開秘密之奥蔵ヲ唱ヘ諸
佛之神咒ヲ仰テ加持之威力ヲ祈現當之悉地ヲ
然者寿命長遠ハリ醫王之法薬ニ福祐
豊饒ノハリ預多聞之利益雖旨趣多シト大概在之
毎年之御勤也垂玉ヘヲ照覧給

次願文可讀之　次祈願　導師初

蹲踞南無令法久住利有情　以下南無ヲツケル天衆地類倍増法楽
國内神等威光自在　行疫神等永離業道
貴賤霊等皆成佛道　聖朝安穏増宝楽
國吏安穏万民与楽　大施主等安穏成悉地
満堂大衆成善願　伽藍安穏興隆佛法
三界六道平等利益
一礼宛導師ノミ南無頂上佛面除疫霊　南無最上佛面願満足
南無地味増長五穀成就　南無蚕養如意千斤利益
南無一切所願皆令満足

次勸請

導師ノミ敬礼十方三世佛　大恩教主尺迦尊
八万十二諸聖教　恒沙塵数諸聖衆
梵尺四王諸護法　還念本誓来影向
「次導師佛名
哀愍摂受　護持大衆　大悲護念」

已上大導師畢

次牛玉導師作法

先三礼　如来唄　次表白　次発願
次五大願　次加持　次呪文　次佛名
次教化　次礼
正月修善之牛玉ヲハ如意ノ珠ニモ喩ヘキカナ
七宝ノ才ヲ雨シテ庫蔵之内ニユタカナレハコソアリ
ケレ秘蜜加持ノ宝印ヲハ泉ノ水ニモヨソフ
ヘキカナ衆宝ノ貯ヲ涌シテ施主ノ
願ヲ満玉ヘハコソ有ケレ「謹奉讃嘆」
次薬師大呪　同小呪　次毗沙門呪

正本嘉吉三年癸亥十二月上旬筆者真慶ト有　嘉吉三癸亥年ヨリ元禄十一戊寅年マテ貳百五十六年ニ成ル右之正本本尊寶蔵納有也

元禄十一戊寅年正月十二日持主刀田山玉泉坊室寶生院　教盛法印
書写之者也

◇原本には博士が付されており、また朱筆で〇や合點・線などが記入されているが、ここでは割愛した。

三　安田吉道

（宝冊一一）

吉　道

次第 鷲の林や峯の雲〳〵。長閑き春そ久しき。是は九州黒田の家臣、安田某とは我事也。ある夜不思儀の霊夢を蒙りて候程に、此度思ひ立、播劔刀田山へ参、先祖を尋申さばやと存候。

道行 旅衣、頃は弥生のなかばとて〳〵、霞む行衛は末長門、下の関をば今朝越て、安藝の宮嶋伏拝、吉備津の宮や雨雲の、播磨の国をはる〳〵と、名を高砂の辺なる、刀田の林に着にけり〳〵。急候程に、是は早刀田山鷲林寺に着て候。暫里人を相待、委尋はやと思ひ候。一声サシ 春風桃李花の開る時、人の心も花やかに、あくかれ出る春の雲。実に長閑なる時とかや。

下哥 見渡は、柳桜をこき交て、今そ春辺の錦かな。上哥 くる春ことにさそはるる〳〵、心も長きけふの日に、運ぶ歩のかすよりも、つもる桜の雪の庭。猶色そへて紫の、花をたれたる藤の門。明るを春のけしきかな〳〵。ワキ 如何に、是成尉殿に尋申へき事の候。

シテ 此辺りにては見馴申さぬ御事也。何方よりの御参詣にて候。ワキ さん候、我は築紫のものにて候か、此度始て参詣仕候。このあたりに安田里と申所の御座候か。

シテ あなたに見ゆる一村こそ、安田里にて候。何故御尋候そ。ワキ さん候、我御祖安田吉道と申候は、慶長年中此安田里に住給ひし、吉太夫と申せし人の弟にて候か、其頃武名のほまれ有によって、築紫黒田の家臣と成候。悉に先の御霊の神、祝奉り度存候て、申候事にて候。安田の姓氏御存候はゝ、語て御聞せ候へ。

シテ 則我は安田にゆへ有者にて候。委語て聞せ申候べし。抑村上天皇の後胤、具平親王の旧跡は、今古大内村と申候。又安田の姓氏ハ具平親王の後胤にて、安田里を拝領せし故、安田勝之進、源の吉道と名乗、其外細田里に、船橋正一、又近村に長田喜直、養田友重、池田勝寿とて、五人の家臣有しそかし。

ワキ 能々聞は有難や。今こそ代々の先祖をハ、いやおひ受し嬉しさよ。

シテ 扨もまた、君に仕し其中に、安田吉道ハ、ワキ ますら男か正木のかつら。長き世に、シテ いきの松原刀田山の、檀越と成て今爰に。ワキ 御祖より修正會鬼面行ハる、シテ 其役を蒙り、今に至りて勤る事。ワキ 天下泰平。シテ 國土安穏。ワキ 五穀成就。シテ 民安全。地 四海波しつかにて、國も治る今の世は、神と君との恵にて、古今希なる御治せい。実に國恩を仰ても、こともおろかや

かゝる世に、生年生る有難やく。クリ地 夫神代の昔物語ハ、天地をもつて齋物とし、日月を以て正明とす。シテ其昔、此敷嶋は、唯一神道の國風にして、其家毎に御霊をは、屋敷のうちに勧請す。シテ去程に、我家に代々傳りて有しを見れは、二ツ引に三ツ巴の、紋所居しはたさし物、籏に指し竿迄も、シテ今は是刀田山にこそ預けれ。

同 旁以當山の追儺會の役を、勤むる也。

クセ 然に、此追儺會は、唯一神道の祓にして、大内において式例あり。扨刀田山の修正會は、人皇六十二代村上天皇、天徳年中より、正月八日追儺會鬼面の躍を、我先祖世々其役を蒙りて、刀田山より数度の使をうけて、天下泰平五穀成就の御祈、貴賤群集して其吉祥を貴めり。シテ夫東南に雲治り、西北に風静にて、刀田の林も栄行や、花も常盤の松の風、北露の虫の声迄も、和哥の姿にもるへしや。天地を動し、鬼神も感をなすとかや。ロンキ地 祈なば、なとか験のなかるへき、元より同し神の身なれは。去程に、安田の鎮守ハ、シテ天徳の頃より今文政に至るまて、九百余歳のほとをへて、おしめとも猶梓弓。地かへらぬは本の水。流は尽ぬ言の葉の、露の世語り末かけて、心安田に思しめせ。シテ今は何をかつゝむへき。我は安田の守り神。地又時節をも若松の、花はみどりと言捨て、白にきてこそ残りけれく。中入狂言語間奥ニ記

ワキ上 むは玉の、夜の夢路は五十年のく、その楽も逢かたき、栄花の春に立帰る、又寝の夢を待にけりく。後シテ千早振、天照神の國なれハ、日の本なりといふにそ有ける。我ハ是、安田の鎮守具勝明神とは我事なり。地夫吾國は、日の國なるによつて日の本と言。諸の神の始は、國常立の尊と申奉る。シテ次に月の國天竺の始、薄伽梵天は、地天神六代の末に當りて、象の頭の人初て月支にあらはるゝ。シテ次に星の國盤古氏妙見は、地地神四代の末に當りて、鬼の頭の人始て唐土にあらはるゝ。日は大陽、月は陽の精情、星は陽の残気也。三光皆我国より出給ふ。

シテ 貴きかな我國は。神道を仰てぬかづき奉る。地実大君の御代なれや。シテいろ香うつろふ蝶鳥の、立舞ふかけも神風に。同時の調子のかなてこそ、有難かりける御霊の神楽「楽」。地頃は今。弥生しげるすべらきのく、実時めける音楽は、

シテ 春鶯轉の花の袖。地さすやかさしの数々に、

シテ 山は常盤の青幣。地庭は桜のしらにきて。シテとりくなれや小忌衣。地猶あし原の國民も、万歳をうとふ春の声。千秋のあきつ嶋、治る御代そめてたけれ、治る御代ぞ目出たけれ。

中入間

男 是は此辺に住ものニて候。今日は天気もうらゝに候間、そこ爰に詣、刀田山へ参ふつるにて候。や、見訓ぬ人の御入候。何方より

御出候ぞ。ワキ我は築紫のものニて候か、始て参り候。安田某に故有ものニて候。具平親王の御事、又追儺會の式、語て御聞せ候へ。男いかさま、我等か存申通り、只今爰にて申へし。

扨も、具平親王と申奉るハ、天徳年中播磨の國鎮の守として、天下り給ふに依て、大内村に殿造りし給ふ。御霊をは天王寺村におさめ、具勝明神と称し奉る。猶亦安田の鎮守は、吉道於地内に、具勝明神を勧請し、朝な夕な在が如く、御供を備へ、忠やかに仕しと也。又當山に於て、毎年正月八日、追儺會鬼面の式の時、安田吉太夫と申もの、鬼面の役を勤、刀田山より七度半の使を受罷出候。中にも希特成事ハ、追儺會の式に稲穂をなそらへ、三把拵へ、衆徒三人持玉ふ。是者早稲、中稲、晩稲の三把也。此穂を持祈念の中、自然と盛気相顕るゝあり、衰ふ気色見ゆる有。是を以富草の、出来不出来を知り、盛気の苗を以、其年の貢をなす。又壱人ハ、十二の燈をならへ、十二ヶ月に當、油とうしん不同なきよふにして照し候に、火気盛に成る有、又衰ふあり。其盛衰を以、月々の晴雨気候を知る便と成べしとて、近郷の老若翔集し、遠處のものハ聞傳て、其年の手當をはなすとかや。荒々斯のことく承傳へ候。猶安田の子孫、今に至て鬼面の役を勤申候。去間、近村の童子、安田某を鬼吉太夫と申候。荒不思儀や、明神の森に當て音楽の、聞へ候ハ、正しく御霊の顕れ給ふと存候。我等は御暇申候べし。重て寄特を御待候へ。是より後シテの出羽にかゝる

于時
文政十一戊子歳

三木住
安田方實

（貼紙）

「刀田山　中寺什物

他所へ御貸候共早々御取かへし可被成候」

四　鶴林寺縁起　（冊一二二）

敬白

播州鷲林寺聖霊院縁起

右當寺者用明天王二年歳次丁未于時太子十六歳三月上旬従磐余池邊雙槻宮一有二臨幸一而建二立精舎一住持三寶令二念願一之處俄洪水出而材木數多流来是名二自然流来霊木一于時聚二國民一而令レ取二積之一其高如レ山此所名号二小山一則仰二秦川勝一令レ守二護之一仍彼所名曰二木守一精舎建立霊現出現之間太子生二歓喜心一聚二國中之工匠一而以二此灵木一建二立三間四面之精舎一手自刻二彫釋迦三尊四天之像一内陣四本柱圖二繪八大童子之形一去敏達天王十四年乙巳冬十月依二弓削物部臣等悪逆一被レ流二遣於山城國上狛下狛一令レ招二請於恵便法師一調二供養軌儀一為二住持僧寶一矣雖レ然吾朝佛法流布盡未来際永劫不絶之段成不未定之間召二下於吳徳博士一散華焼香祈二誓三

寶ニ令レ占ニ於佛法興行立不ヲ之處ニ佛法護持多門天從レ地涌出ス太子奉ニ拝レ之ヲ則チ太子与毗沙門蜜通言語餘人争知ヤ其ノ意趣ヲ云云不可思議之奇特未曽有之勝瑞何事如レ之乎 太子 即日佛殿ノ左方壁板ニ下ニ震筆ヲ圖ニ繪シノ彼時之躰ヲ将タ伽藍ノ四邊ニハ奉レ埋ニ四 大天王之形 躰ヲ示シ結界守護之誓ヲノミ表ニ常住不懐(マヽ)之志ヲ耳抑タ此所ヲ号ニ刀田ヲ故者敏達天王十二年癸卯自ニ百濟国ヲ来 朝日羅奉ニ拝レ太子ヲ露ニ顕ノ本地ヲ之後欲レ帰ニ本國ニ太子頻リニ有ニ御留ヲ雖レ然強チ逃下之 時 太子為メニ留レ之現ニ神力ヲ而以ニ數万之刀ヲ逆様ニ立ニ置於當所之地ニ給フ時日羅大ニ怖畏シ而従ニ此處ヲ立返テ奉ニ拝スト太子ヲ云云 然則チ利生方便之春花ノハ久シテレ匂ヒ而テ馥リ尊崇之窓ニ伽藍洪基之秋菓ノハ速ニ熟テ而結フ渇仰之梢ニ焉嗚呼言語道断而非ニ脣吻ノ所ニ及乎尋レハ其本地ヲハ者救世観音也謂ヘハ其垂迹ヲ者吾カ朝王子也 百濟國日羅

礼文曰

敬礼救世観世音　傳燈東方粟散王

従於西方来誕生　開演妙法度衆生

貴哉仰ニ彼灵徳ヲ者現世所求皆成就信ルニ此神力ヲ者ハ當来ノ願望悉ク圓満スク宜奉レ渥ミニ救世觀音之悲願ヲ奉レ仰キニ聖徳太子之霊徳ヲ者也仍注ニ舊記ヲ旨大略所録縁起如レ件

大寶二年歳次壬寅　二月廿二日　沙門聖乗敬白

朝弼書之

鶴林寺史料目録

凡例

一　当寺既存目録では所蔵史料を、㈠　文書の部、　㈡　冊子の部、㈢　地図、　㈣　西園寺関係文書、の四項に分類しているが、今回、そのとき整理されなかった木札・棟札等、同寺塔頭（宝生院・浄心院）架蔵の文書、その他も加え、全体を、一　文書の部、二　冊子の部、　三　西園寺関係文書、　四　塔頭文書、　五　絵図、　六　棟札・銘文、　七　雑、　に分類した。但し銘文のうち、石塔類は中世のものに限った。

一　史料目録の記載は、1表題、2（内容）、3写であれば〔写〕、4作成者又は差出人・宛名、5作成年次、6数量、7整理番号、の順に従った。7整理番号は既存目録に記されたものを尊重した。

一　表題は、近世文書については原史料の題名をとったが、題名を欠くものについては（内容）で示した。

一　（内容）には、史料の意味内容の要約のほか、備考的なものも含む。なお、表題によってその史料の内容が明らかな場合は、これを省略した。

一　写であることが明瞭な場合に限り、〔写〕と記した。

一　作成者又は差出人・宛名については、できるだけ簡単な形で記した。

一　作成年次は、年号のない場合の他は干支を省略した。

一　二　冊子の部、　三　西園寺関係文書、　四　塔頭文書、　五　絵図、　六　木札・銘文、　七　雑、の整理番号については、便宜、整理番号の上にそれぞれ「冊」、「西」、「宝」・「浄」、「図」（既存目録では「地」）、「銘」、「雑」の文字を冠した。

一　数通の文書が一括されながら、整理番号が分散しているものについては、＊、＊＊の記号を付して示した。

以上

一　文書の部

大法師某・左衛門尉平某浮免寄進状　文永五年一〇月五日　一　一
長田三郎景資仏像・下地寄進状　文明一五年一二月五日　一　二
山名政豊禁制（木札）　文明一六年八月　一　三
塩田有政大般若経寄進状　文明一九年卯月一四日　一　四
鶴林寺聖霊会々式（折紙）　明応四年二月九日　一　五
津田家職折紙　天文一〇年二月三日　一　六
安宅冬康禁制（木札）　天文二三年一一月四日　一　七
池田勝正禁制　永禄一二年正月　一　八
池田勝正禁制写（木札）　永禄一二年正月　一　八―一
織田信長禁制朱印状　永禄一二年三月　一　九
織田信長禁制写（木札）　永禄一二年三月　一　九―一
某禁制写（木札）　天正六年三月　一　九―二
織田信長禁制写（木札）　永禄一二年一〇月一四日　一　一〇
信直禁制　天正六年五月一七日　一　一一
羽柴秀吉禁制　天正六年三月二五日　一　一三
羽柴秀吉禁制写（木札）　天正六年三月二五日　一　一三―一
豊臣秀吉禁制写（木札）　一　一三―二
某禁制　天正六年六月　一　一三
羽柴秀吉判物　天正八年九月朔日　一　一四
実善書状（折紙）　天正一〇年正月二〇日　一　一五
赤松政村書状　一一月一三日　一　一六
角田佐家・浦上国秀連署折紙　一二月一二日　一　一七
梶原景□書状　六月二六日　一　一八
黒田職隆書状（折紙）　一一月二日　一　一九
小寺祐隆書状（折紙）　正月二二日　一　二〇
杉原家次書状（折紙）　八月二九日　一　二一
政宗書状案（折紙）　一〇月一〇日　一　二二
豊臣秀吉朱印状　一〇月一五日　一　二三
梶井宮令旨　七月二七日　一　二四
元長折紙　二月一二日　一　二五
泰興書状（折紙）　六月二三日　一　二六
某書状　七月二二日　一　二七
小田盛次書状（折紙）　三月二日　一　二八
増田長盛書状（折紙）　三月三日　一　二九
中春安・下村久次連署書状（折紙）　一二月一二日　一　三〇

掟状之事（鶴林寺衆議掟状）　慶長三年一〇月吉日　一　三一
（松平玄隆折紙）　松平武蔵守玄隆（池田利隆）より鶴林寺宛　慶長一八年一二月二五日　一　三二
（朱印状写）〔写〕　鶴林寺宛　元和三年九月一一日　一　三三
（病気見舞御礼等の書状）　津田三碩より鶴林寺惣中宛　九月晦日　一　三四
（朱印状写及朱印状目録・元和三年九月一一日より万延元年九月一一日迄）〔写〕　一一　三五
（朱印状写）〔写〕　鶴林寺宛　寛永一三年一一月九日　一　三六
播州刀田山衆中被仰出之条々（旧宗復興に付門主仰出趣）　常照院・寒松院より刀田山住侶宛　万治三年一一月二六日　一　三七
掟播州刀田山（輪王寺宮よりの台門行事条々）　住心院・園覚院より刀田山惣中宛　寛文二年四月一一日　一　三八
掟（輪王寺宮よりの台門行事条々）〔写〕　住心院・園覚院より刀田山惣中宛　寛文二年四月一一日　一　三九
刀田山鶴林寺永代宝物（津国玉作信蓮社覚誉崇輪よりの寄進物目録）　口称念仏行者崇輪より刀田山惣中宛　寛文一三年応鐘月二二日　一　四〇
（大坂医師津田三碩薬師堂建立願に付書状）　住心院・円覚院より増位山・書写山宛　卯月二〇日　一　四一
奉納重物之事（慈眼院所持重物奉納に付）　慈眼院津田三碩弟子九名より鶴林寺八坊出家衆中宛　延宝八年三月八日　一　四二
（扇子持参に付礼状）　榊原刑部大輔政房より刀田山谷坊宛　三月二三日　一　四三
（扇子持参の礼及び家督相続に付）　榊原刑部大輔政房より東円坊宛　六月四日　一　四四
（当山再興に付）　南光房以下六名より刀田山学侶中宛　七月二七日　一　四五
本寺書出シ之事（法度遵守等誓約）〔写〕　宝生院等九名より宗門奉行宛　宝永六年八月　一　四六
仏損次第（薬師座像・月光立像・毘沙門・伊多天破損箇所）　一　四七
覚（朱印高諸役御免許相違なきに付）〔写〕　真光院より京都町奉行宛　享保六年六月　一　四八
（朱印高雛形）　何国何郡何村何宗何寺より奉行宛　享保六年何月　一　四九
以書付奉願口上覚（播州六山祈祷大般若会に付挨拶）　八徳山・妙徳山・普光寺より刀田山惣中宛　享保七年極月　一　五〇

差上申一札之事（浜宮天神・刀田山兼帯の訴訟に付）　一　五一
口里村安田村庄屋より奉行所宛　享保八年一一月
（鶴林寺内人数書出断り）　刀田山年行事浄心院より　一　五二
勘定所宛　享保一一年一〇月
（常憲院七回忌追善に付）　霊山院・真覚院　午七月　一　五三
二二日
乍恐書付を以御訴訟申上候事（浜宮社領年貢押領に　一　五四
付）　浜宮別当梅松院・刀田山惣代理教房より寺社奉行宛
元文三年一二月
一札（山海田畠の産物菓子類売買の仰承知に付）〔写〕　一　五五
刀田山年行事宝生院より領奉行所宛　寛保二年
覚（古分銅再改につき廻文の趣承知）　鶴林寺惣中より　一　五六
寛保三年六月
指上申願書之事（光明院より理教房不届の申立ある　一　五七
に付）鶴林寺六院より滋賀院留主居法印宛　延享三年九月
（朱印状写）〔写〕　延享四年八月一一日　一　五八
（朱印状写）〔写〕　延享四年八月一一日　一　五九
一札（光明院米不納に付寺領相渡一札）　光明院より　一　六〇
惣中宛　延享四年九月
差上申願書之事（小安村高に付）〔写〕　刀田山惣中　一　六一
より寺社役所宛　寛延二年三月
指上申一札之事（ひち門徒に付宗旨改め一札）　一　六二
龍禅院・光明院・浄心院・宝生院・慈恩院・真光院・普賢
院・持善院より宗門奉行所宛　寛延三年九月
乍憚口上書御願申上候事（法器荘厳紛失に付）　刀　一　六三
田山惣代年行事宝生院より寺社奉行所宛　寛延四年閏六月
指上申願書之事（小安村高に付）　刀田山惣中より寺　一　六四
社奉行所宛　宝暦元年極月
御断申上候事（如意寺浄泉院弟子実範の光明院弟子　一　六五
入りに付控）〔写〕　刀田山惣中より寺社奉行所宛　宝暦
三年二月
御願申上候事（一切経蔵経供養法会の為笠請芝居興　一　六六
行許可願）〔写〕　刀田山惣中より寺社奉行所宛　宝暦
四年閏二月
指上申願書之事（浄応房母病気に付葬儀願）　吉田屋　一　六七
清兵衛・炭屋喜八郎より刀田山惣中宛　宝暦四年一二月一
五日
一札（病気に付実範へ寺院相続願）　光明院舜正より　一　六七
刀田山惣中宛　宝暦五年一二月
御断申上候事（光明院舜正病気に付弟子実範に寺領　一　六八

付属願）　刀田山年行事宝生院より寺社奉行所宛　宝暦五年一二月　一　六六
覚（人別改）　鶴林寺より宗門奉行所宛　宝暦六年五月一五日　一　六七
御願申上候事（新開芝地買請分検地赦免願控）　刀田山惣中豊田半弥宛　宝暦六年一一月　一　六八
（若殿着城祝儀献上の為登城許可願控）〔写〕　光明院より宗門奉行所宛　宝暦八年三月　一　六九
御伺申上候事（若殿へ祝儀献上の為登城伺控）〔写〕　刀田山惣中より寺社奉行所宛　宝暦八年三月　一　七〇
差上申御請書之事（地所猥りに寺院へ寄附する事停止の触書請書）〔写〕　鶴林寺八院より寺社奉行所宛　宝暦一二年三月　一　七一
覚（郡切人別改）　鶴林寺より宗門奉行所宛　宝暦一二年閏四月　一　七二
（朱印状写）〔写〕　宝暦一二年八月一一日　一　七三
覚（慈覚大師九百年御忌法会に付捧納金受取覚）　宝暦一三年二月一四日　一　七四
御断申上候事（光明院病気に付朱印を慈恩院へ渡され度件の断書）　刀田山鶴林寺より寺社奉行所宛　宝暦一三年一二月二一日　一　七五
掟（輪王寺一品親王の厳命による掟書）〔写〕　源信解院大僧都守玄・大覚王院大僧都慈秀より刀田山惣中宛　明和四年二月　一　七六
掟（輪王寺一品親王厳命による掟書）　源信解院大僧都守玄・大覚王院大僧都慈秀より刀田山惣中宛　明和四年二月　一　七七
覚（郡切人別改）　鶴林寺より宗門勘定所宛　明和五年六月　一　七八
指上申御断書之事（葵御紋使用に付控）〔写〕　刀田山鶴林寺より寺社奉行所宛　明和五年九月　一　七九
覚（郡切人別改）〔写〕　鶴林寺より宗門奉行所宛　明和五年　一　八〇
借用申金子之事（江府より御召の旅用金借用）　口里村九郎右衛門より刀田山年行事龍禅院宛　明和六年六月一〇日　一　八一
差上申一札之事（本寺庭前水茶屋建設に付）　安田村藤八より刀田山惣中宛　明和六年六月　一　八二
御断申上候事（宝生院弟子了盛真光院住職兼帯に付断控）〔写〕　刀田山惣中・同山宝生院より寺社奉行所宛　一　八三

明和六年一〇月　一　八六
指上申一札之事（梅松院・尾上住吉大明神訴訟出入に付）　浜宮天神別当代刀田山浄心院より奉行所宛　天保一一年八月　一　八七
書付以御断申上候事（網代輿使用寺院無きに付断書控）〔写〕　鶴林寺惣代真光院より大坂町奉行所宛　明和七年二月二九日　一　八八
書付以御断申上候事（色衣・網代乗物許容願）　刀田山惣代真光院より大坂町奉行所宛　明和七年二月　一　八九
書付以御願申上候事（梅松院江戸表下居に付印形指延願）　刀田山惣代真光院より大坂町奉行所宛　明和七年二月　一　九〇
御断申上候事（参勤の御目見に付登城伺）　刀田山年行事真光院より宗門奉行所宛　明和七年三月二〇日　一　九一
指上申口上書之事（本寺内某寺網代輿乗物使用許可に付指上控）〔写〕　刀田山惣代真光寺より寺社奉行所宛　明和七年三月　一　九二
御願申上候事（太子御自作身像開扉の札立願）〔写〕　刀田山惣中より寺社奉行所宛　明和八年一二月　一　九三
御断申上候事（太子自作御身像開扉の件に付控）〔写〕　惣中より寺社奉行所宛　明和八年一二月　一　九四
書付以御願申上候事（殿様御逝去に付牌前一礼仕度願）　刀田山惣中より宗門奉行宛　明和九年九月六日　二　九五*
（尾上出入之儀内済に付書状）　密厳院貫純・真如院覚印より刀田山惣中宛　八月九日　一　九六
（浜之宮との金子出入に付書状）　宝勝院貫純より梅松院宛　一二月四日　一　九七
（聖徳太子一千百五十年御忌法事執行・自作植□之太子令開張に付寄付を募る口演）　刀田山年行事真光院・会行事龍禅院より春之新辺大工諸職人衆中宛　正月一〇日　一　九八
指上申覚書之事（殿様帰城に付献上物書上控）〔写〕　刀田山惣中より宗門奉行所宛　安永二年七月　一　九九
御伺申上候事（殿様御入部に付登城伺）〔写〕　刀田山惣中より寺社奉行所宛　安永二年一〇月　一　一〇〇
書付以御届申上候事（秋葉権現の祭礼に子供花相撲興行の届控）〔写〕　刀田山惣中より寺社奉行所宛　安永三年七月二二日　一　一〇一
一札之事（西国修行中忰喜太郎病死に付葬儀願）〔写〕　因州石井郡西場村辰右ェ門より刀田山役寺宛　安

永三年七月二四日　一　一〇三

奉指上御届書之事（浜宮別当梅松院一件に付）　宝生院より大坂奉行所宛　安永三年八月五日　一　一〇三

乍恐口上（浜宮梅松院一件に付）　宝生院より奉行所宛　安永三年八月六日　一　一〇四

乍恐口上（太子御影及寄付に付）　宝生院より奉行所宛　安永三年八月二五日　一　一〇五

奉指上御届書之事（浜宮梅松院一件に付）　宝生院より奉行所宛　安永三年八月　一　一〇六

以書付御願申上候事（伽藍修復及太子報恩会費用に付）　刀田山惣代浄心院より宗門奉行宛　安永三年八月　一　一〇七

乍恐口上（太子御影報恩会に付）　宝生院より奉行所宛　安永三年九月八日　一　一〇八

書付以御願申上候事（伽藍修復頼母子に付）〔写〕　刀田山惣代宝生院より宗門奉行所宛　安永四年五月二四日　一　一〇九

書付以御願申上候事（刀田山御開帳に付）　刀田山年行事宝生院より宗門奉行所宛　安永五年二月　一　一一〇

修覆願書入（包紙）　一　一一一

乍恐口上（浜宮普請に付）〔写〕　梅松院・惣中より執当宛　正月一七日　一　一一一

以書付御願申上候事（刀田山伽藍修復に付）〔写〕　刀田山惣中より宗門奉行所宛　安永五年一〇月　一　一一一二

乍恐御願奉申上候事（七宮神殿及刀田山伽藍修復に付）〔写〕　梅松院・宝生院より執当中宛　安永七年正月六日　一　一一一三

書付以御願申上候事（刀田山本堂修復費用幷人足に付）〔写〕　刀田山惣代宝生院より宗門奉行所宛　安永六年八月　一　一一一四

（伽藍修復に付礼状）〔写〕　とた山惣中より覚□法印宛　正月一五日　一　一一一五

御願申上候事（刀田山伽藍修復に付）　安永六年六月　一　一一一六

内々御伺申上度重書（伽藍修復費用充当に付）〔写〕（本堂修覆費用に付願書・一部）　一　一一一七

御届申上置候事（刀田山寺領に付）　宝生院　一　一一一八

乍恐書付を以奉願上候（伽藍修復費に付助力願）〔写〕　刀田山鶴林寺講中惣代・一山惣代より滋賀院役所宛　安永七年正月　一　一一一九

一札之事（刀田山修復に付本山への願出費用負担承諾一札）　藤江村伊藤徳兵衛他三名より刀田山鶴林寺宛　安永七年二月　一　一一二三

譲申田畑之事　浄心院他四名より大坂井筒屋吉兵衛宛　安永七年二月　一　二四

乍恐以書付奉願上候（伽藍造営費用割当に付）〔写〕　刀田山惣代宝生院・真光院より寺社奉行所宛　安永七年閏七月　一　二五

乍恐以書付奉願上候（伽藍造営費用割当に付）　刀田山惣代真光院より寺社奉行所宛　安永七年閏七月　一　二六

乍恐以書付奉願上候（伽藍造営に付播州一国勧化願）　刀田山惣代真光院より寺社奉行所宛　安永七年閏七月（八月一二日と訂正）　一　二七

乍恐以書付奉願上候（伽藍造営に付勧化願）　刀田山惣代真光院より寺社奉行所宛　安永七年八月一二日　一　二八

放手形之事（僧快周住山地変更に付）　田富山行事より刀田山行事所宛　安永七年　一　二九

書付以御届申上候事（宝生院長吏就任に付）〔写〕　刀田山宝生院より宗門奉行所宛　安永八年一一月九日　一　三〇

御断申上候事（真光院深応山門惣心院へ弟子入に付）　刀田山惣中より宗門奉行所宛　安永九年四月　一　三（表）

（印鑑届出に付口上書写）〔写〕　惣中　一　三（裏）

覚（鶴林寺人別改に付）　鶴林寺より宗門奉行所宛安永九年五月晦日　一　三三

差出申願書之事（光明院弟子大進の一山宗旨帳面よりの除名願状）　光明院より惣中宛　安永一〇年四月　一　三三

御届奉申上候口上之覚（宝生院了盛の無住真光院転住に付）〔写〕　刀田山真光院より宗門奉行所宛　天明四年二月　一　三四

以書付御届申上候事（紛失物届）〔写〕　真光院より奉行所宛　天明五年四月　一　三五

以書付御願申上候事（伽藍修復助成に対する祈祷に付）〔写〕　刀田山惣代真光院より宗門奉行所宛　天明五年一一月　一　三六

御届奉申上候口上覚（浄心院住持真慶の実印改届に付）　浄心院住持真慶より奉行所宛　天明五年一一月　一　三七

以書付御届申上候事（無住光明院・慈恩院への僧転住に付）〔写〕　浄心院・宝生院より宗門奉行所宛　天明五年一一月九日　一　三八

指上申一札（当山御開帳に伴う芝居興行許可に付）　勧進元安田村孫右衛門等三名より鶴林寺御行事所宛　天明六年三月　一　三九

指上申一札（当山御開帳に伴う芝居興行許可に付）

勧進元加東郡北野村八蔵等二名より鶴林寺年行事所宛　天明六年三月　一　一三〇

覚（鶴林寺人別改覚）〔写〕　鶴林寺より宗門奉行所宛　天明六年五月一七日　一　一三一

覚（鶴林寺人別改覚）〔写〕　鶴林寺より奉行所宛　天明六年六月　一　一三二

口上之覚（先住隠居跡目に付届）〔写〕　刀田山浄心院住持周慶・年行事宝生院より奉行所宛　天明七年七月　一　一三三

乍恐奉願上候事（当山伽藍大破に付修復助成願）　刀田山慈恩院・光明院・浄心院・宝生院・真光院より宗門奉行所宛　天明七年八月　一　一三四

乍恐御内々弁書（刀田山勧化に付）〔写〕　御領中大庄屋より御月番内藤弥十郎宛　天明七年九月　一　一三五

（当山諸堂修復勧化御免に付書状）　刀田山会行事・執行事より御領中大庄屋役所・町方役所宛　天明七年一〇月　一　一三六**

以書付御届申上候事（当山普賢院無住に付比叡山宝積院弟子昌純入院届）〔写〕　刀田山惣中・同年行事宝生院より宗門奉行所宛　天明八年　一　一三七

以書附御願申上候事（御祈祷札献上に付）　浜之宮別当真光院より宗門奉行所宛　天明八年一二月　一　一三八

御窺申上候事（山城国紀伊郡稲荷社勧化順行に付地所借用願）　天明九年一二月　一　一三九

以書付御届申上候事（真光院修復用材に浜之宮松枯木使用に付）〔写〕　浜之宮別当代浄心院より宗門奉行所宛　天明三年　一　一四〇

書附以御願申上候事（伽藍大破修復に付）　一　一四一

（刀田山本堂建立に付書状）　宝勝院豪桓より真光院宛　九月一六日　一　一四二

奉願上口上覚（当山諸堂大破に付勧化色衣着用願）　一　一四三

乍恐口上（伽藍破壊修復に付勧化願）　刀田山真光院・惣代宝生院より松平右見守役人中宛　八月　一　一四四

（諸堂・自坊等再建勧化に付書状）〔写〕　三光坊　五月　一　一四五

乍恐奉言上候（刀田山諸堂再建勧化に付）　刀田山惣代龍禅院・宝生院より執当中宛　一　一四六

（諸堂伽藍修復勧化に付書状）〔写〕　八月　一　一四七**

覚（材木代覚）　一　一四八**

（勧化集銀相渡状）　新野部村世話人より浄心院・真光院宛　卯一一月　一　一四九

奉願口上之覚（三重宝塔修復願）　一　一五〇

（宝塔普請上棟案内に付書状）　刀田山執行事より今田佐五郎等四名宛　四月四日　一　一五一

（宝塔普請上棟案内に付書状）　刀田山執行事より稲屋村等十三ケ村村役人中宛　四月五日　一　一五二

（刀田山諸堂社并自坊再建勧化に付書状）　宝勝院豪桓より真光院宛　五月一〇日　一　一五三

（勧化色衣着用許容に伴う冥加内々献上に付書状）　宝勝院より真光院宛　三月二日　一　一五四

（諸堂社修復に付表色衣着用許可願）　刀田山惣代真光院　三月　一　一五五

（表色衣許容願に付書状）　宝勝院より地蔵院宛　五月一〇日　一　一五六

（表色衣許容願に付書状）　松高院より宝生院・浄心院宛　四月二日　一　一五七

（表色衣許容に付書状）　安住院照恭より遺教院宛　三月四日　一　一五八―一

（表色衣許容に付書状）　遺教院より真光院宛　四月一日　一　一五八―二

（表色衣永代使用成し難きに付書状）　松高院より真光院宛　一二月二一日　一　一五九―一

（表色衣永代使用成し難きに付書状）　松高院より遺教院宛　一二月二一日　一　一五九―二

（表色衣永代使用成し難きに付書状）　遺教院より真光院宛　一二月二八日　一　一五九―三

（表色衣許容願一件に付書状）　遺教院より真光院宛七月五日　一　一六〇

覚（表色衣許容に付御礼献上覚）　法華山何院より真如院宛　一　一六一

（表色衣許容願書状）　覚成院より浄心院宛　一一月九日　一　一六二*

（表色衣許容通知の書状）　圓妙房より浄心院宛　一一月九日　一　一六三*

（表色衣許容に付書状）　仏頂院・本覚院より覚成院宛一〇月二一日　一　一六四*

（薬師講集会案内状）　刀田山執事中より法華山惣中・教信寺惣中宛　四月一四日　一　一六五

（薬師講集会に付書状）　刀田山執事中より法美山惣中・教伝寺惣中・三輪多介宛　三月一四日　一　一六六

（薬師講集会に付書状）　刀田山執事中より法美山惣中・教伝寺惣中・三輪多介宛　四月三日　一　一六七

回章（薬師講集会に付）　刀田山大会所真光院より法華山惣中他二三名宛　三月一〇日　一　一六八**

乍恐御伺奉申上候（稲荷社惣代の勧物取集に付）刀田山惣代真光院・浄心院より奉行所宛　寛政元年三月　一　一六九

乍恐御伺奉申上候（一六九下書）　寛政元年三月　一　一七〇

送り手形之事　比叡山執行代雙厳院より刀田山役僧中宛　寛政二年四月　一　一七一

口上書（生国年令御改に付）　刀田山執行事宝生院より宗門奉行所宛　寛政二年五月　二　一七二

以書付御届申上候事（真光院へ弟子入室に付）〔写〕　真光院・宝生院より宗門奉行所宛　寛政二年五月　一　一七三

覚（鶴林寺人別改に付）〔写〕　鶴林寺より宗門奉行所宛　寛政四年六月八日　一　一七四

奉指上断書（鶴林寺人別改に付）〔写〕　刀田山執行事宝生院より奉行所宛　寛政四年九月　一　一七五

（鶴林寺人別改に付）〔写〕　鶴林寺より奉行所宛　寛政四年九月　一　一七六

（浜之宮神殿再建に付届）〔写〕　真光院より宗門奉行所宛　寛政六年一一月　一　一七七

（観音寺再建に付届）〔写〕　浄心院代真光院より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一七八

口上覚（細田村観音寺再建に付）〔写〕　宝生院代浄泉房より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一七九

（自坊本堂庫裏再建に付届）〔写〕　真光院より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一八〇

（刀田山本堂屋根普請延引に付届）〔写〕　惣代真光院より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一八一

（浜之宮天神社再建に付届）〔写〕　真光院より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一八二

（刀田山本堂普請に付届）〔写〕　惣代真光院より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一八三

口上覚（刀田山本堂他寺中普請に付）〔写〕　惣代真光院より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一八四

口上覚（出坂留守中の役に付）〔写〕　真光院・宝生院より宗門奉行所宛　寛政六年閏一一月　一　一八五

一札之事（借用銀返済延引に付）〔写〕　黒茶屋丹蔵より真光院宛　寛政七年七月　一　一八六

奉願口上（在町弁松平左兵衛佐領分での勧化に付）真光院より宗門奉行所宛　寛政七年八月　一　一八七

奉願口上（本堂修復材木に付）　真光院より宗門奉行所

宛　寛政七年八月　一　一八八
奉願口上覚（黒茶屋一件に付）　真光院より宗門奉行所宛　寛政七年一〇月　一　一八九
奉願口上（本堂修復勧化に付）　惣代真光院より宗門奉行所宛　寛政七年一一月　一　一九〇
奉願口上（判替に付）　真光院より宗門奉行所宛　寛政八年一〇月　一　一九一
覚（御添翰等申請に付）　真光院より宗門奉行所宛　寛政八年一〇月　一　一九二
覚（御添翰申請に付）　真光院より宗門奉行所宛　寛政八年一〇月　一　一九三
御届奉申上候事（真光院判替に付）　真光院より宗門奉行所宛　寛政八年一〇月　一　一九四
（寛政八年一一月二〇日より諸々掛合書等以下二三通入袋）　執行事龍禅院周盛　一　一九五―一
覚（掛銀受取覚）　福勝寺より刀田山執事龍禅院宛　辰一一月三〇日　一　一九五―二
葛鼓張様伝書　元和三年卯月　一　一九五―三
（忌明に付挨拶書状）　高須兵次より真光院宛　七月五日　一　一九五―四
（山門より回文に付書状）　渕照寺より刀田山宛　辰一一月二九日　一　一九五―五
（叡山御触書持遣に付書状）　渕照寺より刀田山執行事宛　五月一九日　一　一九五―六
備後山口大学希一墓碑文写〔写〕　寛政八年霜月　一　一九五―七
（三斗二升の覚）　北安役所より刀田山御役寺宛　辰二月　一　一九五―八
（大坂番所御朱印改触書の常光寺請取入）　天明七年　一　一九五―九
覚（大坂番所触書請取）　常光寺より刀田山浄心院宛　天明七年四月一三日　一　一九五―一〇
覚（大坂番所触書請取）　常光寺より刀田山浄心院宛　天明七年四月二九日　一　一九五―一一
覚（大坂番所触書請取）　常光寺より刀田山浄心院宛　天明七年七月二三日　一　一九五―一二
覚（大坂番所触書請取）　常光寺より刀田山浄心院宛　天明九年正月二一日　一　一九五―一三
大坂番所触書請取覚書式　一　一九五―一四
（浄心院寺地焼失に付書状）　覚成院・宝勝院より刀田山惣中・浄心院宛　三月一一日　一　一九五―一五
覚（東叡山御廻章等請取）　広嶺山月番所より御執行

事所宛　巳年九月二九日　一　一九五―一六
（殿様御参府御祝儀に付心得の触）　大家町大庄屋所より庄屋中宛　閏四月一〇日　一　一九五―一七
奉願口上（上坂御添翰に付）　龍禅院・普賢院より宗門奉行所宛　寛政八年九月　一　一九五―一八
送手形之事　江州比叡山執行代より刀田山役僧中　文化五年四月　一　一九五―一九
銀四百五分覚　会本より刀田山分　一一月二一日　一　一九五―二〇
壱匁八分の覚　源兵衛より刀田山宛　巳年正月二七日　一　一九五―二一
油帋包請取覚　津国屋重太郎より真光院宛　巳年六月二七日　一　一九五―二二
覚（大阪番所触書請取）　常光寺より刀田山龍禅院宛　巳年五月一三日　一　一九五―二三
（送手形以下二通入包紙）　比叡山執行代（天明八年三月）　一　一九六―一
送り手形之叉　比叡山執行代延命院より刀田山役僧中宛　天明八年三月　一　一九六―二
引越手形之事　東叡山執行代より刀田山役僧中宛　寛政九年一一月　一　一九六―三
引越手形之事　清水寺目代全性院より刀田山御執司所宛　寛政九年一二月　一　一九七
乍恐奉願上候（本堂修復に付）　刀田山惣代真光院より宗門奉行所宛　寛政一〇年三月　一　一九八
乍恐奉言上候（浜之宮天神并刀田山本堂再建の勧化に付）　刀田山惣代より楞伽院法印・功徳院法印宛　寛政一〇年八月　一　一九九
乍恐口上（本堂修復に付長崎勧化巡行願）〔写〕　真光院より楞伽院法印宛　寛政一一年六月　一　二〇〇*
請雨修行差定　会行事　寛政一一年七月　一　二〇一
（御蔵米返済延引に付願）　一　二〇二
御届奉申上之事（観音寺は除地に非ざるに付）〔写〕　宝生院より円覚法印・楞伽院法印宛　文化元年八月九日　一　二〇三
一札（弟子引越に付）　紀州浜中湯照院より刀田山執行事所宛　文化三年九月　一　二〇四
送手形之事　比叡山執行代より刀田山役僧中宛　文化五年四月　一　二〇五
譲渡申御田地之事　寺家町組加古彦太郎より刀田山惣中宛　文化五年四月　一　二〇六
口上覚（梅松院印形の儀に付）　宝生院より宗門奉行宛　文化六年二月　一　二〇七
御拝借銀之覚〔写〕　宮西村源兵衛より刀田山真光院宛

文化一〇年一一月　一　二〇八
借用申銀子之事〔写〕　北在家村一学より三木平山町福田屋八郎兵衛宛　文化一〇年一二月　一　二〇九
借用申銀子之事〔写〕　光明院・浄心院・宝生院・持善院より北在家村一学・同武右衛門宛　文化一〇年一二月　一　二一〇
預り申銀子之事　半田村百姓より惣中宛　文化一二年六月　一　二一一
預り申銀子之事　口里村百姓より惣中宛　文化一二年六月　一　二一二
預申銀子之事　宝生院より惣中宛　文化一四年五月　一　二一三
奉願上口上覚（聖徳皇太子千二百回忌法事に付開帳願）〔写〕　衆徒惣代宝生院より宗門奉行所宛　文政元年一〇月　一　二一四
口上覚（聖徳皇太子千二百回忌開帳年月日に付）〔写〕　宗門奉行所宛　文政元年一〇月　一　二一五
口上覚（聖徳皇太子千二百回忌開帳の五札に付願）〔写〕　文政元年一〇月　一　二一六
口上覚（聖徳皇太子千二百回忌開帳の五札に付願）　町方役所宛　文政元年一一月　一　二一七
御拝借口上書之事（善光寺如来出開帳に関する拝借蔵米返納に付）　宗門奉行所宛　文政三年四月　一　二一八
御拝借口上書之事（善光寺如来出開帳に関する拝借蔵米返納に付）〔写〕　宗門奉行所宛　文政三年四月　一　二一九
預申銀子之事　新野辺村銀主預主等より明石無量光寺宛　文政三年一二月　一　二二〇
伝教大師一千年忌御香資献上受取并行光坊普請奉納之受取入（以下三通入包紙）　一　二二一
（マヽ）捧納之事（開山大師千年御忌に付奉納落手）　四谷会行事より刀田山惣中宛　文政四年五月　一　二二一-一
覚（開山大師千年御忌に付奉納落手）　法会会行事執行代より刀田山惣中宛　文政四年五月　一　二二一-二
覚（当宝勧物銀落手）　行光坊用部屋より刀田山惣中宛　文政四年六月九日　一　二二一-三
御窺奉申上候事（両上様へ御祝儀金献納に付伺）　真光院より宗門奉行所宛　文政六年正月　一　二二二
弟子送り一札之事　明石郡宝福寺より刀田山行事所宛　文政七年二月　一　二二三
有信講掛銀請取覚　行光坊役人より刀田山宛　文政七年四月　一　二二四
（神祇道講解巡回に付達）〔写〕　宗門改所より御着組

以下一二組宛　文政一〇年九月二〇日　一　三三五
預申銀子之事　真光院・浄心院より布屋善兵衛宛　天保二年四月　一　三三六
覚（大歳氏関係金銭に付）　天保二年七月　一　三三七
覚（銀札請取）　大歳吉左衛門より刀田山宛　天保二年一〇月八日　一　三三八
覚（米代銀請取に付）　大歳吉左衛門より刀田山宛　天保三年一二月　一　三三九
御朱印畝高明細書三通入（以下四通入包紙）　一　三四〇
（松平玄隆折紙）〔三の写〕　松平武蔵守玄隆より鶴林寺宛　慶長一八年一二月二五日　一　三四〇―一
御朱印御高余与申儀御尋ニ付申上候事　龍禅院より宗門奉行所宛　天保五年三月　一　三四〇―二
覚（寺領田畑高書上）〔写〕　一　三四〇―三
元文五年算用之節安田村半大夫・同村左内両人間寺仕置申候（田畑略図面）　鶴林寺大衆判　元文五年一一月二八日　一　三四〇―四
御朱印御領主ゟ御渡之儀記録（以下一三通入袋）
惣代宝生院盛隆　天保一一年一二月七日
先触（御朱印状道中差支無き様依頼）　刀田山役者より加古川宿ゟ姫路宿迄駅所井川方役人宛　子年一二月五日　一　三四一
（万福寺勧化御免の回章に印形押達に付注意）
住心院鈴明・信解院慈巽より刀田山行事浄心院宛　三月二一日　一　三四一―二
覚（御朱印請取の節役料受取に付）　井上真十郎より宝生院宛　一二月一四日　一　三四一―三
覚（酒料等受取に付）　井上真十郎より宝生院宛　一　三四一―四
覚（朱印請取の節御茶料等請取）　井上真十郎より宝生院宛　一二月一四日　一　三四一―五
覚（朱印請取に付）　井上宛　一二月一四日　一　三四一―六
覚（金銭目録）　刀田山御用宛　子年一二月　一　三四一―七
覚（御朱印状渡等に付宗門改所等よりの達）〔写〕　一　三四一―八
大庄屋所より安田村庄屋宛　一二月三日
御朱印請取入用　子年一二月六・七日　一　三四一―九
宝生院分覚（入用覚）　一　三四一―一〇
（入用覚）〔写〕　三　三四一―一一～一三
（下馬札起立御尋に付返答の書状控）　刀田山執行事
宝生院より功徳院法印宛　天保一三年四月二七日　一　三四一*
弟子送り一札之事　明石実相院より刀田山宛　天保一四

年三月　一　二三三
（大御所様葬送に際し納経拝礼参府に付達）〔写〕
龍王院・功徳院より　二月一五日　一　二三四
文恭院様　御納経　諸記録　惣代真光院光盛　天保一二年
七月　一　二三五―一
法淡所御仮御霊屋御序之絵図（文恭院様御納経参
府の節）〔写〕　一　二三五―二
慎徳院様納経拝礼記録（惣代普光院記）　嘉永七年
正月　一　二三五―三
差入申一札之支（御山雑穀門前にて売買仰付けられ
るに付）　平野村布屋久治郎より刀田山惣中宛　弘化四年
四月　一　二三六*
差入申一札之事（雑穀御店銀に付）　布屋久治郎より
刀田山行事所宛　弘化五年正月　一　二三七*
乍恐奉差上願書之事（糀商売に付）〔写〕　新野辺組
北在家村糀屋惣代・庄屋等より伊田小右衛門役所宛　嘉永
四年四月　一　二三八
朱印状写〔写〕　安政二年九月一一日　一　二三九
家定公御朱印姫路城主ヨリ請取諸記録帳面入（袋）
惣代真光院光盛宛　安政四年正月二五日　一　二四〇
先触（御朱印状道中差支無き様依頼）　刀田山役者
より加古川宿ゟ姫路迄駅所并川方役人中宛　巳年正月二
三日　一　二四〇―一
覚（御朱印請取に付）　鶴林寺惣代より姫路宗門方役
所宛　文久二年三月六日　一　二四〇―二
覚（日雇賃金請取に付）　川西屋次郎兵衛より刀田山
役人衆中宛　巳年正月　一　二四〇―三
覚（御朱印関係金銭覚）　蝶屋利助より刀田山御用宛
七月　一　二四〇―四
覚（御祝儀受取に付）　加古川川役人より刀田山宛
安政四年正月二七日　一　二四〇―五
覚（御朱印請取の節御賄諸入用）　井上真十郎より
刀田山年行事宛　二月三日　一　二四〇―六
覚（御朱印関係金銭覚）　蝶屋利助より刀田山御用宛
正月二七日　一　二四〇―七
覚（御朱印受渡に付）　寺家町大庄屋より安田村庄屋
宛　正月一八日　一　二四〇―八
（宝塔修復に付披露案内の刀田山執行事書状）
善楽寺惣中他連名宛　四月　一　二四〇―九
乍恐奉願上候（表色衣着用願）　行事真光院より住心院

法印宛　安政五年一〇月　一　二四一

（御朱印請取に付達）　寺家町大庄屋より安田村庄屋宛　正月四日　一　二四二

往来手形一札之事　西宮円福寺より国々所々御関所村々町々役人中宛　万延元年閏三月　一　二四三

覚（御朱印請取）　惣代浄心院より姫路宗門方役所宛　文久二年三月六日　一　二四四

（勤王誓詞）　刀田山龍禅・持善・慈恩・浄心四院より池田図書之介・池田隼人宛　慶応四年二月　一　二四五

旧幕府朱印（目録）　惣代持善院より山門三執行代宛　慶応四年八月　一　二四六

乍恐奉願上候（刀田山一藹跡目に付）　光明・持善・浄心・慈恩院より仏頂院法印・真覚院法印宛　一　二四七

指上申御断書付之事（葵御紋使用に付）　鶴林寺より寺社奉行所宛　明和六年九月　一　二四八

（播磨国御料私領地方についての公事訴訟取扱管轄変更に付触書）〔写〕　飛驒・安房より加古郡村々宛　寅（享保七）年一一月二九日　一　二四九

口上之覚（稲荷社修復に付）　稲荷本宮惣代羽倉筑前介より真光院宛　戌年二月一八日　一　二五〇

（挨拶金に対する礼状）　松高院亮惇より真光院宛　九月一二日　一　二五一

先触（御朱印御下に付）　刀田山役者より加古川宿・姫路迄駅所并川方役人中宛　戌年三月四日　一　二五二

（備前国仏心津寺霊像に付礼状）　玄門智幽・霊空光謙より鶴林寺合衆中宛　一一月二九日　一　二五三

（厳有院三三回忌御経衆に付播磨国天台宗惣代寺院への回状）〔写〕　信解院・恵恩院より　辰年二月　一　二五四

（宝塔修復披露に付招待廻文）　刀田山執行事より長砂村等一六村役人中宛　四月五日　一　二五五

納経之覚（公方様御他界御葬送に付）〔写〕　播磨国天台宗諸惣代　八月　一　二五六

（絵図持参に付御用状）　宗門役所より宝生院宛　七月二三日　一　二五七

（登城に付御用状）　宗門役所より刀田山役僧中宛　七月一六日　一　二五八

（江戸表法事に付御用状）　寺社役所より刀田山宛　六月一〇日　一　二五九

覚（御朱印渡に付）　宗門役所より寺町大庄屋宛　二月二八日　一　二六〇

乍恐奉願上候覚（浜之宮天神社地幷社領に関する諸事の上訴に付）〔写〕　一一月　一　二六一

（梅松院一件に付書状）　覚成院考覚より刀田山惣中宛　四月　一　二六二

（将軍厄除祈祷に付達）　住心院より　一二月晦日　一　二六三

（葵紋着用に付達）〔写〕　一　二六四

（書状）　石田弥右衛門より宝生院宛　一〇月二五日　一　二六五

（銀子渡に付）　刀田山会所より伝次郎右衛門・清兵衛宛　一　二六六

（宮様御機嫌菓子料に付書状）　円覚院寂忍他一名より刀田山惣中・浜宮別当梅松院宛　閏六月一〇日　一　二六七

（年始祝儀に付書状）　信解院慈巽他一名より刀田山行事浄心院宛　三月一五日　一　二六八

（有信講に付書状）　行光坊義宥より刀田山浄心院主宛　四月四日　一　二六九

（銀子貸借に付書状）　孫左衛門・長兵衛より刀田山宝生院宛　八月五日　一　二七〇

覚（東叡山よりの廻文に付）　善楽寺行事所より刀田山行事坊宛　七月一三日　一　二七一

覚（茶代等に付）　清水屋武右衛門より刀田山真光院宛　亥年四月二七日　一　二七二

（将軍他界に伴う法事に付達）〔写〕　信解院・霊山院より播磨国天台宗六カ寺宛　一〇月一九日　一　二七三

（米通調印に付御用状）　宗門役所より刀田山行事宛　一一月四日　一　二七四

覚（御城御年礼参勤に付）〔写〕　刀田山年行事より御役所宛　亥年一二月　一　二七五

覚（酒肴等入用に付）　三月二七日　一　二七六

覚（銀子受取に付）〔写〕　新野辺大歳吉左衛門より刀田山惣中宛　卯年七月七日　一　二七七

覚（銀子受取に付）　大歳吉左衛門より龍禅院宛　丑年一二月一五日　一　二七八

（御朱印受取行列次第）〔写〕　一　二七九―一

（御朱印受取行列役負担者覚）〔写〕　一　二七九―二

（修善院と四山との件に付書状）　銘鶴寺行事原亮より刀田山行事宛　卯月一三日　一　二八〇*

（金子送付に付書状）　刀田山惣中より覚成院法印宛　四月二三日　一　二八一*

京都河原殿焼失に付見舞状・随宜楽院宮薨去ニ付悔状（以下三通入包紙）　一　二八二*

（禁裏御所准后河原御殿焼失に付見舞金献上の書

状）二月一六日　二　二六二・一・二*

（随宜楽院宮薨去に伴い香具金献上に付書状）

刀田山執行事宝生院より執当中宛　七月二八日　一　二六二・一・三*

（年頭御祝儀献上に付覚）　刀田山惣中より在年行事所宛　巳年一二月一一日　一　二八三

（菅原朝臣宗秀和歌写）〔写〕　一　二八四

乍恐奉差上御伺書之事（北在家村糀商売に付）〔写〕

北在家村糀屋惣代市兵衛他三名より　明治二年正月　一　二八五

（管領三門跡令旨）　管領執事より刀田山鶴林寺宛　明治四年正月　一　二八六

二　冊子の部

鶴林寺々領田目録　永正一二年八月　一　冊一

塩田浄観寄進下地帳　永正一二年八月　一　冊二

鶴林寺々新田惣目録　天文三年八月　一　冊三

刀田鶴林寺御検地帳　慶長六年九月二〇日　一　冊四

刀田寺領分名寄帳　慶長七年九月吉日　一　冊五

法隆寺々辺斑鳩宮聖徳太子之御堂再興之勧進帳　勧進沙門法隆寺私喜坊　寛永九年正月　一　冊六

太子堂上葺再興勧進帳　寛永一九年八月　一　冊七

刀田山寺領分名寄帳　寛文二年霜月　一　冊八

刀田山寺領分名寄帳　寛文二年霜月　一　冊九

刀田山寺領名寄帳（元禄四年一二月一一日写）　寛文二年霜月　一　冊一〇

本願寺系図　願光寺宣栄　元禄一四年一一月二八日　一　冊一一

新堂護摩料之田地書物之事　刀田山鶴林寺惣中　延宝八年八月七日　一　冊一二

溝野口組小安村水帳　小安村庄屋武右衛門　享保二年三月　一　冊一三

御朱印御改書付之写（御朱印改につき口上）〔写〕　鶴林寺惣代龍禅院より諏訪肥後守御役人中宛　享保三年二月　一　冊一四

触書覚（享保四年朝鮮人来朝御入用に付）〔写〕　享保六年五月　一　冊一五

寺家町組小安村明細帳　庄屋藤次郎・寺中龍禅院他七院　元文二年　一　冊一六

播州刀田山惣中と同国東二見村長左衛門訴状返答并長左衛門誤證文之写〔写〕　長左衛門より東叡山御役所宛　元文二年八月六日　一　冊一七

御朱印記録　浄心院弘慶より御執当中宛　延享三年五月　一　冊一八
五箇井記録（播磨国加古郡平松五箇之井堰由来）〔写〕　荒重門　明暦三年一〇月　一　冊一九
五箇井来由記　荒重門　明暦三年一〇月　一　冊二〇―一
五箇井記録　井堰所并水掛高書上帳〔写〕　井頭九右衛門・宗左衛門より御堰所御役所宛　宝暦七年九月　一　冊二〇―三
一山分有銀帳（宝暦一二年以来年々奉納御本尊有銀之覚・御本尊借用之覚）　明和四年一一月　一　冊二一
刀田山御尊領入附帳　荒井村支配人源左衛門　明和五年正月　一　冊三
諸堂修覆願書并諸記録〔写〕　安永三年八月一三日　一　冊三
刀田山鶴林寺由緒書之事〔写〕　安永四年五月　一　冊三四
（酒井雅楽頭領分播州加古郡小安村寺社書上帳控）　安永四年七月　一　冊三五
霊宝書〔写〕　慈恩院秀栄より奉行所宛　安永五年二月一四日　一　冊三六
寺社分限書上帳〔写〕　宝生院・梅松院より東叡山執当中宛　安永五年一〇月　一　冊三七
乍憚口上書之覚（明和六丑年浜宮尾上出入之後梅松院座席之事）〔写〕　刀田山惣中より覚成院法印宛　安永五年一〇月　一　冊三八
東叡山御執当所へ御覧入之写帳〔写〕　別当梅松院快旭より東叡山執当中宛　安永五年一〇月　一　冊三九
刀田山鶴林寺本堂修覆仕用帳控　戌年正月　一　冊三〇
御本尊分荒井新田御年貢算用帳（戌年～寅年）　支配人荒井綿屋源左衛門　天明三年三月　一　冊三一
惣大夫新田取米代銀請払帳（戌年～寅年）　新野辺村梅谷四郎三郎より刀田山年行事所宛　天明三年九月二六日　一　冊三二
鶴林寺堂塔修覆助成願〔写〕　刀田山願主宝生院・持善院・浄心院・真光院より宗門奉行所宛　天明五年正月　二　冊三三
棟数目録　刀田山惣代真光院　天明五年正月　一　冊三四
教訓十五箇條（烏丸光栄和歌教訓・資枝筆）　天明五年一〇月一三日　一　冊三五
本末書上帳（東叡山月光御門主末鶴林寺）　宝生院より東叡山御執当中宛　天明六年一〇月　一　冊三六
本末書上帳（控・東叡山月光御門主末鶴林寺）　宝生院より東叡山御執当中宛　天明六年一〇月　一　冊三七
御朱印御改記録（御朱院御改に付参府の覚）　惣代宝生院　天明八年正月　一　冊三八

御朱印用書（控）　鶴林寺より宗門奉行所宛　天明八年二月　一　冊三九

勧進帳　寛政元年初冬上旬　一巻　冊四〇

記録別渡帳（文書目録）　鶴林寺執行事　寛政二年霜月　一　冊四一

宗門御改帳（宗門改に付本寺書出之事）　鶴林寺衆徒より石田弥右衛門・米津一左衛門宛　寛政一〇年三月　一　冊四二

執行事廻帳（勤仕掟）　寛政一〇年一一月　一　冊四三

本尊薬師如来入仏開帳記　執行事宝生院誠盛　寛政一〇年〜　一　冊四四

（大坂願に付姫路への御添翰願并東叡山御声掛願記録）　寛政一一年八月　一　冊四五

永記録　寛政六年九月〜明治四年五月　一〇　冊四六

大坂山門東叡山御触書写帳（文明八年公儀御触書写・文政五年迄）　享和元年五月　一　冊四七

薬師講規定帳　文化元年六月　一　冊四八

播磨国加古郡加古庄浜之宮仮名付帳〔写〕　鶴林寺より勘定所宛　文化元年八月　一　冊四九

引渡改仮帳（明和七年より文化元年の文書目録）　執行事竜禅院　文化元年霜月　一　冊五〇

御尋ニ付書上申候（寺領境界に付）〔写〕　刀田山惣中より勘定所宛　文化三年極月　一　冊五一

播磨国郡村名仮名付帳（御朱印地）〔写〕　鶴林寺より勘定所宛　文化四年四月　一　冊五二

今福村氏宮八幡宮社人一件（御祓願上口上他）〔写〕　文化八年四月　一　冊五三

吉田家御役人江差上申候神社帳〔写〕　今福村・池田村庄屋より　文化八年三月　一　冊五四

御拝借米之事（本堂修理に付寛政八年より）〔写〕　行事宝生院　文化一二年極月　一　冊五五

三重之塔再建世話人講連名帳　文化一三年　一　冊五六

宝塔再建勧化帖　文化一五年二月　二　冊五七

再建三重之宝塔募縁之疏　文化一五年二月　一　冊五八

東叡山御觸写（戌二月二〇日より四月一三日迄）　一　冊五九

日光御門主様御上洛記〔写〕　惣代上京真光院　文政一一年一一月　二　冊六〇

御黒印写并境内間地帳（元和五年一〇月二二日より天保三年二月迄）〔写〕　浜之宮別当代刀田山宝生院　天保三年二月　一　冊六一

表色衣願書控（袋入）　天保三年二月　一　冊六二-一

永代表色衣御許容記録（袋入）　天保三年五月吉日　一　冊六二-二

播磨国加古郡之内郷村高帳〔写〕　鶴林寺より勘定所宛　天保三年一〇月　一　冊六三

播磨国加古郡之内郷村高帳〔写〕　鶴林寺より勘定所宛　天保三年一〇月　一　冊六四-一

播磨国加古郡之内郷村高帳〔写〕　鶴林寺年行事真光院盛隆代　天保四年六月　一　冊六四-二

乍恐奉差上返答書之事（常施餓鬼に付）〔写〕　刀田山浄心院檀家より宗門奉行所宛　天保六年一二月　一　冊六五

御本尊領収納帳　天保八年一一月吉日　一　冊六六

御朱印御書替諸記録控　行事長吏浄心院恵成　天保九年二月　一　冊六七

播磨国加古郡刀田山御朱印地書上帳〔写〕　鶴林寺　天保九年二月　一　冊六八

播磨国加古郡安間村之内御証文地書上帳〔写〕　浜之宮別当梅松院・刀田山浄心院　天保九年二月　一　冊六九

播磨国何郡何村之内御朱印地書上帳（雛形）　天保九年　一　冊七〇

御朱印姫路御城主より御渡之記録〔写〕　惣代宝生院盛隆代　天保一一年一二月七日　一　冊七一

宮様御上洛恐悦記〔写〕　惣代浄心院　天保一三年一〇月　一　冊七二

御朱印御書替諸記録控（四月より一〇月二八日迄）　一　冊七三

府惣代真光院光盛・執行事宝生院盛隆　嘉永七年六月　一　冊七三

御朱印高書上帳控　鶴林寺より宗門奉行所宛　安政二年一一月　一　冊七四

御朱印姫路御城主ヨリ御渡之記録〔写〕　安政四年正月二五日　一　冊七五

宗門人別増減御改帳　刀田山執行事光明院より宗門奉行所宛　安政五年三月　一　冊七六

御朱印御改記録（五月より一二月迄）〔写〕　総代真光院光盛　安政六年八月　一　冊七七

姫路御城主より御朱印御渡記録　浄心院・真光院　文久二年三月　一　冊七八-一

家茂公御朱印請取諸雑費控帳　浄心院・真光院　文久二年三月　一　冊七八-二

宗門御改帳（寺内人別改）　鶴林寺衆徒浄心院　圭芳以下一三名より原田九郎兵衛・青木平蔵・伊奈平八宛　元治二年三月　一　冊七九

昭徳院様御納経拝礼録〔写〕　慶応二年一〇月　一　冊八〇

宗門御改帳（寺内人別改）　鶴林寺衆徒浄心院　圭芳以

下一一名より伊奈平八・高須十左衛門・生形閏太郎宛　慶応三年三月　一　冊八一

宗門人別増減御改帳　刀田山執行事慈恩院　慶応三年三月　一　冊八二

諸堂社并寺院建物間数帳　刀田山惣中より大阪府裁判所宛　慶応四年六月　一　冊八三

御朱印写（台徳院より昭徳院迄一一通）　慶応四年八月　一　冊八四

慶応年中御触書写〔写〕　慶応年間　一　冊八五

覚書（天正八年九月秀吉寄進状の他朱印状・掟・法度等）〔写〕　一　冊八六

（明和七年当山普請より寛政八年一一月普請迄の旧録控）　一　冊八七

刀田山鶴林寺由緒寺格〔写〕　御殿代御出張所宛　一　冊八八

覚（寺数人数調につき寺社奉行よりの触書写他）〔写〕　一　冊八九

諸要書控（寺請に関する雛形）　一　冊九〇

（何国何郡何郷何庄何村仮名他帳他）　享和三年六月　五　冊九一

（東叡山より仰出され候条制写）　住心院・信解院　一〇月一一日　一　冊九二

公儀御触書写（雛形）　一　冊九三

（長昌院五〇回忌に付東叡山触書の写）　辰年一一月　一　冊九四

（大御所様薨去に付納経・東叡山より触書の写）　六月一七日　一　冊九五

（社寺本末帳雛形）〔写〕　七月　一　冊九六

年中行事（正月～一二月の一覧）　一　冊九七

鶴林寺諸堂間数覚控　戌年正月　一　冊九八

（鶴林寺各坊畝高帳）　五　冊九九

東海道日光迄人馬駄賃帳　一　冊一〇〇

（出銀帳）〔写〕　一　冊一〇一

覚（神社帳差上に付）　一　冊一〇二

米通（刀田山、小参事間）　庚午年一〇月　二　冊一〇三

（聖徳太子絵伝及び鶴林寺草創縁起に関する草稿）　一　冊一〇四

宗門人別増減御改帳　刀田山執行事より宗門奉行所宛　明治元年一〇月　一　冊一〇五

宗門御改帳　都筑清左衛門・吉田孫右衛門宛　明治元年一〇月　一　冊一〇六

角力諸入用控　明治三年二月二三日　一　冊一〇七

畝高小前帳　明治四年八月　一　冊一〇八

刀田山鶴林寺元御朱印上ケ地畝高小前帳　小安村　明治四年八月　一　冊一〇九

刀田山鶴林寺元朱印上地畝高小前帳　小安村　明治四年八月　一冊二〇

神社御布告　佐々木氏より　明治四年六月　一冊二一

山門ゟ諸寺院江触書写　三執行代・宗務庁・大学頭探題前大僧正より　明治五年七月一六日　一冊二三

（小安村鶴林寺領反別等上り帳写）　明治五年一〇月　一冊二三

取調書（鶴林寺由緒・建物・宝物等書上）　明治二一年以後　一冊二四―一

取調書（鶴林寺由緒・建物・宝物等書上）〔写〕　幹圭忍他より兵庫県知事周布公平宛　明治二八年六月二四日　一冊二四―二

本堂修繕入仏供養諸入費記載帳　明治三九年五月　一冊二五

信州善光寺如来就出開帳諸入用帳　寛政五年七月二七日　一冊二六

本尊開帳諸方医師幷諸職人書状披露名前控帳　寛政一一年三月一八日　一冊二七

東都下向□□（東都下向出銭覚書）　天保三年正月　一冊二八

大坂山口東台御触書之写　天保一五年正月吉日　一冊二九

薬師如来講式（声明業清浄金剛宗淵）　嘉永六年　一冊三〇

（盆石の件に付惟□（輔カ）奉書）　持明院亜相公宛　（元禄一五年）二月二六日　一通　冊三一―一

（盆石仙洞御覧一件に付書状）　元禄一五年二月二六日　一通　冊三一―二

播州鶴林寺聖霊院縁起〔写〕　沙門聖乗　大宝二年二月二三日　一巻　冊三三

（番匠縁起）　天通一林入通藤原朝臣　一巻　冊三三

瀟湘八景　一巻　冊三四

三　西園寺関係文書

西園寺様記録（寄付に付）　西園寺殿より　寛政一二年一一月吉日　一　西一

（諸堂社修復料に付西園寺家奉書）　西園寺殿御家芦田珍賢・西村正邦より刀田山衆徒中宛　寛政一一年三月　一　西二

書状（刀田山什物琵琶御所望に付御寄付の事）　西村勘解由判官正邦・芦田下総守珍賢より　庚申年八月　一　西三

（御寄附に付西園寺家奉書）　藤井丹後守文宜・西村出羽守正邦・芦田下総守珍賢より真光院惣塔中御房宛　寛政一二年九月　一　西四

（西園寺家奉書）〔写〕　寛政一二年九月　一　西五
連署書状（御祝詞として例年の通日銀一両御献上）
藤井尚弼・芦田珍敬・井上正文より真光院御房宛　九月二三日　一　西六―一
（鶴林寺との文通に付西園寺殿書記所よりの申入）
西園寺殿書記所より真光院御房宛　九月二三日　一　西六―二
（年始御礼詞の進物礼状）　浜崎・井上・芦田より真光院御房宛　三月五日　一　西七
（年頭御祝儀の進物礼状）　藤井文宜より真光院御房宛　正月一八日　一　西八
（年始御祝詞の進物礼状）　藤井文宜より刀田山惣代浄心院御房宛　二月一八日　一　西九
（年始御祝詞の進物礼状）　井上・幸前・芦田より真光院御房宛　二月一五日　一　西一〇
（有栖川宮御末男御元服に付）　芦田・幸前・井上より真光院御房宛　一一月朔日　一　西一一
（八朔御祝詞の進物礼状）　井上・芦田より真光院御房宛　八月一〇日　一　西一三
（西園寺家御寄附紫羽二重御幕寸法に付）　藤井・西村・芦田より真光院御房并衆徒中宛　寛政一二年一〇月　一　西一三
（御寄附金に付書状）〔写〕　西園寺殿御使武田造酒・酒井雅楽頭殿宛　一一月五日　一　西一四
（西園寺殿役所書状）　真光院・住心院宛　一一月二七日　一　西一五―一
（西園寺殿役所書状）　真光院・住心院宛　正月一三日　一　西一五―二
（書状）藤井掃部より慈恩院宛　二月四日　一　西一六―一
（書状）加藤采女より慈恩院宛　二月六日　一　西一六―二
（書状）加藤采女より　二月七日　一　西一六―三

四　塔頭文書

○宝生院文書

聖護院准三宮御教書　宝生院御房宛　永禄四年閏三月二四日　一　宝一
輪王寺一品宮令旨（木蘭色衣着用に付）　宝生院教盛宛　宝永元年六月朔日　一　宝二
青蓮院宮令旨（三条袈裟に付）　宝生院成盛宛　寛政一〇年一二月朔日　一　宝三

三部都法大阿闍梨職印可状　宝生院周盛宛　文化九年九月二八日　一　宝四

延暦寺根本如法堂僧綱職補任状　真盛宛　文政七年八月四日　一　宝五

竹内宮御室令旨（三緒五条袈裟着用に付）　真光院宗盛宛　文政八年一〇月　一　宝六

輪王寺准三宮令旨（宝生院木蘭色衣着用に付）　天保三年四月　一　宝七

三部都法大阿闍梨職印可状　真光院光盛宛　安政四年九月二一日　一　宝八

青蓮院令旨（三緒五条袈裟に付）　真光院純盛　文久二年九月三〇日　一　宝九

輪王寺准三宮令旨（真光院木蘭色衣着用に付）　慶応元年閏五月　一　宝一〇

追善文（享保二年往生長吏教盛没後百年忌に付）　一　宝一一

寺請一札之事　文政八年九月　一　宝一二

人別放手形之事　天保四年正月　一　宝一三

人別放手形之事　天保四年正月　一　宝一四

人別請取手形之事　天保四年正月　一　宝一五

人別請取一札之事　天保四年正月　一　宝一六

人別請込手形之事　天保四年正月　一　宝一七

改寺請込一札之事　天保一〇年正月　一　宝一八

改寺証文請取　嘉永七年正月　一　宝一九

往来一札之事　安政六年二月　一　宝二〇

奉公人請状之事　文久元年一一月　一　宝二一

過去帳（天台沙門実海述叙）　永正一一年　一　宝冊一

過去帳（寛文年間以後）　一　宝冊二

歴代過去帳　平願山観音寺・真光院長吏□盛□（円）　文化一三年正月　一　宝冊三

過去帳　一　宝冊四

過去帳（明治七年以後）　一　宝冊五

東照権現公十五条付厳有院様御条目〔写〕　一　宝冊六

台宗僧侶経歴衣躰記　享和二年二月二三日　一　宝冊七

行法口決・渓嵐拾葉集〔元治二年三月七日写〕　延暦寺沙門亮忍　一　宝冊八

声明本（版本〔折本〕・伽陀、和讃等）　一　宝冊九

神明三元五大伝神妙紀　一巻　宝冊一〇

謡本「安田吉道」　三木住安田方実　文政一一年　一　宝冊一一

天保奇談雑聚〔天保一三年七月一一日写〕　一　宝冊一二

花術草木養之巻　一　宝冊一三

姫路領加古郡石守組野村野新村五人組御改帳　天保三年九月　一　宝冊一四

播磨国加古郡池田村新田検地帳　天保七年四月　一　宝冊一五

刀田山鶴林寺修正会法事之作法（宝生院教盛法印書写）　元禄一一年正月一二日　一　宝冊一六

人別御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺より勘定所宛　宝暦六年五月　一　宝冊一七

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より小笠原新兵衛・藤本二助宛　嘉永三年四月　一　宝冊一八

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より豊田権右衛門・藤本二助宛　嘉永五年三月　一　宝冊一八―一

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より小笠原新兵衛・荒木卯之蔵宛　嘉永六年　一　宝冊一九

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より宗門奉行小笠原新兵衛・原田藤右衛門宛　嘉永七年三月　一　宝冊二〇

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より荒木卯之蔵・斎藤八百太夫宛　安政三年四月　一　宝冊二一

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より原田藤右衛門・深瀬磯太夫宛　安政四年三月　一　宝冊二三

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より藤本二助・河合惣兵衛宛　安政五年三月　一　宝冊二四

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より藤本二助・河合惣兵衛宛　安政六年三月　一　宝冊二四

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より原田藤右衛門・深瀬磯太夫宛　万延元年三月　一　宝冊二五

宗門御改帳（鶴林寺中改控）　鶴林寺塔頭八院より河合惣兵衛・伊奈平八宛　文久三年三月　一　宝冊二六

宗門御改帳（袋のみ）　慶応二年三月　一　宝冊二七

五人組御改人別増減帳（新野辺組池田村）　池田村組頭・庄屋・大庄屋より荻原小佐久宛　天保九年　一　宝冊二八

○浄心院文書

（刀田山二藹慈恩院良栄木蘭色衣一代着用免許に付准三宮一品親王令旨）　霊山院慈泉・真覚院最妙より正徳三年五月一日　一　浄一

比叡山延暦寺三部都法大阿闍梨職之事　山門行光坊已講法印大僧都智観より（刀田山僧万栄宛）　宝暦一一年一〇月一六日　一　浄二

三緒五條袈裟之事（播磨国長光寺法印権大僧都広弁木蘭色衣終身着用免許に付青蓮院宮令旨）　寛政一二年一〇月一二日　一　浄三

（刀田山三鵜慶弁木蘭色衣　一代着用許可に付輪王寺一品大王令旨）　大覚王院大僧都願海・大恵恩院大僧都深信より　文化一一年六月　一　浄四

（恵慶木蘭色衣　一代着用許可に付輪王寺一品大王令旨）　深信解院大僧都慈巽・十住心院大僧都鈴明より　文政七年七月　一　浄五

五　絵　図

（鶴林寺諸院室所領田配置図）　一　図一

（鶴林寺境内、屋敷地弁手作地等図）　一　図二

（鶴林寺境内、屋敷地弁手作地等図）〔図二の写〕　一　図三

（鶴林寺境内略図）　一　図四

（鶴林寺鳥瞰図）　一　図五

六　棟札・銘文

木片銘　弘長三年二月二七日　一　銘一

太子堂屋根板墨書銘　正中三年　一　銘二

宝篋印塔銘文　暦応二年三月八日　一　銘三

太子堂懸仏銘　康暦元年八月五日　一　銘四

大講堂宮殿棟札　応永四年卯月一五日　一　銘五

法華経板木銘　応永一〇年卯月　一　銘六

山王社棟札銘　応永一三年卯月二〇日　一　銘七

木札片銘　正長元年八月一九日　一　銘八

聖徳太子絵伝箱書　宝徳二年二月　一　銘九

太鼓胴板銘　寛正二年二月一九日　一　銘一〇

文書櫃底書　天文二二年　一　銘一一

護摩堂棟札銘　永禄六年卯月中旬　一　銘一二

常行堂東北隅鬼瓦篦書銘　永禄九年二月吉日　一　銘一三

丸瓦篦書銘　永禄九年二月中旬　一　銘一四

丸瓦篦書銘　□□九年二月吉日　一　銘一五

丸瓦篦書銘　永禄九年三月　一　銘一六

太子堂漆塗机朱書銘　天正四年二月吉日　一　銘一七

二王門棟札銘　寛文一二年霜月吉日　一　銘一八

闔衆中禁制札　延宝七年正月　一　銘一九

山王社棟札銘　元禄九年三月吉日　一　銘二〇

南大門棟札銘　元禄一〇年四月五日　一　銘二一

鐘楼堂柱墨書銘　元禄一一年三月八日　一　銘三
鐘楼堂棟札銘　元禄一一年麦秋一八日　一　銘三
観音堂棟札銘　宝永八年四月三日　一　銘四
本堂薬師如来尊像再興札銘　正徳五年八月吉祥日　一　銘五
本堂大棟雁振箆書銘　天明五年　一　銘六
本堂西南化粧隅木側面墨書銘　寛政九年三月吉日　一　銘七
本堂大棟東方獅子口箆書銘　寛政九年夏　一　銘八
大講堂棟札銘　寛政九年一一月七日　一　銘九
医王善逝秘法修法札銘　寛政九年一一月吉日　一　銘一〇
本堂大棟獅子口側面箆書銘　寛政九年　一　銘一一
大般若経転読札銘　寛政一二年一〇月吉日　一　銘一二
圓頓章版木入箱底書　寛政一二年一二月　一　銘一三
仁王門棟札銘　文化九年六月戊子　一　銘一四
安鎮秘法修法札銘　文化九年六月大吉日　一　銘一五
天台両祖師版木入箱墨書　文政一二年四月　一　銘一六
不動護摩供修法札銘　明治四年正月大吉日　一　銘一七
本堂棟札　明治三七年一二月吉日　一　銘一八
懸仏銘　一　銘一九
瓦箆書銘　一　銘二〇

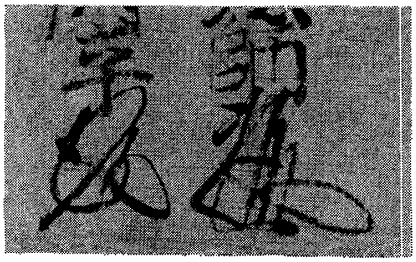
七　雑

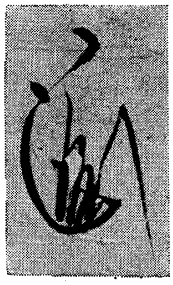
宗門御改帳（刀田山鶴林寺衆徒宗門改）　鶴林寺衆徒より豊田権右衛門・大塚吉左衛門宛　嘉永二年三月　一　雑一
宗門御改帳（刀田山鶴林寺衆徒宗門改）　鶴林寺衆徒より深瀬磯太夫・利根川彦兵衛宛　文久二年三月　一　雑二
宗門御改帳（鶴林寺衆徒宗門改）　鶴林寺衆徒より伊奈平八・高須十左衛門宛　慶応二年三月　一　雑三
鶴林寺諸堂間数覚控（諸堂修復に付）　戊年正月　一　雑四
（宗門奉行宛普請届・朱印書に付奉行宛願雛形・延享四年八月二日朱印写）　一　雑五
六道講式　一　雑六
播州刀田山鶴林寺（版木刷物）　聖霊院大□□より　宝永二年後春　一　雑七
（「元禄年中以来当山請雨秘法日記」・嘉永六年「請雨結願届等控」等）　明和八年八月　一　雑八
太子御親仏添触願控　講中惣代・一山惣代より流賀院殿役人中宛　安永七年二月　一　雑九

宮様御上洛記録　宝生院　天明六年三月　一　雑二九
表色衣一山惣檀中割合銀控　天保三年一一月　一　雑一〇
法華三昧差定　会行司より　弘化二年二月二一日　一　雑一一
法華三昧差定　会行司より　嘉永三年二月二一日　一　雑一三
法華三昧差定　会行司より　嘉永四年二月二一日　一　雑一四
法華三昧差定　会行司より　嘉永五年二月二一日　一　雑一五
法華三昧差定　会行司より　安政五年二月二一日　一　雑一六
法華三昧差條　会行司より　丑年二月二一日　一　雑一七
（大猷院時代御朱印状写）〔写〕　元和三年九月一一日　一　雑一八
（御朱印写）　寛永一三年一一月九日　一　雑一九
（厳有院時代御朱印状写）〔写〕　寛文五年七月一一日　一　雑二〇
（常憲院時代御朱印状写）〔写〕　貞享二年六月一一日　一　雑二一
（御朱印写）　享保三年七月一一日　一　雑二二
（御朱印写）　延享四年八月一一日　一　雑二三
（御朱印写）　宝暦一二年八月一一日　一　雑二四
（光明院普請に付絵図）　寛延四年正月　一　雑二五
（寺引直の儀に付書簡）　観行院より持善院宛　二　雑二六
北野天満宮御詠　庚午年春　一　雑二七
伽藍修復願書（袋）　安永三年　一　雑二八
（神社帳写・口上書控其節一件書及書状包紙）　文化八年四月　一　雑二九
（蔵米上納に付断簡）　文化頃　一　雑三〇
御料供米上納年限相立候承御尋ニ差出申候帳面書付入（包紙）　宝生院より　文政一二年一二月　一　雑三一
（断簡）　小野村組頭・庄屋・大庄屋より下田武七郎役所宛　万延二年二月　一　雑三二
（一都染村大工彦右衛門等の名記載・断簡）　一　雑三三
御朱印御改記録入（袋又は包紙）　一　雑三四
古文書写入（袋）　一　雑三五
三重宝塔再建勧化帖　一　雑三六
（書状包紙断簡）　一　雑三七
（本堂修復関係文書・包紙）　一　雑三八
誓状（包紙）　刀田山鶴林寺より　一　雑三九
御状拾五通（包紙）　一　雑四〇
太閤様御墨印（包紙）　一　雑四一
弘慶師寄附田反別帳入（袋）　一　雑四二
御□□（代々カ）御他宗御触書（袋断簡）　一　雑四三
（書状包紙）　真光院御房より藤井因幡守宛　一　雑四四
（諸国勧化等〔横帳より分離〕）　三　雑四五
請雨願文　導師圭忍　明治三三年七月四日　一　雑四六

5

4


3 2


1

10 9

8

7

6

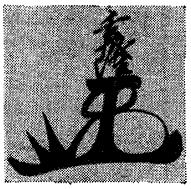
15

14

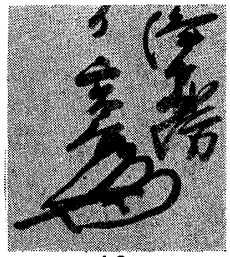
13

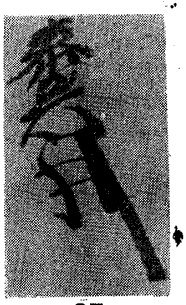
12

11


22

21 20 19 18 17


16


27

26

25

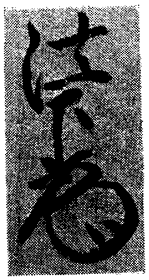
24

23

33

32

31


30

29

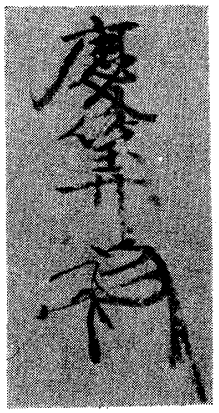
28

38

40 39

37 36

35 34


41

鶴林寺諸院室所領田配置図（図一）